

第八回  
万引に関する全国青少年意識調査  
分析報告書

平成 25 年 6 月

調査：特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

協力：文部科学省・警察庁



## ごあいさつ

ここに平成 24 年度に実施した「第八回 万引に関する全国青少年意識調査」に関する報告書をお届け致します。

平成 17 年度に始まったこの調査も 8 年目を迎えました。「青少年の万引」に注目し、毎年 1 万人以上の調査が連続で行っているということは世界にも例を見ない調査研究であると自負しています。この調査研究が可能となったのは、特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構（万防機構）の会員各位、警察庁生活安全局少年課及び各都道府県警察関係者、文部科学省初等中等教育局児童生徒課及び各都道府県教育委員会等教育関係者各位のご協力によるものであります。ここに深くお礼を申し上げます。

青少年の万引は減少してきているとはいえ、平成 24 年の認知件数は 25,649 件にもなっており、青少年の犯罪の中で最も多いのです。このことを忘れず、青少年の将来を考えながら、対処していかなければなりません。

本調査報告書の第 5 章に述べられているように、誰しも万引は不正であるという「規範的知識」はあるのですが、その知識から、「万引などはしない」という実際の行為の発動につながる「規範意識」が欠如していることが問題なのです。この「規範意識」を育むには、規範的知識を具現化する、内面からの動機づけが必要不可欠です。重要なことは、権威によって法律や道徳を強制するだけでなく、本人みずからが進んで社会規範の必要性を考え、行動する機会を家庭教育、教育現場、地域社会のさまざまな営みの中で、大人たちが働きかけ続けることが大切であると考えます。

この報告書が、大人が何をしないといけないかを考える参考になれば幸いです。

平成 25 年 6 月

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構  
理事長 河上 和雄



## 目 次

序章 本調査のねらい	1
1. 本調査の目的	1
2. 本調査の方法と特徴	1
3. 調査項目の変更とその成果	2
第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度	4
1. それぞれの事柄の満足度	4
2. 満足度の小間間の相関	7
第2章 万引に対する基本的意識	9
1. 万引に対する自分の考え	9
2. 他の非行と比べた場合の万引に対する意識	11
3. 万引をしてはいけない理由	13
4. 万引をする理由	15
第3章 万引との関わり	18
1. 万引に誘われた経験の有無	18
2. 万引に誘われたときの対処	20
3. 店員として万引を目撃した場合の対応（中高生のみ）	23
4. 万引しやすい店を知っているか（中高生のみ）	24
5. 万引しやすい店の種類（中高生のみ）	25
第4章 万引少年に対する対応	27
1. 店は警察に通報すべきか（中高生のみ）	27
2. 「そう思わない」の理由（中高生のみ）	28
3. 日頃の保護者の対応	30
4. 万引後の保護者と子どもの対応（中高生のみ）	33
5. 万引をしなくなるための対策	36
6. 効果的だと思う万引対策—店舗編—（中高生のみ）	38
7. 効果的だと思う万引対策—学校・警察編—（中高生のみ）	39

第5章 規範意識の育成という課題	41
1. 本調査結果は万引防止対策に活用できるのか	41
2. 規範的知識と規範意識	41
3. 規範意識の育成	43
4. 新たな課題への挑戦	44
5. むすび	44
まとめ ー調査結果の概要ー	46
調査票 小学生用	49
調査票 中高生用	52
結果の集計表	56
結果の集計表（順位相関表）	84
全国万引統計	93
東京都万引統計	94
あとがき	95

## 序章 本調査のねらい

### 1. 本調査の目的

本調査の目的は、「万引犯罪に対する青少年の意識を、全国統一の調査票によって把握することによって、年代別・男女別・地域別分析等の基礎データを得るとともに、行政・警察当局が防犯施策、青少年団体、街の防犯ボランティア活動に資すること」（「第1回調査結果・分析報告書」）にある。

### 2. 本調査の方法と特徴

本調査は質問紙法に基づくアンケート調査である。調査対象校のサンプリングには「全国学校総覧 2013年版」を台帳として、全国の小学校、中学校、高校の中から各47校、合計141校を無差別に抽出し、各学校の教室単位に調査票を配布した。調査の依頼に当たっては、あらかじめ調査票送付のほぼ10日前までに、主意書・調査票サンプル・参考資料等を全対象校に送付して予告を行った。同時に、各都道府県教育委員会には、文部科学省より調査の趣旨・目的等の通知をしていただき、調査に対する協力を依頼した。調査期間は平成24年12月から平成25年2月末までであった。

調査対象者	対象校	回答校	調査票数	回収数	回収率
小学校5年	47校	41校	2,350票	2,334票	99.3%
中学校2年	47校	41校	4,700票	4,218票	89.7%
高校2年	47校	47校	4,700票	4,971票	105.8%
計	141校	129校	11,750票	11,523票	98.1%

送付した調査票セットは、担任教師により、教室内で対象児童生徒に配布された。調査票は無記名で、回答者自身が回収用の封筒に入れ、糊付けして担任に提出した。総回収率は11,523票、回収率は98.1%である。なお、回収率の計算では、調査対象予定者数以上に予備票（各校20票）を使って回答した学校が複数あったため、高校では100%を超えている。

本調査の回収率は全体として極めて高い。各都道府県教育委員会及び調査票を受け取られた各小中学校のご協力の賜である。関係者のご厚意に心からの感謝の意を表明しておきたい。これは、万引犯罪に対する関係者全員の関心の高さであると言える。

本調査目的には年代別・男女別と並んで「地域別分析等」という表現がある。また本報告書には、必要に応じて地域別データへの言及が見られる。しかし、これまでの報告書でも触れたように、本調査の地域別データは各都道府県全体の青少年の意識を代表して反映しているわけではない。調査票の配布が各都道府県で、小学校、中学校、高等学校各1校に限られるからである。そのため、その1校の協力が得られなければ、その県について当

該学年のデータが得られない。今回の調査で協力を頂けなかったのは、小学校 6 県、中学校 6 県、高校 0 県である。

また、各県当たりの回収数に大きな差がある。小学校では最大 120 票—最小 29 票、中学校は最大 202 票—73 票、高校では最大 119 票—最小 76 票となっている。

したがって、回収票の分布には上記の二つの点で偏りがあるが、全体のデータとして、わが国における青少年意識調査として見るなら、こうした点は無視しても差し支えはないであろう。本調査の規模を考えると、さまざまな事情でこれ以上調査対象校を増やすことはできない。

### 3. 調査項目の変更とその成果

昨年の調査結果の分析を踏まえて、今回は特に大幅な調査項目の見直しを行った。その結果、今回（第 8 回）調査の主要な調査項目を以下のように決定した。前回調査（平成 24 年報告書）と今回調査でかなりの設問を削除・変更・追加したが、これは設問数を少数に精選したことと、日常生活との関連を含めて、可能な限り児童生徒による万引に対する意識の実態を把握するためである。

- ① 万引についてどのように考えているか
- ② 万引と他の禁止行為との比較—今回調査から全面的に修正追加
- ③ 万引をしてはいけない理由は何か—今回調査から追加
- ④ 万引をする理由は何か
- ⑤ 万引に誘われたことがあるか
- ⑥ 万引に誘われたらどうするか—第 6 回調査から追加
- ⑦ アルバイト店員として、子どもの万引を目撃したらどうするか—第 7 回調査から追加
- ⑧ 万引しやすい店を知っているか—第 7 回調査から追加
- ⑨ 万引をした子どもを捕まえた店は警察に通報すべきか
- ⑩ 万引をさせないための保護者の接し方—今回から追加
- ⑪ 万引をした子どもや保護者（親）はどのような償いをすべきか
- ⑫ 子どもが万引をしなくなるためにはどうしたらよいか
- ⑬ 万引をさせないための店の取り組みを知っているか
- ⑭ 万引をさせないための学校や警察の取り組みを知っているか
- ⑮ 日常生活における 7 種類の満足度評定—今回調査から追加

前回の調査から各設問について「ひとつだけ」を回答してもらい単一回答方式に改め、それまでの複数回答と回答パターンの一致が見られたため、単一回答方式による統計処理が大幅に改善できた。今回も単一回答方式を採用した。また、これも今回から導入した処理方法であるが、設問の一部には、順序尺度として成立する回答選択肢を作成して、順位



相関係数の算出を可能な限りおこなった。このことにより、設問間の全体的な関係性が見えてきた。

とりわけ、今回の調査で工夫した設問が二つある。一つは、問2で、万引と他の禁止行為との「悪さ」の比較判断を求めたことである。これによって、万引という行為の位置づけが明確となった。もう一つは、小学生の問9・中高生の問15で、日常的に判断している自己満足度（自分自身、学校、成績、保護者、友達など）の評定を求めたことである。これによって、自己満足度と他の設問との関わり合いが明確となった。その結果は本文をお読みいただきたい。

最後に、昨年も記載したが、本調査報告書における過去の調査結果に関する言及の仕方について述べておきたい。第1回調査が実施されたのは平成17年12月～平成18年1月であり、その調査結果は「万引に関する全国青少年意識調査報告書」（平成18年6月）として公表された。「年度」という表現を使うと、調査期間は平成17年度であり、その調査結果は平成18年度に報告された、ということになる。少々紛らわしいし、混乱の原因にもなりそうである。そこで、第7回の報告書からは「年度」という表現を使用しないことにして、たとえば、「第3回調査」もしくは「第3回報告書」（平成20年6月）という表記で統一を図った。

## 第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度

第1章では、自分の生活に関わる事柄についての満足度についての調査結果を報告する。この調査結果は、その他の質問項目への回答傾向との関係を見るべく、後の章で折にふれて言及されることになる。

### 1. それぞれの事柄の満足度

(小) 問9. あなたは問9-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。それぞれ次の数字(1～5)からひとつだけえらんでください。

(中高) 問15. あなたは問9-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。それぞれ次の数字(1～5)からひとつだけ選んでください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 「とても不満である」  | 2 「あまり満足していない」 |
| 3 「どちらでもない」   | 4 「まあまあ満足している」 |
| 5 「とても満足している」 |                |

(小) 問9-1. (中高) 問15-1. 自分自身について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-2. (中高) 問15-2. 自分の保護者について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-3. (中高) 問15-3. 学校での生活について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-4. (中高) 問15-4. 自分の成績について (1 2 3 4 5)

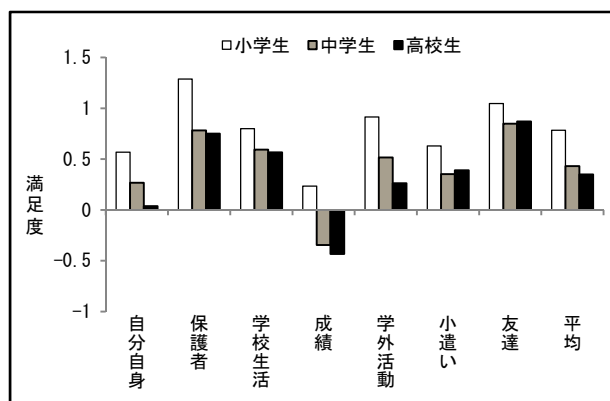
(小) 問9-5. (中高) 問15-5. スポーツや習い事など、学外での活動について  
(1 2 3 4 5)

(小) 問9-6. (中高) 問15-6. 自分の小遣いについて (1 2 3 4 5)

(小) 問9-7. (中高) 問15-7. 友達づきあいについて (1 2 3 4 5)

自分自身についてどのような評価をしているかに関する設問(7つの小問群)である。本設問は、万引等の非行に関する規範意識が、何らかの仕方で、小中高生の生活に関わる自己評価(満足度)と関係があるだろうという見込みから、今回調査より新たに設けたものである。すなわち、本設問の回答と他の設問の回答との関係を見ることで、自己に関わる事柄についての自己認識と、万引等の非行に関する規範意識との関係を見ることができると、という見込みをもって、本設問は作られている。今回の手法がどの程度そうした見込みに適うものたりえているかは、本報告書の内容全体を通じて検討されることになるだろう。そして、自分自身が各項目についてどうあると考えているか(自己認識)と、万引等の非行についてどのように振舞うべきであると考えているか(規範意識)との間に何らかの関わりがあるとすれば、万引等の非行についての教育の方針、内容等を検討する際には、少年の自己認識についても考慮される必要があるということになるだろう。

以下、7つの小問での満足度を比較するために、「とても不満」を-2、「あまり満足していない」を-1、「どちらでもない」を0、「まあまあ満足」を+1、「とても満足」を+2として、各小問での満足度評定の平均を示し、右端には7つの小問を合算したときの平均を示した。



なお、生活満足度の平均値の意味合いについて、以下の点に注意されたい。上記グラフの縦軸で、0は「どちらでもない」となり、プラスは満足している方向であり、マイナスは不満な方向となる。また、7項目全体の平均（図の右端）は、日常的な生活における満足度をあらわすトータルな指標として使うことができると考え、以下の章でも、生活満足度と呼ぶ場合は基本的に、この7項目を合算したときの平均を用いることにする。

### ■自分自身についての満足度

自分自身についての満足度平均は、小0.57、中0.27、高0.04であり、小学生における自分自身への満足度平均の高さと、高校生における自分自身への満足度平均の低さが顕著である。他の満足度平均と比較して、高校生の自分自身への満足度平均の低さは際立っている。

また、男女差について言うと、小学生では、あまり顕著に差は見られないが、中高生では共通して、女子の方が不満だ（「とても不満」「あまり満足していない」と答えた者の割合が高く、男子の方が満足だ（「まあまあ満足している」「とても満足している」と答えた者の割合が高い。

不満 小：女14.0% > 男13.3%、中：女18.7% > 男12.9%、高：女27.2% > 男21.5%  
満足 小：男52.4% > 女51.6%、中：男40.4% > 女29.5%、高：男31.1% > 女25.8%

### ■自分の保護者についての満足度

自分の保護者についての満足度平均は、小1.29、中0.78、高0.75であり、小学生における自分の保護者への満足度平均の高さが際立っている。また、中高生では、自分の保護者への満足度平均はほぼ同程度である。

男女差について言うと、小学生については、自分の保護者に不満を感じている者の割合にそれほどの差は見られないが、中高生については、男子の方が不満を感じている者の割合が若干高い。また、小中高を通じて、女子の方が満足を感じている者の割合が高い。

不満 小：男5.6% ≒ 女5.4%、中：男9.8% > 女9.0%、高：男9.5% > 女8.6%  
満足 小：女80.0% > 男76.1%、中：女64.9% > 男56.3%、高：女64.0% > 男54.3%

### ■学校での生活についての満足度

学校での生活についての満足度平均は、小 0.80、中 0.59、高 0.57 であり、他のものへの満足度平均に比べて、小中高で比較的差が小さいのが特徴である。

男女差について言うと、学校での生活に不満を感じている者の割合には、特に特徴的な差は見られない。他方、学校での生活に満足を感じている者の割合は、小中高を通じて女子の方が高く、その傾向は、高校生で顕著に見られる。

不満 小：男 13.5% > 女 12.9%、中：女 13.2% > 男 11.1%、高：女 12.0% > 男 11.0%  
満足 小：女 65.6% > 男 62.2%、中：女 54.0% > 男 52.6%、高：女 55.0% > 男 51.1%

### ■自分の成績についての満足度

自分の成績についての満足度平均は、小 0.24、中 -0.35、高 -0.43 であり、小中高で全体的に低く、とくに中高で低い。やはり、学習面での目標設定が本格化することにより、それに到達できていないという思いが中高生に強いということであろう。

なお、男女差については、小中高を通じて、男子の方が自分の成績に満足を感じている者の割合が高く、女子の方が不満を感じている者の割合が高い。

不満 小：女 27.9% > 男 23.0%、中：女 46.1% > 男 40.7%、高：女 48.9% > 男 42.3%  
満足 小：男 45.6% > 女 42.4%、中：男 22.2% > 女 19.7%、高：男 16.8% > 女 15.1%

### ■学外活動についての満足度

学外活動についての満足度平均は、小 0.92、中 0.52、高 0.26 であり、小学生における満足度平均の高さが際立っている。また、中学生、高校生へと満足度平均が下がる。習い事などの学外活動については、学年が上がるにつれて、学習塾や予備校での勉強に押されて満足を感じなくなるのかもしれない。

男女差について、特に特徴的な差は見られない。強いて言えば、中学生で、学外活動に満足を感じている者について男子の割合が他に比べて顕著に高いが、なぜそうなのかは今回の調査だけでは不明である。

不満 小：男 10.5% > 女 8.6%、中：女 14.4% > 男 12.8%、高：男 17.3% > 女 16.2%  
満足 小：男 64.3% = 女 64.3%、中：男 49.9% > 女 45.5%、高：男 36.2% > 女 35.2%

### ■自分の小遣いについての満足度

自分の小遣いについての満足度平均は、小 0.63、中 0.35、高 0.39 であり、小学生における自分の小遣いへの満足度平均は、中高生よりも高い。また、中高生ではほぼ同程度の満足度平均だが、高校生の満足度が中学生の満足度平均を若干上回っているのが特徴である。

男女差については、小学生で、自分の小遣いに不満を持っている者の割合は男子に高く、満足を感じている者の割合は女子に高い。

不満 小：男 19.4% > 女 14.5%、中：男 20.3% > 女 17.2%、高：男 16.1% > 女 15.0%

満足 小：女 53.8% > 男 49.9%、中：男 41.5% > 女 40.6%、高：女 42.9% > 男 39.9%

### ■友達づきあいについての満足度

友達づきあいについての満足度平均は、小 1.05、中 0.85、高 0.87 であり、小学生における満足度平均は、中高生に比べると高い。とはいえ、中高生について言えば、他のものへの満足度平均に比べて数値は顕著に高くなっている。

男女差については、小中学生で、女子の方が友達づきあいに不満を感じている者の割合が高く、男子の方が友達づきあいに満足を感じている者の割合が高い。他方、高校生になると、それが逆転している。今回の調査からは確かなことは言えないが、高校生になる頃には、日頃つき合うグループが固定し、ピアプレッシャーの強い女子の友人関係が安定することを反映していると推測することもできるだろう。

不満 小：女 12.6% > 男 8.8%、中：女 10.8% > 男 6.4%、高：男 7.1% > 女 6.5%

満足 小：男 72.2% > 女 70.0%、中：男 64.0% > 女 61.5%、高：女 67.7% > 男 60.2%

### ■全体の生活満足度

以上の7項目を合わせた全体の平均は、それぞれ小 0.78、中 0.43、高 0.35 である。以後、これを「生活満足度平均」と呼び、他の設問への回答傾向との関係を見るために用いる。

以上、全体を見てわかるのは、小学生はすべての事柄について基本的に満足度平均が高く、中高生になると、それぞれの満足度平均が低いということである。ただし、満足度平均 1 を越える項目は小学生についても 2 項目のみであり、全体として満足度平均が低いという印象は否めない。また、小中高を通じた傾向としては、保護者や友達などの人間関係については他の事柄に比べて全体として満足度平均が高く、小学生については保護者への満足度平均が比較的高く、中高生については友達への満足度平均が比較的高い。

## 2. 満足度の小問間の相関

本設問の各小問の満足度について、順位相関係数（スピアマンのロー）を算出した（巻末の「統計表（順位相関表）」参照）。

全体に中間的な相関が見られる。「自分の成績」については、「自分自身」との相関はそれなりに高いものの、他の項目とは低い。また、「自分自身」については、他の項目すべてとの間で全体に相関が高く、心理学的に解釈するならば、自尊心などと結びついた包括的な評定となっているように見えるため、今後は「自分自身」の満足度のみで生活満足度としての代表性を持つかどうかの検証をしていきたい。

相関が特に高いもの（.5 以上）としては、「学校生活」と「友達づきあい」の間（小.533、中.614、高.622）、「自分自身」と「学校生活」の間（中.507）である。小中高を通じて、学校生活に満足している者は友達づきあいにも満足しているという結果は、「学校生活」と「自分の成績」との相関がそれほど高くないことを考慮すると、学校生活の主たる部分を

友達づきあいが占めていることを窺わせる。また、中学生の場合のみ、自分自身への満足と学校生活への満足との相関が特に高いのは、その時期が、集団内における自己の確立がなされる時期であることを反映しているのであろう。

他方、相関が低いもの（.2未満）は、「自分の成績」と「友達づきあい」の間（中.184、高.106）、「自分の成績」と「保護者」の間（高.115）、「自分の成績」と「自分の小遣い」の間（高.171）である。また、これらの項目間については、小中学生の場合も相関が他の項目間に比べて低い（「自分の成績」と「友達づきあい」の間（小.266）、「自分の成績」と「保護者」の間（小.264、中.223）、「自分の成績」と「自分の小遣い」の間（小.281、中.235））。つまり、小中高に共通して、自分の成績への満足と、友達づきあい、保護者、自分の小遣いへの満足とは低い相関しかなく、高校生にその傾向が顕著であるということである。学校での学習の成績に満足するかどうかは、自分の身の回りの事柄（友達や保護者との人間関係、自分の小遣い）に満足するかどうか依存しないのは、直観的にも理解可能である。

なお、学年が上がるにつれて相関が低くなっていくのは、「自分の成績」と「友達づきあい」の間（小.266>中.184>高.106）、および、「自分の成績」と「保護者」の間（小.264>中.223>高.115）であり、自分の成績を保護者や友達との関係の良否から切り離して自己評価していく様子が窺われる。

## 第2章 万引に対する基本的意識

第2章では、万引に対する基本的な知識に関する質問項目について、調査結果を紹介し、簡単な解説を付す。

### 1. 万引に対する自分の考え

(小) 問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけえらんでください。

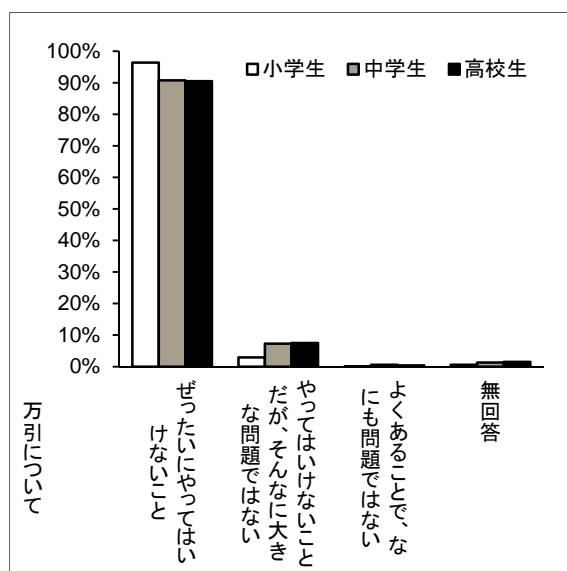
(中高) 問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 絶対にやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、さほど問題ではない
3. よくあることで、何も問題はない

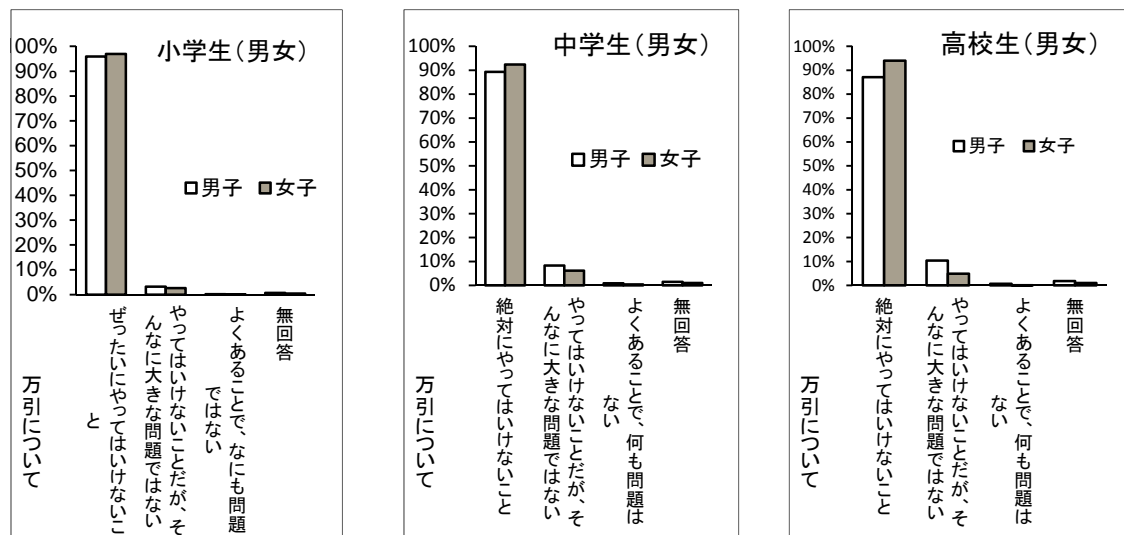
万引について青少年がどのような考えをもっているかを問う設問である。万引は「絶対にやってはいけないこと」と答える者が、小中高のいずれにおいても9割以上を占めている。万引は許されない行為であるという知識は、ほとんどの青少年が共有していることがわかる。

小中高で比較すると、「絶対にやってはいけないこと」と答えた者の割合は、小96.4%、中90.8%、高90.5%であった(前回調査:小98.0%、中93.6%、高94.0%(前回報告書10頁))。これに対して、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」と答えた者の割合は、小2.9%、中7.3%、高7.5%であった(前回調査:小1.7%、中5.9%、高5.3%(同上))。さらに、「よくあることで、何も問題はない」と答えた者の割合は、小0.1%、中0.6%、高0.4%であった(前回調査:小0.1%、中0.3%、高0.6%(同上))。ごくわずかな差でしかないが、小学生に比べて中高生に「問題ではない」と答える者の割合が多いのは、前回までとも同様の傾向である。

なお、男女差に関して言えば、以下の図にあるように、「絶対にやってはいけないこと」と答えたのは小学生で男95.9%、女96.9%、中学生で男89.3%、女92.4%、高校生で男87.1%、女94.0%であり、中高になるにつれ男女差が大きくなっている。「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」についても同じ傾向がある(小・男3.2%、女2.6%、中・男8.3%、女6.2%、高・男10.4%、女4.9%)。この差を統計的に見れば、小学生

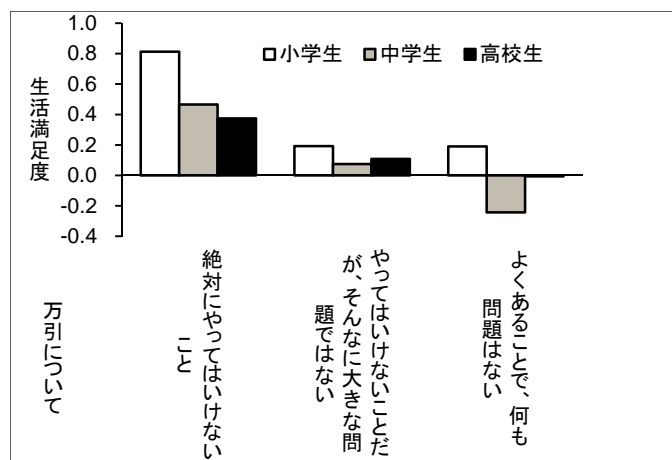


では有意でなく、中高ではいずれも有意であった。男女差は中学生よりも高校生で大きくなっている。どうしてこのような男女差が生じるのかについては今後の検討が必要であるが、後に見るように中高生では「この一年の間に万引に誘われた経験がある」と答えるのは女子よりも男子に多いため、男子の方が身近に万引を見聞きすることが多いことが影響



しているのかもしれない。

右図は、第一章で見た自己に関わる事柄の評価を尋ねた7項目の回答全体を生活満足度と捉え、本設問で回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみたものである。すると、小中高生全般に関して、「万引は絶対にやってはいけないこと」と答えた者の生活満足度平均（小 0.81、中 0.46、高 0.37）よりも、「やっではないけど、さほど問題ではない」および「よくあることで、何も問題はない」と答えた者の生活満足度平均（それぞれ、小 0.19、中 0.07、高 0.11、および、小 0.19、中 -0.24、高 -0.01）がかなり低かった。生活満足度が低い者ほど、規範意識が低いという結果が見てとれる。この関連がどのようなメカニズムを持つのかについてはさらなる検討が必要であるが、今回の調査の他の設問でも似た傾向がたびたび見られることになる。





## 2. 他の非行と比べた場合の万引に対する意識

(小中高) 問2. 万引と他のいくつかの行為を比べると、どちらが悪いと思いますか。次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけえらんでください。

問2-1. 万引と、放置自転車の乗り逃げを比べると、どちらが悪いと思いますか

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と子どもがお酒を飲むことをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. お酒を飲むほうが悪い

問2-3. 万引と子どもがタバコを吸うことをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. タバコを吸うほうが悪い

問2-4. 万引といじめをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. いじめのほうが悪い

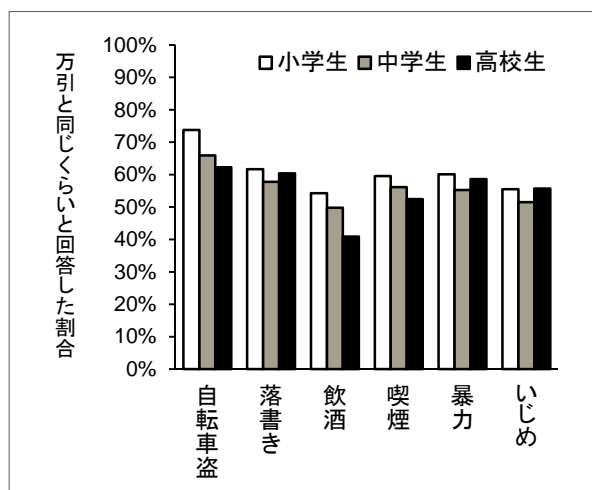
問2-5. 万引と建物に落書きをすることをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と人に暴力をふるうことをくらべると

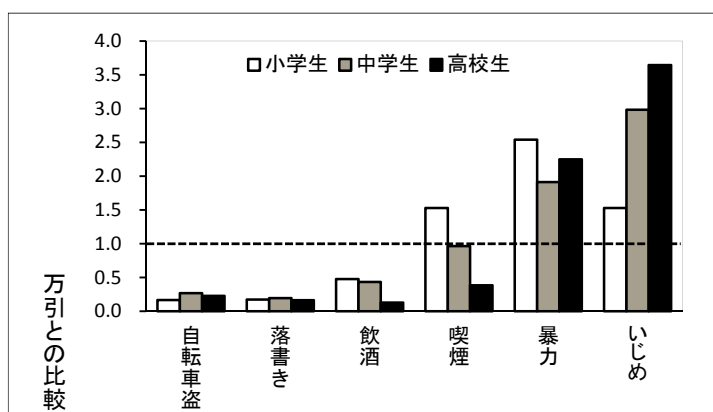
1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 暴力のほうが悪い

前回調査では中高生に対して未成年の喫煙、飲酒、放置自転車のそれぞれについて「絶対にやってはいけない」「やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない」「よくあることで、さほど問題ではない」の三つから選ばせる形式で尋ねたが(前回報告書 45-51 頁)、今回は青少年の規範意識をさらに深く知るために、小中高生に対して他の身近な非行との比較という形式で万引に対する意識を尋ねた。



これら 6 つの比較項目において、まず、「万引と同じくらい悪い」という回答の割合を見てみよう。高校生の飲酒以外、すべて過半数が、万引と同じくらい悪いと回答している。したがって、すべての比較において「万引と同じくらい悪い」と判断した者が多いと言える。「万引と同じくらい」という回答以外は、「万引のほうが悪い」あるいは「比較対象のほうが悪い」と回答しているので、いずれかのほうが悪いという回答した場合を比較検討する。そこで、「万引のほうが悪い」と回答した人数を分母とし、「比較対象のほうが悪い」と回答した人数を分子とした比を指標として算出した。その値を次ページの図に示した。この値は「万引のほうが悪い」と「比較対象のほうが悪い」の回答数が同数の場合に 1.0 となり、「万引のほうが悪い」が多くなると 1 を下回り、逆に「比較対象のほうが悪い」が多くなると 1 を越えていく。

これらのデータから、小学生、中学生、高校生で、次のような「悪い順の評価」が見られたと言えよう。



小学生：暴力＝いじめ＞未成年喫煙＞万引＞未成年飲酒＞放置自転車乗り逃げ＞落書き  
 中学生：いじめ＞暴力＞万引＝未成年喫煙＞未成年飲酒＞放置自転車乗り逃げ＞落書き  
 高校生：いじめ＝暴力＞万引＞未成年喫煙＝放置自転車乗り逃げ＞落書き＞未成年飲酒

万引の位置づけは、小中で喫煙レベル、高校では喫煙より万引のほうが悪いという回答が多くなっている。

直接に他人に危害が加えられるいじめや暴力の方が万引に比べて悪いというのは、極めて健全な発想である半面、万引も刑法で規定されている犯罪行為（刑法 235 条の窃盗罪）であり、年間の被害総額は深刻なものであることも教育によって伝えられる必要があるだろう。

また、前回調査でも、中高生になるにつれ未成年の飲酒や喫煙に対する許容度が高くなっていったため、これについては「万引の場合と異なり、成人になると飲酒・喫煙が許されているため、年齢が高くなるにつれ許容度が高まるのだろう」と考察したが、今回も同様の傾向が見られる。また、前回調査では自転車盗は万引と同様、小中高を通して悪いと判断されていたが、今回も同様の傾向が見られた。ただし、自転車盗や落書きを万引よりも悪くないと考えている者が多いことは、これらが万引に劣らず犯罪行為であること（刑法 254 条の占有離脱物横領罪や 261 条の器物損壊罪など）を考えると、憂慮すべきことであろう。未成年の喫煙と飲酒も含め、放置自転車の乗り逃げや建物の落書きについて、法律で禁じられていることも含め、適切な教育が学校でなされなければならないだろう。ただ、ほとんどの場合、過半数は万引と同じ程度であると判断していることは背景として留意しておくべきであろう。

なお、上記 6 種類の逸脱行為間の「寛容度」の相関を見たところ（巻末統計表参照）、未成年の飲酒と喫煙、および暴力といじめに関して、小中高のいずれにおいても正の相関が見られた。これはたとえば、未成年者の飲酒について万引よりも悪いと回答した者は、未成年者の喫煙についても同様に回答する傾向があったということである。青少年は逸脱行為について類型化して順位付けしていることを示唆しており、今後はこのような類型化をより明確にし、法律や社会規範とのずれがある場合は対策を練るなどの対応が必要であ

ろう。

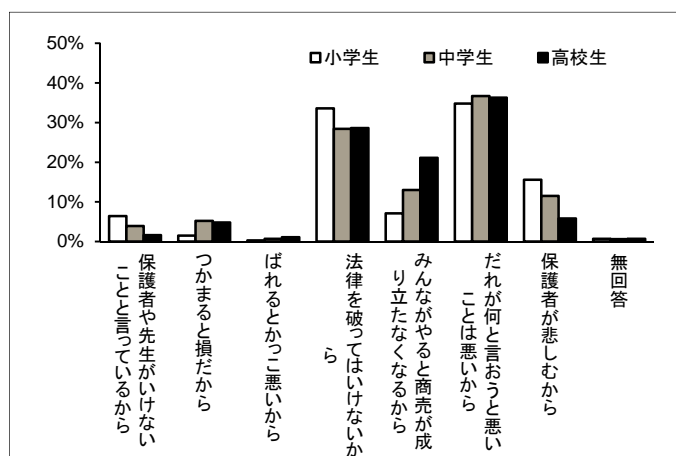
### 3. 万引をしてはいけない理由

(小中高) 問 3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思えるものをひとつだけ選んでください。

1. 保護者や先生がいけないことと言っているから
2. つかまると損だから
3. ばれるとかっこ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. だれが何と言おうと悪いことは悪いから
7. 保護者が悲しむから

少年たちが万引をしてはいけないと考える理由を問う、新規の設問である。右図にあるように、小中高で「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」と答えた者の割合が最も多く(小 34.8%、中 36.7%、高 36.3%)、次いで「法律を破ってはいけないから」(小 33.6%、中 28.4%、高 28.6%)が高かった。小学生では「保護者が悲しむから」(15.6%)の割合が三番目に高かったが、この回答は中高になるにつれて割合が下がる傾向にあった(中 11.5%、高 5.8%)。また、「保護者や先生がいけないことと言っているから」も同様の傾向があった(小 6.4%、中 3.9%、高 1.6%)。一方、「みんながやると商売が成り立たなくなるから」は、学年が高くなるにつれ高くなっており(小 7.1%、中 13.0%、高 21.1%)、中高では三番目に割合が高い回答であった。比較的回答者の割合が低かったものは、「つかまると損だから」(小 1.5%、中 5.2%、高 4.8%)と「ばれるとかっこ悪いから」(小 0.3%、中 0.7%、高 1.1%)であった。

「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」という回答は最も回答割合が高いもので、小中高生の三人に一人が選択したことになる。この答えを、「(たとえば奴隷制度のように)たとえ家族や社会



や法律がある行為を是認していても、悪いものは悪い」というように解釈するならば、道徳性に関してかなり高い発達段階を示すものと思われる (コールバーグの道徳発達理論で言う「脱慣習レベル」の思考)。このような回答をした者は、小学生 5 年生 (11 歳) の段階で、すでに高いレベルの道徳的思考に達しているという可能性もあるが、別の解釈もありうる。それは、日本では子どもに対して「いけないものはいけない (ならぬものはなら

ぬ)」という論し方が普通になされるため、その言い回しが念頭にあってこのように答えたという解釈である。そのように考えると、この回答は「保護者や先生がいけないことと言っているから」というものと同じようなものと解釈することもできる。あるいは、「友達が万引してもよいと言っているが、やはり悪いことである」という風に解釈してこの回答を選んだ可能性も考えられる。次年度は選択肢により工夫が必要であろう。

小中高生で回答割合が二番目に高かった「法律を破ってはいけないから」という回答は、社会規範を守るということであり、「保護者や先生がいけないことと言っているから」あるいは「保護者が悲しむから」と回答した者よりも高次の道徳性（つまり、社会全体から当該行為を見る視点）を身に付けている可能性がある。

なお、「保護者や先生がいけないと言っているから」は、「法律を破ってはいけないから」と同様、自分より権威ある者の命令として道徳を捉えているのに対し、「保護者が悲しむから」という回答は、相手の視点（この場合は保護者の視点）に立ち、相手の感情を共有できる（大事な人が悲しむことはしたくない）ことを示しているため、単に「保護者や先生がいけないと言っている」からという回答よりも高次の道徳性を示しているとも考えられる。また、「みんながやると商売が成り立たなくなるから」は、小中高と年代が上がるにつれて高くなっている。これは個々の万引行為ではなく、万引行為一般の社会的な影響を考慮することができる者が年齢を追うにつれ増えているということを表していることができる。さらに、「つかまると損だから」や「ばれるとかっこ悪いから」は、万引をしない理由を自己利益に訴えるものであり、これを回答に選んだ者は少なかった。

問1で見たように、小中高生の大多数は「万引は絶対にすべきでない」と考えているが、問3では「なぜ万引をしてはいけないのか」について尋ね、多様な答え方があることがわかった。そのうちのどれが「正しい答え」ということは一概には言うことができないが、万引についての教育を行うさいには、小中高生がどのような理由に説得力を持つと考えているかに留意する必要があると思われる。

なお、問3に関しては、一部の選択肢に男女差が見られるものがある。小中高で「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」が女子が多い（小・男 31.85%、女 38.10%、中・男 30.24%、女 43.68%、高・男 32.17%、女 40.70%）。また、中高で「つかまると損だから」が男子でやや多い（中・男 6.94%、女 3.48%、高・男 6.87%、女 2.71%）。このような男女差が生じる要因については今後の検討が必要である。

最後に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた（右

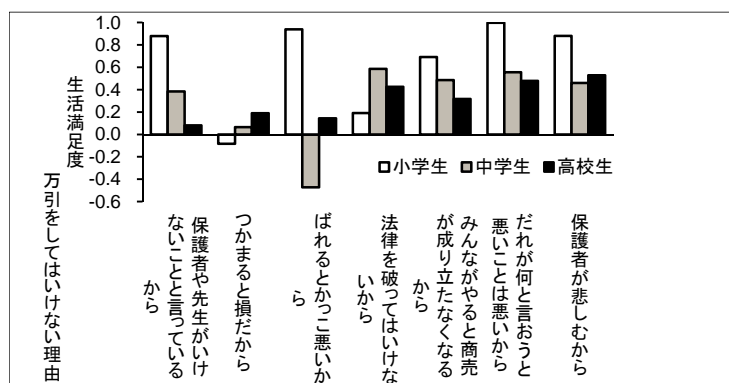


図)。すると、小学生では「つかまると損だから」(-0.08)と「法律を破ってはいけない

から」(0.19)と答えた者の生活満足度平均が目立って低かったが、それぞれ回答者は6名、35名と少なかった(全体は2333名)。中学生では「つかまると損だから」(0.07)と「ばれるとかつこ悪いから」(-0.47)と答えた者の生活満足度が目立って低かった。高校生では「保護者や先生がいけないことと言っているから」(0.08)と「つかまると損だから」(0.19)と「ばれるとかつこ悪いから」(0.14)が目立って低かった。中高で生活満足度の低い者が「つかまると損だから」や「ばれるとかつこ悪いから」と回答する傾向が目立っていたが、これらの回答はなぜ万引をしてはいけないかという問いに対して自己中心的な理由を与えるものである。なぜ生活満足度が低い者がこのような回答をする傾向にあるのかについては簡単な説明は難しいが、教育をする者は、生活満足度が低い者に対しては、万引をしてはいけないことに関するこれ以外の理由はあまり説得力のないものと映る可能性があることを知っておく必要があるだろう。なお、小学生では「ばれるとかつこ悪いから」と答えた者は多く(785名)、しかもその生活満足度はかなり高い傾向にあった(0.94)。これは中高生と大きく違う結果であり、道徳発達のレベルに違いがあることが示唆されるが、これについては今後の検討課題としたい。

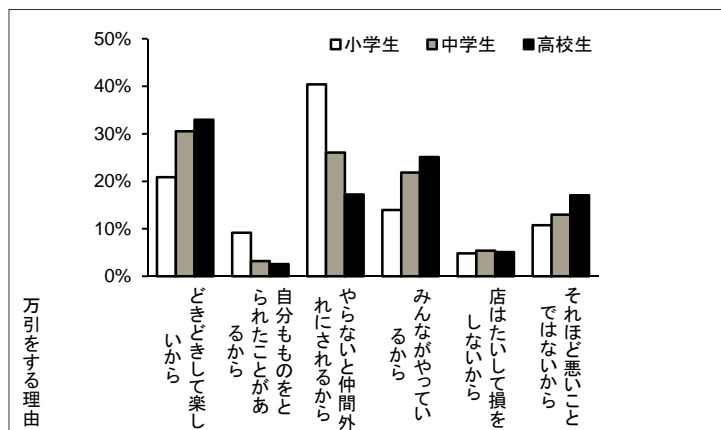
#### 4. 万引をする理由

(小) 問4. 子どもが万引をするのはなぜだと思いますか。ひとつだけえらんでください

(中高) 問4. 子どもが万引をする理由は何だと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れにされるから
4. みんながやっているから
5. 店はたいして損をしないから
6. それほど悪いことではないから

少年たちが万引をする理由を問う設問である。前回調査も同じ設問があったが(前回報告書12-3頁)、今回は選択肢を一部変更している。なお、この設問は「自分と同年齢の子どもがもし仮に万引をするのであれば、こういう理由でそうするのであろう」という推測に基づいて回答されていると考えられるため、本人が実際に万引したときの理由を示したのではない点に注意す



べきである。

「やらないと仲間外れにされるから」は小学生で回答者の割合が最も高かったものであり（36.9%）、中学生では二番目（25.1%）、高校生では三番目（16.7%）と、学年が上がるにつれ順位が低くなった。また、小中高生のいずれにおいても、男子よりも女子がこの回答を選ぶ傾向が顕著に高かった（小・男 33.8%、女 40.1%、中・男 20.2%、女 30.2%、高・男 12.5%、女 20.9%）。「やらないと仲間外れにされる」という回答の背景には、友人に誘われて一緒に万引をする場合があり、誘いを断ることが友人関係を壊すことになりかねないという懸念がある。しかし、低学年ほど一緒に万引をする可能性が高いからこの答えを選ぶ傾向があったのか、あるいは高学年になると友人関係を破綻させることなく誘いを断ることも可能になるからこの答えを選ばなくなるのか、あるいはまた、高学年になると交友関係がより広いため仮に万引する友人たちとの関係が悪くなってもそれほど問題ではないと考えてそれほど重要な問題ではないと考える傾向があったのか、この設問だけからはわからない。いずれにせよ、青少年の万引に関しては、「友人からの万引の誘いに乗るか、友人関係を壊すか」というジレンマが現実的な問題である可能性が高いため、万引対策の教育においてはこの点に注意して教育を実施すべきであろう。

「どきどきして楽しいから」は、小学生で回答者の割合が二番目に高く（16.9%）、中学生と高校生では回答者の割合が最も高かったものである（中 29.4%、高 32.0%）。これは、万引する品物そのものが欲しいというよりは、ゲーム感覚あるいはストレス解消目的で万引を行うということである。中高生になるにつれてこの回答が増えるのは、生徒が一般にストレスの多い生活を送っていることを示唆するのかもしれない。

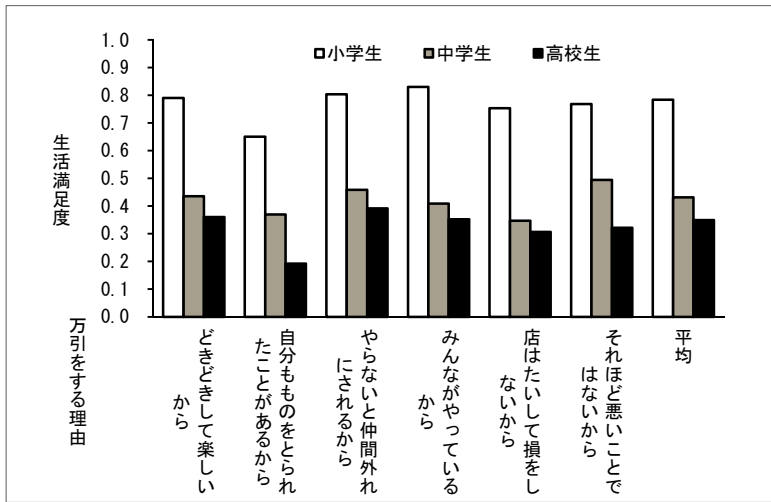
参考:東京都教育委員会が都内の小中高生やその保護者らを対象に5年毎に行っているアンケート調査によると、「日ごろ、ストレスを感じていますか」という問いに「感じている」と答えた小学生（4年生）は33.3%、中学生（1年生）は55.1%、高校生（全日制1年生）は65.4%（定時制1年生は59.6%であった）（東京都教育委員会「平成19年度 児童・生徒の健康に関するアンケート調査報告書」平成21年3月、<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/gakumu/kenkou/karada/19anket.pdf>）。

また、「みんながやっているから」と「それほど悪いことではないから」も、小中高になるにつれて増加する傾向を示した回答であった。「みんながやっているから」は小学生と中学生では回答者の割合が三番目に高く（小 12.7%、中 21.0%）、高校生では回答者の割合が二番目に高かった（24.4%）。「それほど悪いことではないから」は、小学生では回答者の割合が四番目に高く（9.8%）、中学生と高校生では回答者の割合が四番目に高かった（中 12.5%、高 16.5%）。これらは、学年が上がるにつれ、「万引は悪いことである」という一般的知識と、「まわりの人がしていることは許される」「悪いことをしても大目に見られる場合もある」という生活の知恵が乖離する傾向が強まるということを示唆している。万引に関する教育では、「みんながやっているわけではない(ほとんどの人はやっていない)」「万引は犯罪である」という知識をしっかりと教えることが重要であろう。

なお、無回答も比較的多く見られた（小 8.8%、中 3.8%、高 2.9%）。これは、前回調査で回答者の割合が高かった「その品物が欲しいから」（前回調査：小 59.3%、中 41.8%、高 36.8%（前回報告書 13 頁））「お金がないから」（前回調査：小 20.7%、中 24.8%、高 27.4%（同上））といった短絡的な理由がなくなったことが一因かもしれない。もっとも、昨年は「仲間はずれになりたくないから」という回答は非常に低く（前回調査：小 5.3%、中 3.5%、高 1.8%（同上））、今回調査で「やらないと仲間外れにされるから」が回答者割合の上位に来たのは、これらの選択肢がなくなったためと見ることも可能である。いずれにせよ、他の調査を参考にするなどして選択肢を改善することが望まれる。

最後に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた（下図）。すると、小中高生全般に関して、「自分もものをとられたことがあるから」と答えた者の生活満足度（小 0.65、中 0.37、高 0.19）が全体の平均（小 0.78、中 0.43、高 0.35）より若干低いことを除けば、どの選択肢でも生活満足度はほとんど変わらなかった。本設問は子どもが万引をする理由について想像して答えさせるものであったが、この設問に關しては生活満足度の低い生徒が特徴的に選ぶ選択肢がなかったということである。

「自分もものをとられたことがあるから」という回答に関してのみ生活満足度が若干低かった理由については明確にはわからないが、一つには、生活満足度が低い者は、万引する子どもも自分と同様に生活に不満を持っているから万引をするのだらうと想像したのかもしれない。いずれにせよ、本設問では全体的に生活満足度との目立った関連が見られなかったということからすると、生活満足度とは別の要因によって選択の仕方が異なったことを示唆しているため、今後のさらなる検討が必要であるだろう。



### 第3章 万引との関わり

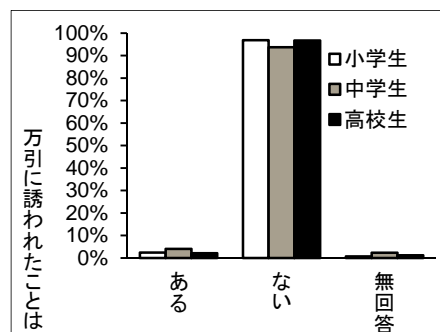
第3章では、青少年の万引との関わりに関する質問項目について、調査結果を紹介し、簡単な解説を付す。

#### 1. 万引に誘われた経験の有無

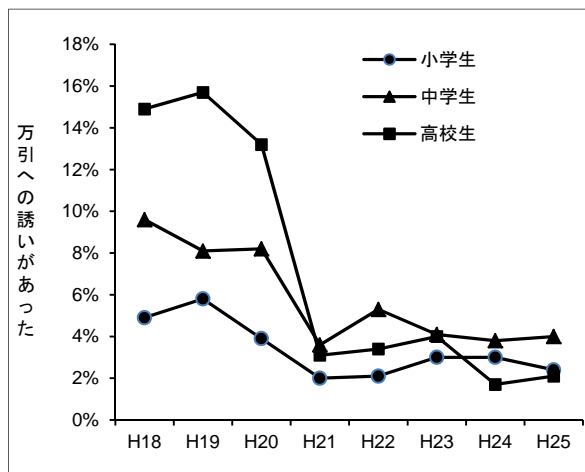
(小中高) 問5. この1年の間に、あなたは万引をしようとさそわれたことがありますか。

- 1. ある
- 2. ない

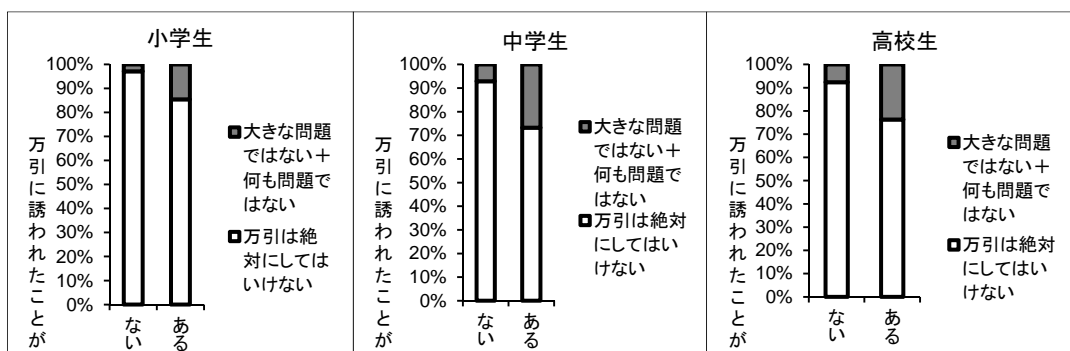
万引に誘われた経験を問う設問である。「ない」と答えた者の割合が全体で圧倒的に多い(小96.8%、中93.7%、高96.7%)。他方、「ある」と答えた者の割合は、小2.4%、中4.0%、高2.1%である。男女差を見ると、小学生では男2.8%、女2.2%とあまり大きくないが、中学生では男5.8%、女2.1%、高校生では男3.1%、女0.9%と男子の方が有意に大きくなっている。



「誘われたことがある」と答えた者の割合についてH18年からの経年変化を見ると、今回調査において大きな変化は見られなかった。なお、H21年に小中高すべての割合が下がっているが、これは質問文に「この1年の間に」という表現が入ったことによる。



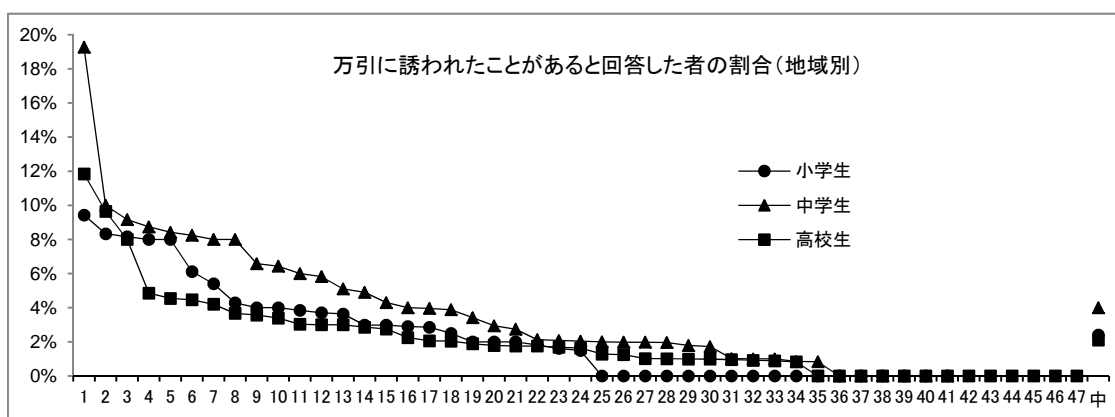
ここで、自分自身の規範意識に関する問1の回答傾向と、本設問の回答傾向との関連を見てみると、小中高生のそれぞれで次の図のような結果が得られた。





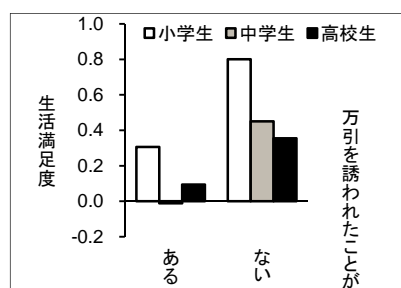
ここで、万引は「絶対にやってはいけないこと」と答えた者を「万引非寛容群」、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」および「よくあることで、何も問題はない」と答えた者を「万引寛容群」と呼ぶとすると、万引非寛容群に比べて、万引寛容群の方が、過去一年間に万引に誘われた経験のある者が小学生で1割強（非寛容群2.9%、寛容群14.0%）、中学生では2割近く（非寛容群7.1%、寛容群26.8%）、高校生でも2割弱（非寛容群7.7%、寛容群23.7%）高かった。このデータだけでは、普段から万引に寛容な姿勢を示しているから万引に誘われるのか、あるいは友人などから万引に誘われるから万引に寛容な態度になるのかは不明である。しかしいずれにせよ、万引を身近で見聞きする経験が当人の規範意識に影響を与えると考えられるため、誘われたときの対処法も含めて、なるべく早い時期から万引が犯罪であることなどの教育を行なう必要があるだろう（次節でも関連した問題に言及する）。

次に、万引に誘われたことが「ある」と答えた者の割合について地域のデータを見よう。下記の図は、調査対象となった地域で、「ある」の比率の高い順に左から並べたものである。右端にそれぞれの中央値を示した。



この分布を眺めると、一部の地域では小中高、とくに中学で多いことがわかる（全国平均は小2.4%、中4.0%、高2.1%である）。とはいえ、これはある都道府県における全体的傾向を示しているのではなく、前々回報告書において万引多発地域は「全国各地に離散的に局在している」（第六回報告書、4頁）と述べられたように、今回調査した特定の学校・地域の傾向と見るべきである。有効な万引防止のためには、万引多発地域を特定し、集中的な抑止対策が必要となると考えられる。

最後に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた（下の図）。すると、小中高生全般に関して、この一年の間に万引に誘われたことが「ある」と答えた者の生活満足度平均（小0.30、中-0.01、高0.09）は、「ない」と答えた者の生活満足度平均（小0.80、中0.45、高0.35）よりもかなり低かった。誘われたことのある者の方が生活満足度が低かった理由は明確ではないが、一つには、満足度が低い者を誘う友人も同様の傾向にあるからかもしれない。先の万引寛容群



の方が万引に誘われる経験が多いことも含めて、今後さらなる検討が必要だと思われる。

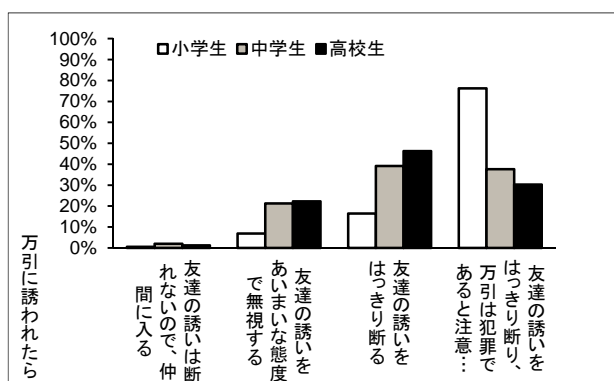
## 2. 万引に誘われたときの対処

(小中高) 問6. 友達から万引をしようと誘われたら、その友達にあなたはどうか対応しますか。ひとつだけ選んでください。

1. 友達の誘いは断れないので、仲間に入る
2. 友達の誘いをはっきり断る
3. 友達の誘いをあいまいな態度で無視する
4. 友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する

この設問は、友達から万引をしようと誘われたときの対処について尋ねるものであり、前回調査と同一である(前回報告書25頁)。

小学生の場合、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」と答えた者の割合が76.0%と非常に高い。これに対して、中高生は、中37.3%、高30.0%に留まる。他方、中高生の場合、「友達の誘いをはっきり断る」と答えた者の割合

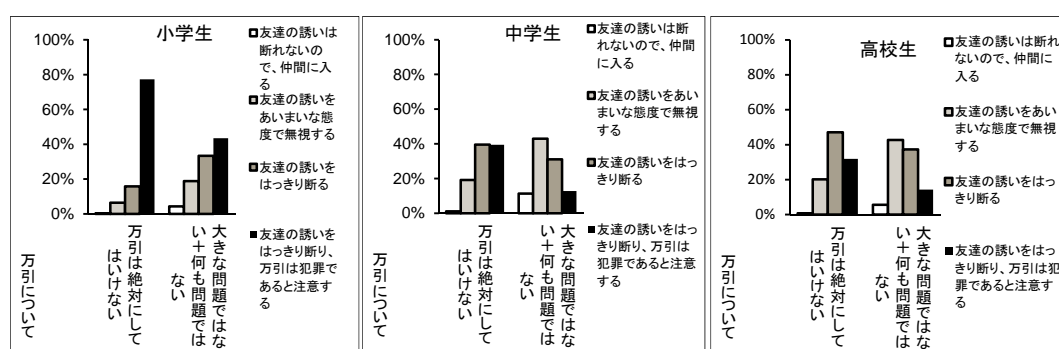


が高く、小16.3%に対して中38.8%、高45.9%である。「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」(小6.8%、中21.0%、高22.1%)をここに加えると、誘いにはのらないが相手に注意はしないと答えた者の割合は、中学生で59.8%、高校生で68.0%と非常に高くなるのがわかる。

ここからわかることだが、小学生は、誘いにのらない上、相手に対して道徳的な非難あるいは忠告を行う気持ちも明確にもつ傾向にあるのに対して、中高生は、誘いにはのらないが、相手に対して道徳的な非難あるいは忠告はしない、という傾向がある。第二章の4.でも少し示唆したように、中高生は万引への誘いを断るが、友人関係は完全に破綻させないようにしようという配慮が働いているのかもしれない。これが正しいとすると、倫理的なジレンマ状況を上手に解決しようとする社会性の発達が高中においてより高く見られると言える。

なお、高校生のみで男女差が明確に見られるのが興味深い。「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」は高校生で男26.1%、女18.2%、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」は同じく男25.2%、女34.8%であった。前回調査でも同様の傾向が見られた(前回報告書74頁)。なぜ高校生のみでこのような男女差が出るのかは今回の調査では不明であるが、男女における友人関係のあり方の違いなどを含めて、さらに検討すべきであろう。

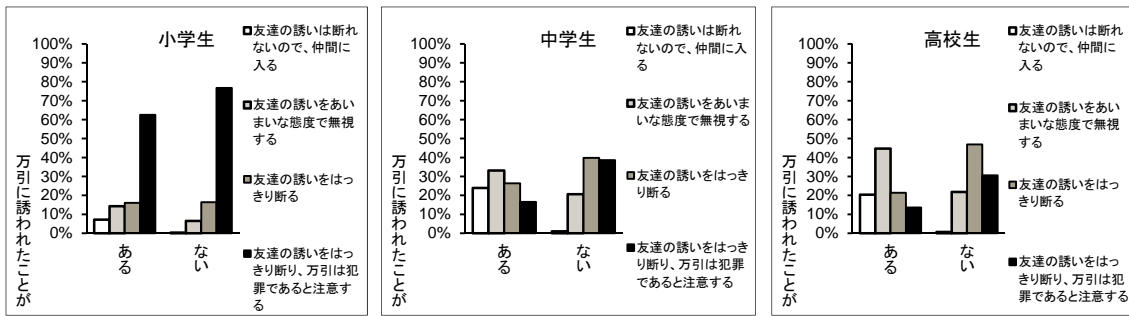
ここで、自分自身の規範意識に関する問1の回答傾向と勧誘への対応に関する本設問の回答傾向との関係を見ておこう。問1で、「絶対にやってはいけないこと」と答えた者（万引非寛容群）と、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」および「よくあることで、何も問題はない」と答えた者（万引寛容群）とで比べると、問6で「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」と答えた者の割合は、前者の万引非寛容群の方が高い（小 77.3% > 43.5%、中 39.4% > 12.8%、高 31.9% > 14.3%（いずれも万引非寛容群 > 万引寛容群）。また、「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」と答えた者の割合は、小中高生を通じて、後者の万引寛容群の方が高い（小 18.8% > 6.4%、中 43.0% > 19.2%、高 42.7% > 20.1%（いずれも万引寛容群 > 万引非寛容群）。この傾向は前回調査でも同様に見られたが、小学生は今回調査が初めてである。



万引を絶対にやってはいけないことと考える者が、万引の勧誘に対して拒絶したり、友人に忠告あるいは非難する行動をとろうと考えること、および、万引をさほど問題ではない、あるいは何も問題ではないと考える者が、万引の勧誘に対して曖昧に無視する行動をとろうと考えたり、場合によっては断れずに誘いに乗るということは、私たちの直観に適った結果であると思われる。

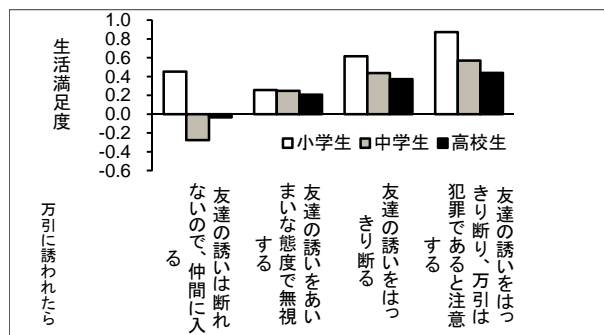
また、万引に誘われたことがあるかどうかという経験を問う問5と誘われた場合にどういった対応を取るかという本設問の回答傾向を見たところ、次のような結果が得られた。小学生では問5について万引に誘われたことが「ある」と答えた者と「ない」と答えた者であまり大きな差は見られないのに対し、中高生では、「ある」と答えた者は「友達の誘いは断れないので、仲間に入る」（中 23.9% > 1.0%、高 20.4% > 0.7%、いずれも、ある > ないの順）、「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」（中 33.1% > 20.6%、高 44.7% > 21.8%、いずれも、ある > ないの順）と答える傾向が高く、「ない」と答えた者は「友達の誘いをはっきり断る」（中 39.8% > 26.4%、高 46.9% > 21.4%、いずれも、ない > あるの順）、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」（中 38.7% > 16.6%、高 30.6% > 13.6%、いずれも、ない > あるの順）と答える傾向が高かった。なお、問5で「万引に誘われたことがある」と答えた者は小学校で 2.4%、中学校で 4.0%、高校で 2.1% とかなり少ない点に注意すべきである。

上記の結果は、実体験のある者は友人との人間関係を壊さないように断われずに仲間に入ったりあいまいな態度をとったりするを選び、逆に（少なくとも過去一年間に）実体験



のない者ははっきり断ったり、万引は犯罪であると注意したりする傾向があるということであろう。なお、小学生では上記の問1とのクロスでも万引寛容群と万引非寛容群にあまり差が見られなかったが、これは中高生に比べると万引について見たり聞いたりする経験が浅いことにも関係しているのではないかと思われる。いずれにせよ、万引防止教育では、友人に誘われた際にどのような態度を取るべきかについて実際に生徒に考えさせるなどで（たとえば問6の4択のどれが望ましいかを議論させるなど）、実際に誘われた場合に適切な行動が取れるような教育をすることが必要であろう。

最後に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた（右図）。すると、小中高生全般に関して、「友達の誘いは断れないので、仲間に入る」と答えた者の生活満足度平均（小0.45、中-0.28、高-0.04）は、小学生を除いて他の回答をした者よりもかなり低かった。また、「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」と答えた者の生活満足度平均（小0.26、中0.25、高0.21）も残りの二つの回答をした者よりも若干低く、とくに小学生でそれが顕著であった。中高生では、生活満足度の低い者は友達の誘いを断れないか、あいまいな態度で無視すると答える傾向にあり、ここでも生活満足度の低さと規範意識の低さに関連が見られるように思われる。小学生については同じ説明ができないが、上でも述べたように、小学生は経験が浅いためより経験の多い中高生に比べて別の考え方をしていた可能性が考えられる。今後、さらに検討が必要だろう。



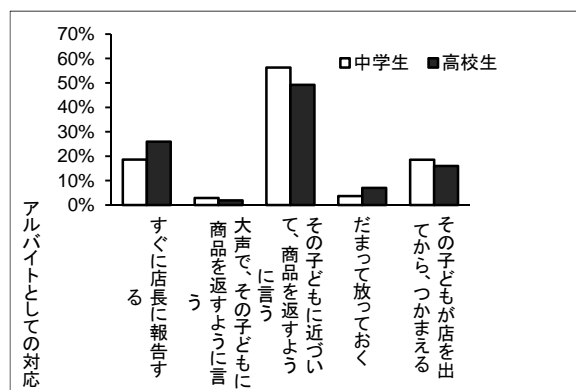
### 3. 店員として万引を目撃した場合の対応（中高生のみ）

（中高）問7. あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。ひとつだけ選んでください。

1. すぐに店長に報告する
2. 大声で、その子どもに商品を返すように言う
3. その子どもに近づいて、商品を返すように言う
4. だまって放っておく
5. その子どもが店を出てから、つかまえる

これは自分が店員であるとして、子どもの万引を目撃した場合にどう対応するかを尋ねたもので、前回調査と同じ質問項目である（前回報告書 43-4 頁）。ただし、今回は選択肢 5「その子どもが店を出てから店長に報告する」を「その子どもが店を出てから、つかまえる」とし、選択肢 6の「その他」を削除した。

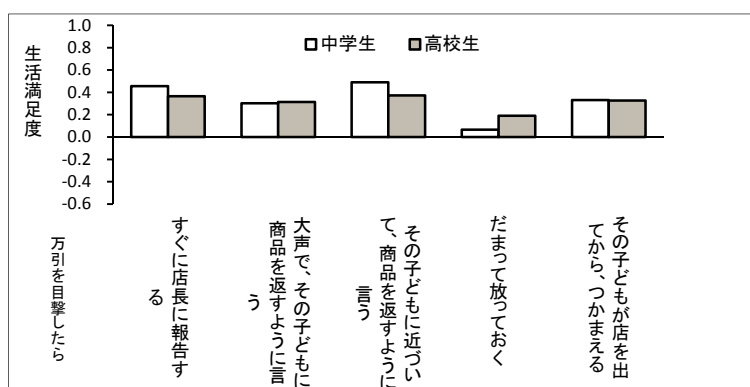
一番割合の高かった回答は、中・高ともに「子どもに近づいて、商品を返すように言う」（中 56.0%、高 48.9%）である。次に、「すぐに店長に報告する」（中 18.5%、高 25.7%）、「その子どもが店を出てから、つかまえる」（中 18.5%、高 15.9%）が続いた。その他は、かなり低くなるが、「大声で商品を返すように言う」（中 2.8%、高 1.9%）、「だまって放っておく」（中 3.7%、高 6.9%）という回答であった。



「子どもに近づいて、商品を返すように言う」という回答は前回調査でも 5 割を超えていたが、これは店長に報告すると大事になるので、穏便に済ませるとのことだと考えられる。とりわけ、この問いにおける「子ども」を、自分たちの同じ年頃の者ではなく、小学生のような低学年と解釈したために、より温情主義的な解決策を選んだ者が多かったのかもしれない。

なお、「すぐに店長に報告する」と「その子どもが店を出てから、つかまえる」では男女差が相当あった。「すぐに店長に報告する」では、中・男 14.6%、女 22.5%、高・男 18.0%、女 33.4%で女子の回答が多く、前回調査でもこれと同じ傾向が見られた。「その子どもが店を出てから、つかまえる」では、中・男 24.1%、女 12.6%、高・男 20.0%、女 11.8%と男子の回答が多かった。男子は自力で何とかするという傾向が強く、女子は店長に報告するように他人に協力を得る傾向が強いのは、万引犯を掴まえる際に物理的な力が必要になる可能性があるためかもしれない。

最後に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた(右図)。すると、中高生ともに、「だまって放っておく」と答えた者の生活満足度平均(中0.07、高0.19)は、他の回答をした者よりも



低く、とりわけ中学生でその傾向が大きかった。他の回答が万引に対する何らかの対応を行うものであるのに対し、「だまって放っておく」という回答のみが、万引を見ても何もしないという選択肢である。ここでも、生活満足度の低さと規範意識の低さに関連が見られるように思われる。生活満足度が低いと、他人が不正をしてもどうでもよいという投げやりな態度が生じることが多くなるということであろうか。

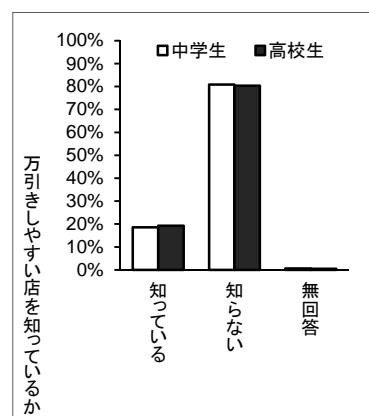
#### 4. 万引しやすい店を知っているか(中高生のみ)

(中高)問8. あなたの住んでいる近くで、万引をしやすいと言われている店を知っていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

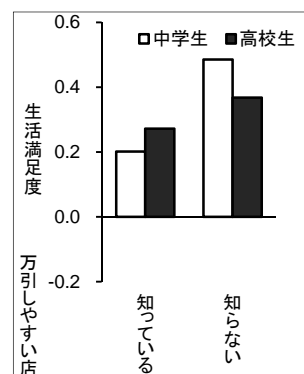
自分の生活圏内に万引しやすいという噂の店を知っているかを尋ねる設問である。前回調査から新たに加えた設問であり(前回報告書14-5頁)、今回も同じ形式である。「知らない」と答えた者の割合の方が多く、中80.8%、高80.3%である(前回調査:中77.1%、高80.6%)。しかしながら、「知っている」と答えた者の割合は、中18.6%、高19.2%であり(前回調査:中20.4%、高19.0%)、つまりほぼ5人に1人であり、かなり高いと言わざるを得ない。

男女差を見ると、「知っている」と答えた者の割合は、中学生では男20.0%、女17.0%(前回調査:男20.8%、女19.9%)、高校生では男21.6%、女16.6%(前回調査:男20.9%、女16.8%)と、いずれも女子がやや低くなっている。



次に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみた(次ページの図)。すると、中高生ともに、万引をしやすいと言われている店を「知っている」と答えた者の生活満足度平均(中0.20、高0.27)は、「知らない」と回答をした者の生活満足度平均(中0.49、高0.36)よりも低く、とりわけ中学生でその傾向が大きかった。こ

の一年の間に万引に誘われたことがあるかを尋ねた問6と同様、ここでも、満足度が低い者は規範意識が低く、その友人も同様の傾向にあるため、こうした望ましくない知識が共有されがちなものかもしれない。今後さらなる検討が必要だと思われる。



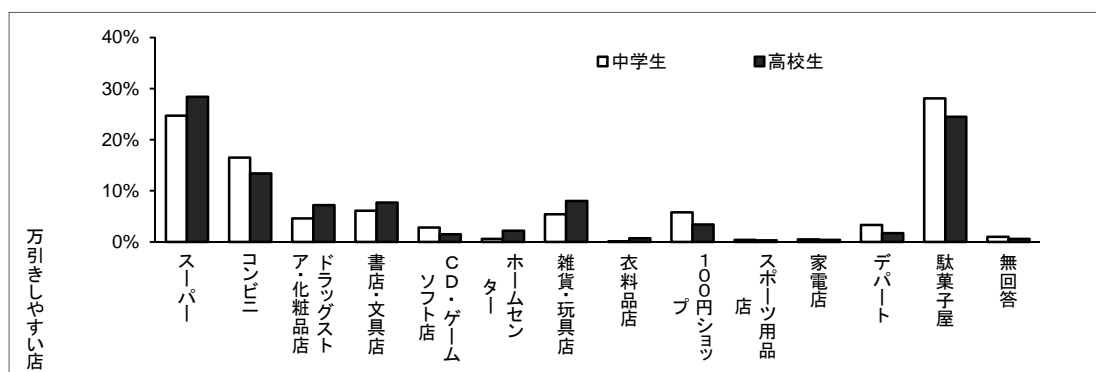
## 5. 万引しやすい店の種類 (中高生のみ)

(中高) 問8-1. 上の問8で「1. 知っている」と答えた人だけに聞きます。それはどのような店ですか。ひとつだけ選んでください。

- |             |               |                 |
|-------------|---------------|-----------------|
| 1. スーパー     | 2. コンビニ       | 3. ドラッグストア・化粧品店 |
| 4. 書店・文具店   | 5. CD・ゲームソフト店 | 6. ホームセンター      |
| 7. 雑貨・玩具店   | 8. 衣料品店       | 9. 100円ショップ     |
| 10. スポーツ用品店 | 11. 家電店       | 12. デパート        |
| 13. 駄菓子屋    |               |                 |

本問も前回調査から加えられた設問であり（前回報告書 15-6 頁）、今回は選択肢 13 が「その他」であったが、今回は「駄菓子屋」に変更した。これは、前回調査で「その他」を選んだ者の回答内容を分類すると、半数が「駄菓子屋」と記述していたためである。

中高で若干順位が異なるものの、上位層はほぼ同じ傾向である。回答した割合の高い順に、「駄菓子屋」（中 28.1%、高 24.5%）、「スーパー」（中 24.7%、高 28.4%）（前回調査：中 22.5%、高 32.3%）、「コンビニ」（中 16.5%、高 13.4%）（前回調査：中 14.8%、高 12.7%）、「書店・文具店」（中 6.1%、高 7.7%）（前回調査：中 7.1%、高 8.2%）、「100円ショップ」（中 5.8%、高 3.4%）（前回調査：中 4.5%、高 3.6%）、「雑貨・玩具店」（中 5.4%、高 8.0%）（前回調査：中 9.7%、高 9.2%）、「ドラッグストア・化粧品店」（中 4.6%、高 7.2%）（前回調査：中 6.2%、高 7.4%）となっている。



なお、男女差については、男子の方が女子に比べて駄菓子屋、コンビニなどを挙げ

る割合が高く、逆に女子の方が男子に比べて「ドラッグストア・化粧品店」を挙げる割合が有意に高かった。これらは、男女の消費行動や関心事の違いに起因するところがあると考えられる。

いずれにせよ、小売店は一部の中高生がこのような知識を持っていることを自覚し、「万引しやすい店」という認識を持たれないような対策を取る必要があるだろう。



## 第4章 万引少年に対する対応

第4章では、万引少年への対応に関する質問項目について、調査結果とその分析を述べる。

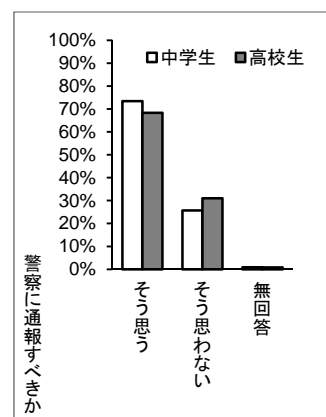
### 1. 店は警察に通報すべきか（中高生のみ）

（中高）問9. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。どちらかを選んでください。

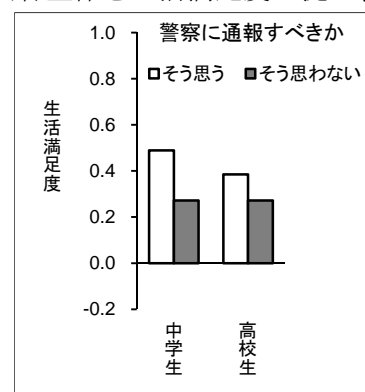
1. そう思う
2. そう思わない

万引を見つけた店舗が警察に通報すべきだと思うかどうかを問う設問である。

「警察に通報すべき」と答えた者は、約7割（中73.4%、高68.3%）であり、「そう思わない」（中25.7%、高31.0%）は3割程度となっている。全体的には、前回調査と比較して、「通報すべき」の割合が下がり、「そう思わない」の割合が上がっている（前回調査では、「通報すべき」が約8割、「そう思わない」が2割弱（前回報告書31頁））。また、中高でも差が見られ、高校生の方が「そう思わない」と答えた者の割合が6%程度高い。さらに、中学生では男女差は見られないが、高校生では、「通報すべき」（男64.9%、女71.6%）、「そう思わない」（男34.2%、女27.8%）の回答率に差が見られ、店舗が警察に通報すべきだと考える者の割合は女子の方が高い。



また、自己に関わる事柄の評価を尋ねた問15での7項目の回答全体を生活満足度と捉え、本設問で回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみると、中高生ともに、「警察に通報すべきだと思う」と答えた者の生活満足度平均（中0.49、高0.39）よりも、「通報すべきだと思わない」と答えた者の生活満足度平均（中0.27、高0.27）が低かった。特徴的なのは、「通報すべき」と答えた者の生活満足度平均は中高生で差があるのに対して、「すべきだと思わない」と答えた者の生活満足度平均は中高生で差がない、という点である。



この結果だけでは確かなことはわからないが、年齢にかかわらず、自分の生活についての満足度が低くなると、筋を通す（万引犯をつかまえた店は警察に通報する義務に従うべきだと考える）ことへの反発が強まる傾向があるように思われる。これは、特定の社会規範が共有されている社会において、自分の生活に関わる事柄に満足する度合いが低くなると、自らが属する社会で通用している社会規範に対する信頼を失い否定的な評価を下すようになる、ということのあらわれであるとも考えられる。それゆえ、万引に関わる規範意識を

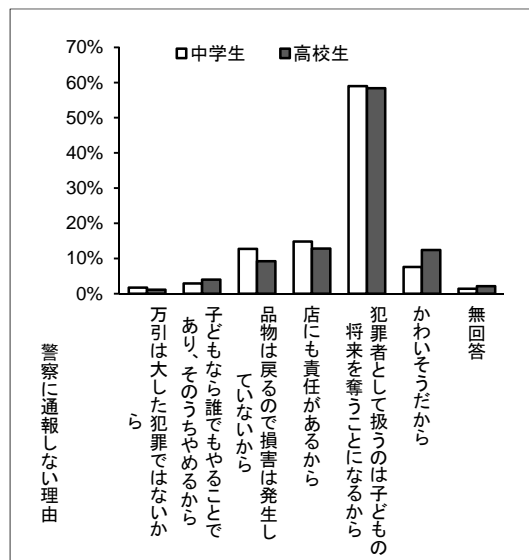
考える際には、個々の生活における充実感のようなものにも着目する必要があると言えよう。

## 2. 「そう思わない」の理由（中高生のみ）

（中高）問9-1. 上の問9で「2. そう思わない」と答えた人だけに聞きます。その理由をひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないから
2. 子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから
3. 品物は戻るので損害は発生していないから
4. 店にも責任があるから
5. 犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから
6. かわいそうだから

先の設問で「警察に通報すべきだと思わない」と答えた者（中 25.7%、高 31.0%）に、その理由を問うている。「犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから」という理由が六割近く（中 59.0%、高 58.4%）を占めている。前回調査においても同一項目の回答者の割合が最も多かったが、数値としては増加している（前回調査：中 37.5%、高 42.1%（前回報告書 32 頁）。「かわいそうだから」（中 7.6%、高 12.4%）を同じ意味合いの回答とみなせば、先の設問で「警察に通報すべきだと思わない」と答えた高校生の 7



割が、万引を警察沙汰にすると本人のためにならず、むしろより穏便な解決策を模索すべきだと考えていると解釈できる。このような傾向は、自分がコンビニの店員であるとして、子どもの万引を目撃した場合にどう対応するかについて尋ねた問 7 においても見られた。そこでは、「その子どもに近づいて、商品を返すように言う」と答えた中高生が 5 割近くいた。

また、次に高かったのは、「店にも責任がある」（中 14.8%、高 12.8%）であり、前回調査と比べて変化はなかった（前回報告書 33 頁）。やはり、一定数の中高生は、「万引は、される店も悪いから、警察に通報すべきではない」と考えているのであろう。

なお、今回調査の特徴としては、「かわいそうだから」（中 7.6%、高 12.4%）と「品物は戻るので損害は発生していないから」（中 12.7%、高 9.2%）の回答率が、中高で正反対になったことが挙げられる。

そこで、本設問の回答選択肢を以下のようにグループ分けして順序づけを行ってみる。

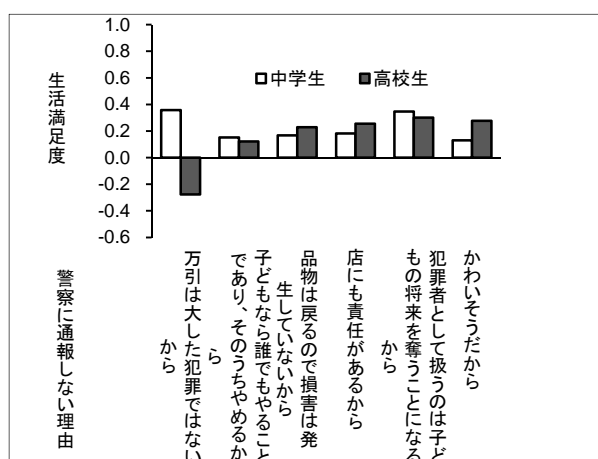
まず、選択肢を「法的観点あり／なし」および「被疑少年への配慮あり／なし」という観点から3つにグループ分けをし、選択肢に差し当たりの順位づけを行った。順位づけの目安としては、道徳性に関する社会化の度合いを読み込んで、レベル1：目の前の事態のみを見る経済的損得勘定、レベル2：単なる同情、レベル3：万引の犯罪性の過小評価、レベル4：店の自己責任論、レベル5：「万引は許容範囲内の逸脱行為」という認識に基づく少年育成への配慮、レベル6：少年と刑罰のあるべき形にも関わるような少年育成への配慮という形で整理した。（もちろん便宜上の整理であり、これ以外の整理は十分ありうる。）

グループ A 法的観点なし、かつ、被疑少年への配慮なし		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 1	品物は戻るので損害は発生していないから	中 12.7% 高 9.2%	中 12.7% 高 9.2%
グループ B 法的観点あり、あるいは、被疑少年への配慮あり		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 2	かわいそうだから	中 7.6% 高 12.4%	中 24.1% 高 26.3%
レベル 3	万引は大した犯罪ではないから	中 1.7% 高 1.1%	
レベル 4	店にも責任があるから	中 14.8% 高 12.8%	
グループ C 法的観点あり、かつ、被疑少年への配慮あり		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 5	子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから	中 2.8% 高 4.0%	中 61.9% 高 62.4%
レベル 6	犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから	中 59.0% 高 58.4%	

グループ毎の割合で見ると、中高生ともに、グループ A から C へと段階が上がるに連れて、回答率が高くなっている。また、グループ A での中学生の回答率が高校生と比べて3.5%高くなっている。警察に通報すべきではないと考える際に、法的観点と被疑少年への配慮のどちらも含まない理由を答える傾向が高校生に比べて中学生に若干強くあるとはいえ、法的観点と被疑少年への配慮の双方もしくはそのいずれかからの理由に思い至る者は、中高生で十分にその割合が高いと考えられる。

なお、前回報告書 33 頁で指摘された、「その他」を選んだ者の割合が高いという点については、今回、質問項目から「その他」を除き、選択肢を整理することで改善されている。

次に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見してみる。すると、中高生を通じて、「子どもの将来を奪うことになるから」を選んだ者の生活満足度平均は高かった（中 0.35、高 0.31）。これに対して、「万引は大した犯罪ではないから」を選んだ者の生活満足度平均は、中学生は高く、高校生は低かった（中 0.36、



高-0.28)。この選択肢を選んだ人数はごく少数（中 18 名、高 17 名）であるため、統計的に意味のある結果とは言い難いが、自分の生活に関わる事柄への満足の仕方と、特定の社会規範の中での逸脱許容理由のもち方とが、個別のレベルで何らかの関わりをもち、それが年齢に左右される可能性を考慮しておいてもよいであろう。実際、中学生について、問 1 の万引寛容度と本設問の逸脱許容理由の順序との間には、小さいながらも相関がある（巻末統計表を参照）。

以上を踏まえて、たとえば、次のような仮説も立てうる。中学生の場合は、自分の生活について満足している者ほど超然とした態度をとりやすく、法的に定められた犯罪であっても「本当は」大した犯罪ではないから警察に通報するような大事ではない、といった考えに傾斜しやすい（いわゆる「中二病」傾向が強い）。それに対して高校生の場合は、自分の生活について不満を抱いている者は万引の犯罪性について無知で、警察に通報するほどの大事ではないと思込んでいる。このような仮説である。これについては今後の検討が必要である。

一点留意しておく必要があるのは、高校生の場合に「子どもの将来を奪うことになるから」および「かわいそうだから」を合わせると 70.8%であり、退学の恐れを反映した解答になった可能性も否めない。前回調査では、警察から学校への連絡をすべきだと思わない理由の中に「退学になりかねない」という選択肢があった（問 13-2：前回報告書 35 頁）が、今回の選択肢は、前回の問 12-2 を改訂したものであるため、「退学」に関する選択肢を入れていなかった。前回調査においても、他の選択肢については中高生で回答率に差があまり見られない中、「退学の恐れ」を選んだ者の割合は高校生に顕著に高かったことを考慮すると、万引をすれば退学になるという認識をもった高校生がどの程度の割合でいるのかを把握することも必要であろう。次回以降、あらためて「退学」の選択肢を入れる検討をしたい。

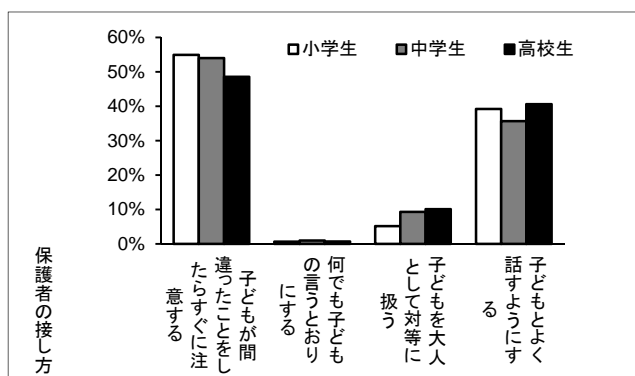
### 3. 日頃の保護者の対応

（小）問 8. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけえらんでください。

（中高）問 10. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを大人として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

この設問は、保護者がどのように子どもと接すれば万引などの犯罪行為をしなくなると思うかをたずねるものであり、親子関係の決定要因となる保護者の態度について調査すべく、今回から新たに加えたものである。



小中高を通じて回答傾向は同じであり、割合の高い順に、「子どもが間違っただけに注意する」（小 54.2%、中 53.5%、高 48.2%）、「子どもとよく話すようにする」（小 38.7%、中 35.4%、高 40.3%）、「子どもを大人として対等に扱う」（小 5.1%、中 9.2%、高 10.0%）という結果であった。

ここで、小中高の間の傾向の違いを見るため、この設問の選択肢についてそれぞれ、保護者の視点から、子ども個人を中心に考えるのか、子どもとの関係を重視するのか、という軸（個人重視／関係重視）、および、保護者の視点から、子どもの現在を重視するのか、未来を重視するのか、という軸（現在重視／未来重視）を軸とした4つの象限に割り当ててみると、以下のようになる。

	関係重視	個人重視	
未来重視	<u>対等に扱う</u>	<u>すぐ注意</u>	未来重視 計
	小 5.1%	小 54.2%	小 59.3%
	中 9.2%	中 53.5%	中 62.7%
	高 10.0%	高 48.2%	高 58.2%
現在重視	<u>よく話す</u>	<u>言う通りに</u>	現在重視 計
	小 38.7%	小 0.6%	小 39.3%
	中 35.4%	中 1.0%	中 36.4%
	高 40.3%	高 0.7%	高 41.0%
	関係重視 計	個人重視 計	
	小 43.8%	小 54.8%	
	中 44.6%	中 54.5%	
	高 50.3%	高 48.9%	

すると、現在重視については、中学生の数値のみが落ち込み（小 39.3% > 中 36.4% < 高 41.0%）、未来重視については逆に、中学生の数値のみが上がっている（小 59.3% < 中 62.7% > 高 58.2%）。また、小中高に共通するのは、未来重視の割合の方が現在重視の割合よりも高いということである。

他方、個人重視については、小中学生に比べて高校生の割合が低く（小 54.8% ≒ 中 54.5% > 高 48.9%）、関係重視については、小中学生に比べて高校生の割合が高い（小 43.8% ≒ 中 44.6% < 高 50.3%）。また、小中学生は、関係重視よりも個人重視の割合が高いのに対して、高校生は、個人重視と関係重視の割合が若干の違いはあるが、ほぼ同程度である。

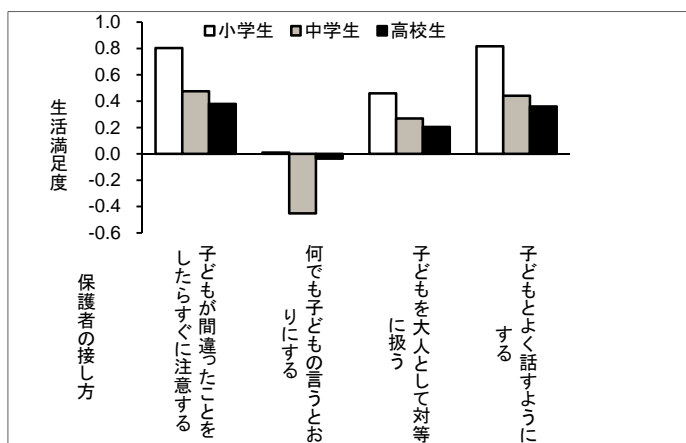
ここで、子どもを非行に走らせないために、保護者は子どもについて何を重視するべき

だと児童生徒自身が考えているのかについて、次のような傾向を読み取ることができる。過半数という基準で見ると、小中高に共通して、保護者が重視すべきなのは子どもの現在よりも未来だと考えられる傾向が強い。他方で、小中学生は、保護者が重視すべきなのは子ども個人だと考える傾向が強いのに対して、高校生は、保護者は子ども個人と同じように子どもとの関係も重視すべきであると考えられる傾向がある。高校生になると、子どもとの関係の中で子どもの未来を重視する視点を保護者に求めるようになるということであろう。

このように、年齢に応じた形で児童生徒自身が保護者に求めるものが変化していくこと自体は、新しい発見だとはまったく言えないとはいえ、非行防止の対策を講じる際に、家庭にどのようなことを求め、家庭では何がなされるべきかを考えるための端緒を与えることにはなるだろう。

次に、本設問についても、回答された選択肢別に生活満足度平均の値を見てみると、「何でも子どもの言う通りにする」

を選んだ者の生活満足度平均は、小中高を通じて圧倒的に低い（小0.01、中-0.45、高-0.04）。この選択肢の回答者数は、小15名、中42名、高35名とごく少数であるため、統計的に意味のある傾向をそこから読み取ることができないが、中学生の満足度が目立って低くなっている点



については、注目しておいてもよいかもしれない。前節の、警察に通報すべきだと思わない理由について「万引は大した罪ではないから」と回答した者の場合は、同じく少数の回答者数だったが、中学生の場合の生活満足度平均が目立って高く、高校生は低かった。これに対して、本設問では、中学生の場合の生活満足度平均が顕著に低い。また、この選択肢（「言う通りにする」）の回答率は中学生でやや高い（小0.6%、中1.0%、高0.7%）。さらに、現在重視／未来重視の軸において、小学生と高校生に見られる傾向とは異なる傾向が中学生の回答にみいだされる（中学生は未来重視傾向が比較的強い）。こうしたことを考慮すると、中学生について、全般的には、保護者に子どもの未来を重視することを求める傾向にある一方で、自分の生活に不満を感じている場合には、保護者に対して、現在の子ども個人を重視する（何でも子どもの言う通りにする）よう求めがちになる、という解釈も可能であろう。

また、男女差を見ると、本設問で「よく話す」と答えた者の割合は、小中高を通じて女子が顕著に高い（小：女41.5%＞男35.9%、中：女37.7%＞男33.4%、高：女42.2%＞男38.4%）。第1章で述べたように、自分の保護者に満足している者の割合が、小中高を通じて、女子の方が高かった（小：女80.0%＞男76.1%、中：女64.9%＞男56.3%、高：女64.0%＞男54.3%）。これらのことから、学年にかかわらず、男子生徒よりも女子生徒

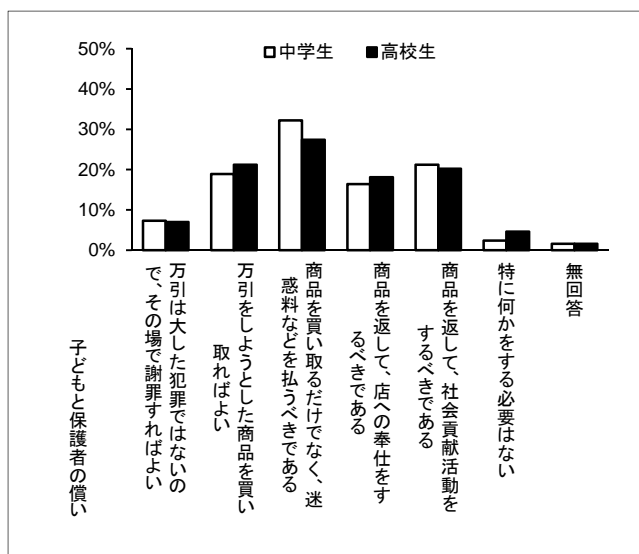
の方が、自分の保護者とよく話すことを求め、また、実際にそうしており自分の保護者に満足している傾向がある、とすることができるだろう。万引等の非行防止のための対策を講ずる際には、こうした男女差についても考慮に入れる必要があると言えよう。

#### 4. 万引後の保護者と子どもの対応（中高生のみ）

（中高）問 11. 万引をした子どもやその保護者はどのような償いをすべきだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい
2. 万引をしようとした商品を買えばよい
3. 商品を買取るだけでなく、迷惑料などを払うべきである
4. 商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである
5. 商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである
6. 特に何かをする必要はない

万引被害を受けた店舗に対して、万引少年とその保護者（親）は、いかなる対応をすべきだと考えるかを問う設問である。なお、回答項目は、前回調査のもの（問 16、前回報告書 42 頁）を整理・再編してある。中高生ともに、最も割合の高かったのは、「買取るだけでなく、迷惑料を払うべき」（中 32.2%、高 27.4%）であった。第二位以降の回答傾向は中学生と高校生で若干の違いが見られる。中学生の場合は、割合の高い順



に、「社会貢献活動をするべき」（21.2%）、「買取ればよい」（18.9%）、「店への奉仕をするべき」（16.4%）、「謝罪すればよい」（7.3%）である。高校生の場合は、割合の高い順に、「買取ればよい」（21.2%）、「社会貢献活動をするべき」（20.2%）、「店への奉仕をするべき」（18.1%）、「謝罪すればよい」（7.0%）である。

ここで、本設問の選択肢について、万引を犯罪として正しく捉えた上でその社会的影響を考慮に入れられているか、という観点から、下記（次ページの表）のように万引寛容群と非寛容群の割合を基準にグループ分けをしてみる。まず、中高生に共通して、はっきりと2つの傾向に分かれる。「謝罪すればよい」、「買取ればよい」、「何もする必要はない」と答えた者はいずれも、万引寛容群が万引非寛容群を上回っており、他方、「迷惑料を払えばよい」、「店への奉仕」、「社会貢献活動」と答えた者はいずれも、万引非寛容群が万引寛

容群を上回っている。

		特に何かをする必要はない	万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい	万引をしようとした商品を買えばよい	商品を買取ただけでなく、迷惑料などを払うべきである	商品を返して、店への奉仕をするべきである	商品を返して、社会貢献活動をするべきである
中学生	万引非寛容群	2.1%	6.4%	18.1%	33.8%	17.1%	22.5%
	万引寛容群	5.5%	18.5%	32.4%	20.3%	11.8%	11.5%
高校生	万引非寛容群	4.5%	5.9%	20.6%	28.5%	19.2%	21.4%
	万引寛容群	6.4%	19.1%	32.4%	21.2%	11.2%	9.7%

次に、本設問の6つの選択肢のうち、前三者をグループA、後三者をグループBとして、以下の基準で順位付けを行った。グループAについては、何の償いも必要でないという考えを最も低い「レベル0」とし、単に謝ればすむという考えよりも、金銭的な償いをするべきだという考えをより高いレベルとする。また、グループBについては、金銭的な償い以上のことをするべきだという考えをより高いレベルとし、被害者に直接奉仕するよりも、より広く社会に奉仕するべきだという考えをより高いレベルとする。順序は次の表のようになる。

グループA (万引寛容群優位)		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル0	特に何かをする必要はない	中 2.4% 高 4.6%	中 28.6% 高 32.8%
レベル1	万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい	中 7.3% 高 7.0%	
レベル2	万引をしようとした商品を買取ればよい	中 18.9% 高 21.2%	
グループB (万引非寛容群優位)		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル3	商品を買取ただけでなく、迷惑料などを払うべきである	中 32.2% 高 27.4%	中 69.8% 高 66.2%
レベル4	商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである	中 16.4% 高 18.1%	
レベル5	商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである	中 21.2% 高 20.7%	

なお、中高生ともに、この順位付けは、問1の万引寛容度と小さいながらも相関がある(巻末統計表を参照)。すなわち、万引寛容群優位のグループAの中でも、万引の償い意識レベルが高いほど万引寛容度が低くなるということである。

レベル0から5までの増減については、多少の違いはあるが、中高生でほぼ共通の傾向を示している。ここで、社会貢献活動(レベル5)と店への奉仕(レベル4)を“金銭的



解決以上の償い”と捉えて二つの回答率を合わせれば、中 37.6%、高 38.3%となり、中高生で差はなく、ともに同じグループ B に属する（単独では中高生でそれぞれ最も割合の高い）「迷惑料を払うべき」（レベル 3）を上回る。ただし、2 つのグループに跨がって、迷惑料（レベル 3）と買い取りのみ（レベル 2）の二つの回答率を合わせると、中 51.1%、高 48.6%となり、金銭的解決以上の償いの割合を中高生ともに上回る。

万引は、本来払うべきものを払っていない状態といった認識しかされておらず、金銭的な原状回復で十分と見る向きが強いのかかもしれない。言い換えれば、法的責任をとれば十分であるという考え方が強いということであろう。ただし、社会に影響を及ぼす犯罪に手を染めてしまった者として社会貢献活動と店への奉仕を行うべきだと考えている中高生も 4 割近くいることを忘れてはならない。言い換えれば、4 割近くの中高生は、万引について、法的責任のみならず、道徳的責任が問題になると考えているとも理解できる。

さらに、本設問の選択肢の回答者毎に、問 15-5 で尋ねた、スポーツや習い事などの学外での活動についての満足度の平均をとると、以下のようなになる。

グループ A（万引寛容群優位）		学外活動の満足度平均（中学生）	学外活動の満足度平均（高校生）
レベル 0	特に何かをする必要はない	0.34	-0.51
レベル 1	万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい	0.36	-0.65
レベル 2	万引をしようとした商品を買えばよい	0.41	-0.57
グループ B（万引非寛容群優位）			
レベル 3	商品を買取るだけでなく、迷惑料などを払うべきである	0.56	-0.50
レベル 4	商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである	0.61	-0.48
レベル 5	商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである	0.54	-0.41

中学生で学外活動への満足度平均が最も高いのは、「店への奉仕」（レベル 4）を選んだ者（0.61）であり、高校生で最も高いのは、「社会貢献活動」（レベル 5）を選んだ者（-0.41）であった。なお、中学生で学外活動への満足度平均が最も低いのは、「何もしない」（レベル 0）を選んだ者（0.34）であり、高校生で最も低いのは、「その場で謝罪」（レベル 1）を選んだ者（-0.65）であった。それほど顕著な傾向があると断定できるほどではないにせよ、スポーツや習い事などの学外活動について満足度と、万引に対する道徳的責任を重視する考えとは、一定程度の関係がないとは言えないだろう。学外活動を含め、諸々の事柄に関する生活満足度の平均値を見ても、同様の傾向が見られる。中高生を通じて、「店への奉仕」（レベル 4）と「社会貢献活動」（レベル 5）を選んだ者の生活満足度平均は高かった。（レベル 4：中 0.57、高 0.50；レベル 5：中 0.39、高 0.41）さらに言えば、少なくとも中学生については、万引の償い意識レベルと問 15 の生活満足度平均との間に小さいながらも相関がある（巻末統計表を参照）。生活満足度が高いほど、償い意識レベルも高いということである。したがって、万引に関する規範意識向上を目指す上で、学外活動を

はじめ、日々の生活にも目を向けることも必要だと言えるだろう。

## 5. 万引をしなくなるための対策

(小)問7. あなたは子どもが万引をしなくなるためにどうすればよいと思いますか。もっとも効果があると思うことをひとつだけえらんでください。

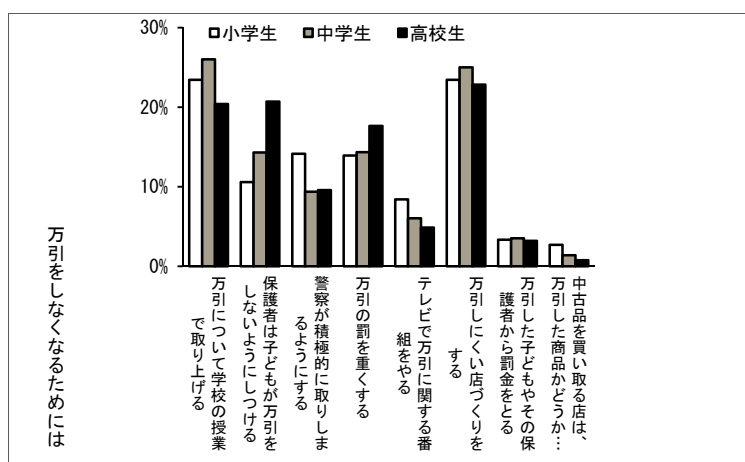
(中高)問12. あなたは子どもが万引をしなくなるためにはどうすればよいと思いますか。もっとも効果があると思えることをひとつだけ選んでください。

1. 万引について学校の授業でとりあげる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取り締まるようにする
4. 万引(窃盗)の刑罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組を放映する
6. 万引しにくい店づくりをする
7. 店は万引をした子どもやその保護者から罰金、迷惑料などをとる
8. 中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する

少年が万引をしなくなるための対策を問うている。全体的な傾向は、前回調査と比較してそれほど変化はないように見える。

ただし、前回調査(前回報告書20頁)では、選択肢2と3に「厳しく」といった文言が入っていたが、それが選択忌避を促した可能性を考慮して、今回はそれを消去した。

その影響からか、小中高で回答傾向にばらつきが見られた。小学生では、「学校



の授業でとりあげる」と「店づくり」が同率(23.1%)で最も高く、「警察が取り締まる」(14.0%)、「厳罰化」(13.8%)、「保護者がしつける」(10.5%)と続く。中学生では、「学校の授業でとりあげる」(25.7%)が最も高く、僅差で「店づくり」(24.7%)が続く、「保護者がしつける」「厳罰化」(14.2%)、「警察が取り締まる」(9.3%)となる。高校生では、「店づくり」(22.6%)が最も高く、次いで「保護者がしつける」(20.5%)「学校の授業でとりあげる」(20.2%)がほぼ同率で続き、その後を「厳罰化」(17.5%)、「警察が取り締まる」(9.5%)が続く。

また、男女差については、小中高を通じて、「学校の授業でとりあげる」と回答した者の割合は女子の方が高く、「警察が取り締まる」「厳罰化」と回答した者の割合は男子の方

が高い。

### ■選択肢の文言の差について

選択肢の文言の変更によって、次のような新たな傾向も読み取れる。中高生の「保護者がしつける」と答えた割合が高まり（中 14.2%、高 20.5%；前回は中 11.6%、高 15.4%）、小学生の「警察が取り締まる」と答えた割合が高まった（小 14.0%；前回は小 9.2%）。他方、小学生の「保護者がしつける」と答えた割合（小 10.5%；前回は小 9.1%）、および、中高生の「警察が取り締まる」と答えた割合（中 9.3%、高 9.5%；前回は中 9.8%、高 10.5%）はともに前回と比べて同程度であった。

ここからは、「家庭でのしつけを厳しくする」と「保護者は子どもが万引をしないようにしつける」との文言の差は、小学生にはほとんど意識されないが、中高生には意味のある差として意識され、他方で、「警察が厳しく取り締まる」と「警察が積極的に取り締まるようにする」との差は、小学生には意味のある差として意識され、中高生にはほとんど意識されない、という傾向が窺われる。

ここから、次のような解釈も可能である。中高生にとっては、家庭でのしつけの目的が大切だと意識されているのに対して、小学生にとっては、家庭でのしつけはすべてしつけだとしか意識されていない。前回調査の文言では、家庭でのしつけ一般を厳しくするという含意をもつものに対して、今回調査の文言では「万引をしないように」というしつけの目的が明記されているからである。また、警察の取り締まりについては、小学生にとっては、取り締まりの厳しさよりも積極性が大切だと意識されているのに対して、中高生にとっては、取り締まりは結局取り締まりとしてしか意識されていない。そこから推察するに、家庭は、小学生にとって自分と不可分なものであり対象化されにくいのに対して、中高生にとっては家庭でのやりとりそのものが吟味の対象になってきている。他方、警察は、小学生にとって自分たちを守ってくれる「おまわりさん」であるため、厳しく取り締まるよりも積極的に取り締まることに支持が集まるのに対して、中高生にとっては、どのような取り締まりをしようとも自分たちを取り締まる怖い人たちだという意識が強まっている。こうした成長に絡む意識の違いが反映された結果だとも考えられる。

### ■選択肢を分類した場合の傾向

また、選択肢を「直接的な予防措置」、「啓発的な対策」、「懲罰的な対策」に分類すると、以下ようになる。

対策の種類	選択肢	回答率
直接的な予防措置	「店づくり」「万引商品の確認」	小 25.8%、中 26.1%、高 23.4%
啓発的な対策	「しつけ」「授業でとりあげる」「テレビ番組」	小 41.9%、中 45.9%、高 45.5%
懲罰的な対策	「取り締まり」「厳罰化」「店が罰金をとる」	小 31.1%、中 27.0%、高 30.2%

小中高の間で、効果があると答えた者の割合について、直接的な予防措置、懲罰的な対

策、啓発的な対策の順に高くなるという共通の傾向が見られる。小中高生を通じて、教育的な対応に高い効果を期待する者が多く、店舗側の対応の効果にはそれほど期待を寄せていないことが窺われる。

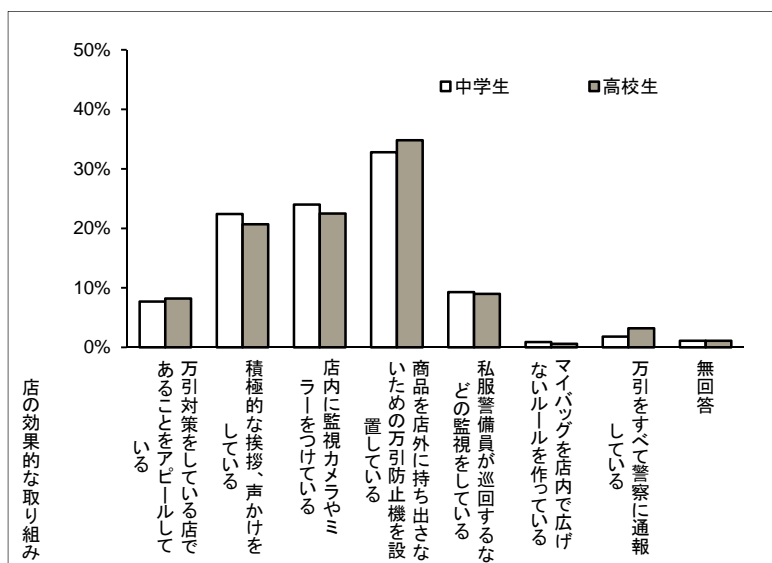
なお、前回調査（前回報告書 20 頁）では、啓発的な対策および懲罰的な対策について小中高で違いが見られると報告したが、その傾向は今回見られなかった。その要因の一つは、上記の選択肢記述の変更（前回：「家庭でのしつけを厳しくする」→今回：「保護者は子どもが万引をしないようにしつける」）に応じて、「しつけ」選択肢を懲罰的な対策でなく啓発的な対策に分類したことである。これは、「しつけ」と一口に言っても様々な要素があることを示唆する。とりわけ、この選択肢記述の変更が、小学生ではなく中高生の回答傾向に影響を及ぼしていたことを考えると、規範意識の成長に関わる“道徳的に重要な違い”が「しつけ」に関する記述の仕方にみいだせる、とも言えよう。この点は、次回以降の質問項目作成時によく検討されるべき課題である。

## 6. 効果的だと思う万引対策—店舗編—（中高生のみ）

（中高）問 13. 店は万引をさせないための取り組みをしています。この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

1. 万引防止ポスターを貼るなど、万引対策をしている店であることをアピールしている
2. 「いらっしゃいませ」などの積極的な挨拶や、「何かお探しですか」などの声かけをしている
3. 店内に監視カメラやミラーをつけている
4. 商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している
5. 私服警備員が巡回するなどの監視をしている
6. マイバッグ（持参した買い物袋）を店内で広げないルールを作っている
7. 万引をすべて警察に通報している

店が行っている万引対策のうち、どの対策が効果的だと思うかを尋ねる設問である。中高生ともに、「万引防止機を設置」を選んだ者の割合（中 32.8%、高 34.8%）が最も高い。次いで、「監視カメラやミラーの設置」（中 24.0%、高 22.5%）、「挨拶、声かけ」（中 22.4%、



高 20.7%)、「警備員の巡回」(中 9.3%、高 9.0%)、「万引対策店であることのアピール」(中 7.7%、高 8.2%) という順である。なお、「全件通報」を選んだ者の割合は、中高生ともに低かった(中 1.8%、高 3.2%)。

前回調査と比較して、選択肢の若干の変更はあったが、全体的な傾向はほぼ同じと考えてよい。(前回報告書 17 頁。)

ここで、本設問の選択肢を、潜在的な万引犯への威嚇的対策と、客一般への働きかけによる間接的対策とにグループ分けしてみよう。

対策の種類	選択肢	回答率
威嚇的対策	監視カメラやミラーの設置 万引防止機の設置 警備員の巡回	中 66.1% 高 66.3%
間接的対策	万引対策店であることのアピール 挨拶、声かけ マイバッグ利用ルールの設定	中 31.0% 高 29.5%

中高生を通じて、潜在的な万引犯に対して威嚇する対策に効果があると 7 割弱の者が考えており、店に来訪する客全員に向けた間接的対策に効果があると考えた者の割合を大きく上回った。ただし、多くの回答者は、自分が万引することを考えて回答したというよりも、万引する人の視点を想像して回答したと考えるべきであるので、実際にどの対策が効果を上げているかという実証的な調査結果と照らし合わせて考える必要があるだろう。

## 7. 効果的だと思う万引対策—学校・警察編— (中高生のみ)

(中高) 問 14. 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

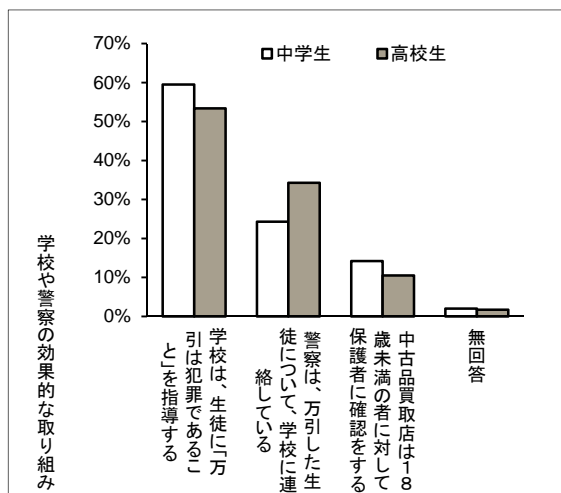
1. 学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導し、万引した子どもに対しては万引を繰り返さないための指導をしている
2. 警察は、万引した生徒について、学校に連絡している
3. 本や CD などの中古品を買い取る店は、中古品を売りに来た 18 歳未満の者に対して、保護者と一緒に来るように求め、または保護者に電話して確認することを徹底している

学校と警察が行っている万引対策のうち、どの対策が効果的だと思うかを尋ねる設問である。今回は、選択肢を店(問 13)と学校・警察(問 14)に振り分けて独立の質問とした。なお、本設問の選択肢 3「中古品買取店が保護者に確認」については、窓口となる買取店が積極的に保護者との接触をはかるようにと警察が店に要請する取り組みの別記述と捉えて、本設問の選択肢とした。

中高生ともに、回答率の高い順に、「学校での指導」(中 59.5%、高 53.4%)、「警察が

学校に連絡」(中 24.3%、高 34.3%)、「中古品買取店が保護者に確認」(中 14.2%、高 10.5%) という順であった。多くの中高生が、学校という場を非行防止に有効な教育の場だと考えていることが窺われる。

男女差について述べると、中高生を通じて、「学校での指導」は女子の回答割合が高く、「警察が学校に連絡」は男子の回答割合が高い。女子が学校の役割を重視し、男子が警察の役割を重視しがちなのは、「5. 万引をしなくなるための対策」に見られた男女差と共通する特徴である。



## 第5章 規範意識の育成という課題

### 1. 本調査結果は万引防止対策に活用できるのか

本調査の目的は、「万引犯罪に対する青少年の意識を、全国統一の調査票によって把握することによって、年代別・男女別・地域別分析等の基礎データを得るとともに、行政・警察当局が防犯施策、青少年団体、街の防犯ボランティア活動に資すること」（「第1回調査結果・分析報告書」）にある。

この目的自体は、いかにも真っ当である。しかし、問題は残る。それは、本調査は万引防止対策に本当に活用できるか、ということである。本調査の編集と分析の任に当たる者が、このような疑問を表明するのは、意外とも心外とも思われるかもしれない。むしろ、本調査の調査結果が万引防止対策の役に立たないと言っているのではない。たとえば、各学校で非行防止教室を実施する際に、児童生徒が万引についてどこまで「知っているのか」を知らなければ、何を教えてよいのか見当もつかないからである。

実際、各年度毎に多少の変化はあるが、過去7回の調査の質問紙には、以下のような設問が並んでいる。

- ①万引についてどこで教えられたか
- ②万引についてどのように考えているか
- ③万引に誘われたことがあるか
- ④万引をする理由は何か
- ⑤万引で捕まったらどうなるか
- ⑥店は警察に通報すべきか
- ⑦警察は学校に通報すべきか
- ⑧学校は保護者に通報すべきか
- ⑨少年が万引をしなくなるためにはどうすればいいか
- ⑩万引をさせないために店等がやっていること知っているか

しかし、まさにここに盲点があった。こうした設問は万引に関する知識を問うてはいるが、肝心の児童生徒の規範意識に関連する設問がそれほど多くはないのである。言うまでもなく、非行防止教室の目的は、児童生徒がけっして非行や犯罪に走ることがないように、確固とした規範意識を修得させることにある。したがって、こうした観点から見れば、本調査は必ずしも万引防止対策に十分に活用できるとは言い難いのである。

### 2. 規範的知識と規範意識

「規範」という言葉は広い意味で「手本」「模範」を意味し、論理学、文法、科学研究等においても使われるが、この文脈では行為の善悪、正不正の判断基準を意味する。この

狭い意味では、規範意識とは法律や道徳に関する知識（規範的知識）を言うのであるが、規範意識（道徳意識と呼んでもよい）にはそれ以上の意味が込められている。

たとえば、万引常習者は自分の万引行為が発覚したら、間違いなく悪いことをしましたと謝罪をする。少なくとも、彼らは万引が刑法の窃盗罪に当たる犯罪であることを知っている。その上で、彼らは万引を行うのである。このような事態は、古来、「無抑制」（アクラシア）と呼ばれてきた。万引は不正であるという知識はあるが、意志が弱い、目先の欲望に負けたなどの理由で正常な思慮分別を働かせることができないというのである。

このような事態は、現在の言葉で言い換えれば、万引常習者には万引は不正であるという「規範的知識」はあるが、それに従って行為しようとする「規範意識」に欠けている、ということになる。「規範意識」には、規範的知識に行為者を何らかの法律や正しい道徳判断に従って行為するように内面から動機づける力が備わったものと考えられているのである。

「知識」を命題的知識（「万引は窃盗罪に該当する」を知っている）と体得的知識（泳ぎ方や自動車の運転方法を知っている）に分ける考え方があるが、ある意味で「規範意識」は後者に似ている。泳ぎ方を会得している人は、水中に放り出されるなら、必ず泳ぎ続けるであろうし、むしろ泳がないことができないからである。それと同様に、規範意識が身につけている人は、店員の目が届かない場所でも商品を自分の鞆に入れようなどとは思いつかないのである。

しかし、このような言い方には重大な誤解を招く恐れがある。早く泳ぐことができるようにするには、繰り返し練習させることが必要である。それゆえ、意欲のない子やふざけている子は強制的にでも練習させなければならない。このような考え方は容易に体罰やしごきを容認することに繋がる。規範意識の育成とは、児童生徒の人柄=人格を育てることであって、たんなる技術や技法を覚えさせることではない。体罰に頼ることは、どのような状況でも、指導する側の能力の欠如を暴露するにすぎないのである。

本来、知識にはそれに従って行為するように動機づける力が、幾分か備わっている。スーパーの折り込みに安売りの目玉商品が並んでいるのを見れば、多くの人はそれを買に行くであろう。それを買いたい側に、それが必要だという知識やそれが欲しいという欲求があるからである。また、火の不始末は火災の原因となる。この知識は、たとえば、野外でバーベキューを行う際の私たちの行動に一定の制約を課している。私たちには火災を起こしたくないという意欲（起こすべきではないという規範意識）があるからである。

同様に、一回の万引で店舗が受ける損害額は数百円かもしれない。しかし、それが度重なれば損害額も増大する。万引防止教室で指導の任に当たった経験のある者は、この種の指導が児童生徒の規範意識育成に大きな効果を持つことを知っている。問題は、一般的に言って、規範的知識が抽象的であるため、児童生徒の具体的な行動を規制する力が弱い（児童生徒の側に規範意識が育っていない）ということである。



### 3. 規範意識の育成

現行の「小・中学校学習指導要領」は道徳の目的を「道徳的実践力の育成」においている。この「道徳的実践力」が上述の「規範意識」を意味することは言うまでもない。さらに、「道徳的実践力」を、(1)認知的要素（善悪、正邪を弁別する能力）、(2)意志的要素（道徳的心情や道徳的判断によって価値ありとされた行動の身構え、意志の働き）、(3)感情的要素（道徳的価値を望ましいものとして受け入れ、その実現を喜び、これに反することを憎む感情）からなるとしている。この解説は人間の精神的能力を「理性」、「意志」、「感情」に三分しているという点では古色蒼然然であるが、その言おうとするところは十分に説得的である。

というのは、(1)認知的要素だけでは不十分であるし、(2)意志的要素は道徳的な善と同様に、無知のゆえに、また生来の邪悪な性格のために、意図的に悪に向かうこともありうるから、もっとも重要なのは(3)感情的要素である。「感情」は全人格的反応として考えることができるからである。したがって、規範意識の育成と向上という観点から見ると、(1)認知的要素と(2)意志的要素の基礎にあるのが、(3)感情的要素であると考えられる。つまり、市民一般は目の前の商品を「買うか、買わないか」で悩むことはあっても、「盗むべきか、盗むべきではないか」などと考えることはまずありえない。そもそも「盗むべき」は選択の対象にならない。それ以前に、(3)感情的要素、すなわち、行為者の人柄=人格が不正な行為を除外するように機能しているからである。規範意識の育成とは、進んで善をなし不正を憎む人柄=人格の育成に他ならないのである。

もちろん、そのためには何が善で何か不正であるかを、知識として知らなければならぬし、正義をやり抜く意志も不可欠である。さらに、青少年に対する規範意識の育成には、たんに知識レベルでの発達だけでなく、道徳性の発達という観点も欠かすことができない。小学校低学年の児童に万引をしてはいけないことを、刑法とか窃盗罪という概念を用いて説明することには無理がある。

同様に、中学生に規則一辺倒で万引は駄目を繰り返すだけでは反感を買うだけであろう。重要なことは、権威によって法律や道徳を強制することではなく、そうした社会規範を内面化させることであり、進んで社会規範に合致して行動する性向を身につけさせることである。さらには、社会の悪弊を見抜いて、それを打ち破る能力をも修得させなければならない。

このような規範意識を内面化させた有徳な人物の育成こそが、犯罪の少ない善い社会を作り上げるためのもっとも基本的な前提なのである。昨今の厳罰主義的言説の横行は、それなりに理解できる側面もあるが、その提唱者が規範意識をもっぱら外的規範（法律）の遵守として理解し、それだけで望ましい善い社会が実現可能であると考えているのであれば、大きな間違いであると言わざるをえない。

#### 4. 新たな課題への挑戦

調査結果の分析と編集に従事する者として、本調査にはこれまで述べてきたような課題が残されていることを十分に承知していた。しかし、一方では調査の継続性とデータの蓄積も重要な課題である。安易に調査項目を変更したり、調査方法を変えることは許されない。この点に関しては、過去7年間の調査結果の蓄積で、その責めは果たしたと言ってよいであろう。

他方、調査結果の分析を担当する側の能力の問題もある。まずは万引を中軸に据えた青少年の規範意識の調査研究を実施するために十分な能力を備えた研究グループを立ち上げなければならない。そのために、一昨年の調査票の作成の段階から新たな研究グループを組織して質問項目の部分的な見直しを進め、昨年はそのに規範意識の解明に直結する設問を加えた。その一例が、生活満足度に関する設問である。生活満足度に関する調査はすでに幾つか行われているが、本調査では小中高生の生活満足度の高低が、万引などの非行についての規範意識とどのような関連を持っているかに焦点を当てている。

もちろん、本調査の基本的目的に関わる基本的な調査項目は、大きな変更を加えることなく残してある。以上のような次第で、本調査研究は今回から万引を核とする青少年の規範意識の解明を主要な目的として、新たなスタートを切ることになったのである。

この4月以降の新聞報道によれば、全国各地で万引による検挙補導人員における少年と高齢者の占める割合が逆転し始めている。本報告の末尾に掲載した資料にもその傾向をはっきり見て取ることができる。すなわち、全国では平成23年は少年が30.8%で高齢者は25.8%であり、少年の方が5.0ポイント高い。これに対して、平成24年は少年25.9%で高齢者は28.9%であり、高齢者の方が逆に3ポイント高くなっている。

少子高齢化の時代であるから、このこと自体は想定内の範囲内であったが、その背後に注目すべき事実が隠されている。それは、少年の検挙・補導人員の対人口比の著しい減少である。先月入手した情報によれば、新潟県では同世代人口10万に対する少年の検挙補導人員は平成21年140人から平成24年80人へ減少している。北海道でも同じ傾向にあったという。なぜ少年は以前のように万引に手を出さなくなったのか。これはまさに早急に解明すべき謎である。本調査を担当する研究グループがこのような急激な変化を予測してわけではない。しかし、昨年度から調査項目に大きな変更を加えたのは、まさに時機をえた改革であったと言えよう。

#### 5. むすび

さて、「本調査は万引防止対策に活用できるのか。」これが本章の冒頭で提起した主題であった。この問いに対しては、本調査は、我が国の青少年が万引に対してどのように考えているかを、全国統一の多面的な設問によって明らかにし、「行政・警察当局が防犯施策、青少年団体、街の防犯ボランティア活動に資すること」にあった。この目的に関しては、本調査はすでに過去7回の調査結果とその分析によって一定の成果を上げることができたと自負している。

さらに、今回から万引を核とする青少年の規範意識の解明を目的として、設問項目の見直しを行い、調査結果に対して新たな視点からの分析を試みた。そこから、たんに青少年が(1)万引に対してどのように考えているかだけでなく、もう一步踏み込んで、(2)どうしてそのように考えるのかを解明することが可能になると期待される。具体的に言えば、そこに何らかの逸脱が見られるなら、それを通常の社会規範と道徳性の発達という二つの視点から分析し、そのような逸脱に対してどのように対応すればよいのか、またどのように対応すべきなのか、に関する一定の指針を導き出すことができるのである。

簡単に言えば、本調査の調査結果は、上述(2)として述べた視点から万引防止対策の活用することができる。これが本節の問題提起に対する回答である。もちろん、これは調査結果の分析に当たる者の視点からのたんなる期待にすぎない。今回の調査結果の分析が、課題(2)に関してどの程度成功しているかは、関係者各位のご判断を待たなければならない。忌憚のないご意見が驟雨のごとく寄せられることを期待する次第である。

## まとめ — 調査結果の概要 —

### 第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度

(1) 自分自身に関わる事柄について児童生徒がどのような評価をしているか（どの程度満足しているか、不満足か）を7つの項目について尋ねた。それらを生活満足度として比較するために、「とても不満」を-2、「あまり満足していない」を-1、「どちらでもない」を0、「まあまあ満足」を+1、「とても満足」を+2として各項目での満足度評定の平均をとると、以下のような結果となった。なお、7項目全体の生活満足度平均は、小0.78、中0.43、高0.35である。

(2) 小学生について、7項目それぞれの満足度平均を高い順に並べると、第1位は「自分の保護者」(1.29)であり、以下「友達つきあい」(1.05)、「学外活動」(0.92)、「学校での生活」(0.80)、「自分の小遣い」(0.63)、「自分自身」(0.57)、「自分の成績」(0.24)が続く。

(3) 中学生について、同様に並べると、第1位は「友達つきあい」(0.85)であり、以下「自分の保護者」(0.78)、「学校での生活」(0.59)、「学外活動」(0.52)、「自分の小遣い」(0.35)、「自分自身」(0.27)、「自分の成績」(-0.35)が続く。

(4) 高校生について、同様に並べると、中学生と同じく第1位は「友達つきあい」(0.87)であり、以下「自分の保護者」(0.75)、「学校での生活」(0.57)、「自分の小遣い」(0.39)、「学外活動」(0.26)、「自分自身」(0.04)、「自分の成績」(-0.43)が続く。

### 第2章 万引に対する基本的意識

(1) 万引は「絶対やってはいけないこと」とする小学生が96.4%を占めている。これに対して、中学生90.8%、高校生90.5%であり、小学生と中高生の間に差があった。

(2) 万引と他の非行（放置自転車乗り逃げ、未成年の飲酒、未成年の喫煙、いじめ、建物の落書き、暴力）を比べた場合、高校生の飲酒以外、すべて過半数が、万引と同じくらい悪いと回答した。また、「万引のほうが悪い」あるいは「他の非行のほうが悪い」のように、いずれかのほうが悪いという回答した場合を比較検討したところ、小学生、中学生、高校生で、次のような「悪い順の評価」が見られた。小学生：暴力＝いじめ＞未成年喫煙＞万引＞未成年飲酒＞放置自転車乗り逃げ＞落書き、中学生：いじめ＞暴力＞万引＝未成年喫煙＞未成年飲酒＞放置自転車乗り逃げ＞落書き、高校生：いじめ＝暴力＞万引＞未成年喫煙＝放置自転車乗り逃げ＞落書き＞未成年飲酒。万引の位置づけは、小中で喫煙レベル、高校では喫煙より万引のほうが悪いという回答が多くなっている。

(3) 万引をしてはいけない理由として最も多いのは、「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」(小34.8%、中36.7%、高36.3%)、次いで「法律を破ってはいけないから」(小33.6%、中28.4%、高28.6%)であった。

(4) 万引する理由として、小学生で回答者の割合が最も高かったのは「やらないと仲間

外れにされるから」であり（小 36.9%、中 25.1%、高 16.7%）、中学生と高校生では回答者の割合が最も高かったのは「どきどきして楽しいから」（小 16.9%、中 29.4%、高 32.0%）であった。

### 第3章 万引との関わり

(1) 万引を友達に誘われた経験の「ある」者（小 2.4%、中 4.0%、高 2.1%）は、前回調査と同様、全体としては少ない。ただし、地域別に見ると、他と比べて突出しているところがあるのも、前回調査と同様である。

(2) 万引に誘われたときの対処については、小学生は「はっきり断り、万引は犯罪であると注意する」（76.0%）が圧倒的に多いが、中高生は、「はっきり断る」、「あいまいな態度で無視する」を併せると、中 59.8%、高 68.0%になり、誘いにはのらず注意しないと答えた者が多い。

(3) 店員として万引を目撃した場合の対応について、第一位は「子どもに近づいて、商品を返すように言う」（中 56.0%、高 48.9%）である。次いで、「すぐに店長に報告する」（中 18.5%、高 25.7%）、「その子どもが店を出てから、つかまえる」（中 18.5%、高 15.9%）であり、その他、かなり低くなるが、「大声で商品を返すように言う」（中 2.8%、高 1.9%）、「だまって放っておく」（中 3.7%、高 6.9%）という回答であった。

(4) 万引しやすい店については、全体の8割近くが「知らない」（中 80.8%、高 80.3%）と答えているが、残りの2割は「知っている」（中 18.6%、高 19.2%）と答えており、決して少なくはない。

(5) 具体的に万引しやすい店は、「駄菓子屋」（中 28.1%、高 24.5%）、「スーパー」（中 24.7%、高 28.4%）、「コンビニ」（中 16.5%、高 13.4%）、「書店・文具店」（中 6.1%、高 7.7%）、「100円ショップ」（中 5.8%、高 3.4%）、「雑貨・玩具店」（中 5.4%、高 8.0%）、「ドラッグストア・化粧品店」（中 4.6%、高 7.2%）である。

### 第4章 万引少年に対する対応

(1) 万引をした子どもを捕まえた店が警察に通報すべきかについて、「そう思う」が7割程度（中 73.4%、高 68.3%）であり、「そう思わない」が3割程度（中 25.7%、高 31.0%）である。前回調査と比較して、「通報すべき」の割合が下がり、「そう思わない」の割合が上がっている。

(2) この設問に対して「そう思わない」理由の第1位は「犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから」（中 59.0%、高 58.4%）であり、「店にも責任がある」（中 14.8%、高 12.8%）が続く。第3位と第4位は、中学生については「品物は戻るので損害は発生していないから」（12.7%）、「かわいそうだから」（7.6%）であり、高校生については「かわいそうだから」（12.4%）、「品物は戻るので損害は発生していないから」（9.2%）である。そして、第5位以下は、「子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから」（中 2.8%、高 4.0%）、「万引は大した犯罪ではないから」（中 1.7%、高

1.1%)である。

(3) 子どもが万引などの犯罪行為をしないように求められる日頃の保護者の対応の第1位は「子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する」(小54.2%、中53.5%、高48.2%)であり、以下「子どもとよく話すようにする」(小38.7%、中35.4%、高40.3%)、「子どもを大人として対等に扱う」(小5.1%、中9.2%、高10.0%)が続く。何でも子どもの言うとおりにする」は極めて少数であった(小0.6%、中1.0%、高0.7%)。

(4) 万引をした子どもとその保護者がなすべき償いの第1位は「買い取るだけでなく、迷惑料を払うべき」(中32.2%、高27.4%)であり、第2位と第3位は、中学生については、「社会貢献活動をするべき」(21.2%)、「買い取ればよい」(18.9%)であり、高校生については、「買い取ればよい」(21.2%)、「社会貢献活動をするべき」(20.2%)である。第4位以下は、「店への奉仕をするべき」(中16.4%、高18.1%)、「謝罪すればよい」(中7.3%、高7.0%)、「何もする必要はない」(中2.4%、高4.6%)である。

(5) 子どもが万引をしなくなるためにすべきことについては、小中学生で回答傾向が異なっている。小学生では、「学校の授業でとりあげる」と「店づくり」が同率(23.1%)で第1位、以下「警察が取り締まる」(14.0%)、「厳罰化」(13.8%)、「保護者がしつける」(10.5%)が続く。中学生では、「学校の授業でとりあげる」(25.7%)が第1位であり、僅差で「店づくり」(24.7%)が続き、以下「保護者がしつける」「厳罰化」(14.2%)、「警察が取り締まる」(9.3%)が続く。高校生では、「店づくり」(22.6%)が第1位であり、次いで「保護者がしつける」(20.5%)「学校の授業でとりあげる」(20.2%)がほぼ同率で続き、その後を「厳罰化」(17.5%)、「警察が取り締まる」(9.5%)が続く。

(6) 万引防止のために最も効果的だと思う店の取り組みの第1位は「万引防止機の設置」(中32.8%、高34.8%)であり、以下「監視カメラやミラーの設置」(中24.0%、高22.5%)、「挨拶、声かけ」(中22.4%、高20.7%)、「警備員の巡回」(中9.3%、高9.0%)、「万引対策店であることのアピール」(中7.7%、高8.2%)、「警察に全件通報」(中1.8%、高3.2%)、「マイバッグを店内で広げないルール」(中0.9%、高0.6%)が続く。

(7) 万引防止のために最も効果的だと思う学校や警察の取り組みの第1位は「学校での指導」(中59.5%、高53.4%)であり、以下「警察が学校に連絡」(中24.3%、高34.3%)、「中古品買取店が保護者に確認」(中14.2%、高10.5%)が続く。

## 調査票 小学生用

〈万引についての全国青少年意識調査・小学生用〉

\*都道府県名、学校名を記入し、性別には○をつけて下さい。

都道府県名	学校名	性別
		男・女

### 記入についてのお願い

1. この調査は万引に対する考え方を全国の小学生のみなさんからお聞きするために、  
文部科学省・警察庁の協力を得ておこなうものです。
2. 調査の対象校は、都道府県別・規模別に「くじ」でえらんでいます。
3. 下の質問に、あなたの考え方にもっともあてはまる番号をひとつだけえらんで、  
○でかこんで下さい。記入は、鉛筆でもボールペンでもかまいません。  
また、回答したくない質問があれば、番号をえらばなくてもかまいません。
4. 書き終わったら、この用紙を封筒に入れ、封をして出して下さい。
5. この回答から、あなたが誰かわかるようなことはありません。

### 万引（まんびき）とは

「お金をはらわずに、お店の商品を持っていき、自分のものにすること」をいいます。

問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけえらんでください。

1. ぜったいにやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない
3. よくあることで、なにも問題ではない

問2. 万引とほかのこととくらべると、どちらが悪いと思いますか。

次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけえらんでください。

問2-1. 万引と、ほうちじてんしゃ放置自転車の乗り逃げをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. お酒を飲むほうが悪い

問2-3. 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. タバコを吸うほうが悪い

問2-4. 万引と、いじめをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. いじめのほうが悪い

問2-5. 万引と、建物にらくが落書きをすることをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と、人に暴力をふるうことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 暴力のほうが悪い

問3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思ふ理由をひとつだけえらんでください。

1. 保護者や先生がいけないことと言っているから
2. つかまると損だから
3. ばれるとカッコ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. だれが何と言おうと悪いことは悪いから
7. 保護者が悲しむから

問4. 子どもが万引をするのはなぜだと思ひますか。ひとつだけえらんでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れにされるから
4. みんながやっているから
5. 店はたいして損をしないから
6. それほど悪いことではないから

問5. この1年間の間に、あなたは万引をしようとしたことはありますか。ひとつだけえらんでください。

1. ある
2. ない

問6. 友だちから万引をしようとしたら、あなたはどうしますか。ひとつだけえらんでください。

1. 友だちのさそいはことわれないので、なかまに入る
2. 友だちのさそいをあいまいな態度で無視する
3. 友だちのさそいをはっきりことわる
4. 友だちのさそいをはっきりことわり、万引は犯罪であると注意する

問7. あなたは子どもが万引をしなくなるためにどうすればよいと思ひますか。もっとも効果があると思ふことをひとつだけえらんでください。

1. 万引について学校の授業で取り上げる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取りしめるようにする
4. 万引の罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組をやる
6. 万引しにくい店づくりをする
7. 万引した子どもやその保護者から罰金をとる
8. 中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する



問8. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、  
 日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。  
 ひとつだけえらんでください。

1. 子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを大人として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

問9. あなたは問9-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。  
 それぞれ次の数字（1～5）からひとつだけえらんでください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 「とても不満である」  | 2 「あまり満足していない」 |
| 3 「どちらでもない」   | 4 「まあまあ満足している」 |
| 5 「とても満足している」 |                |

問9-1. 自分自身について ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-2. 自分の保護者について ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-3. 学校での生活について ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-4. 自分の成績について ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-5. スポーツや習い事など、  
 学外での活動について ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-6. 自分の小遣いについて ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

問9-7. 友達づきあいについて ( 1不満 2 3どちらでもない 4 5満足 )

以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

## 調査票 中高生用

＜万引に関する全国青少年意識調査・中高生用＞

\*都道府県名、学校名を記入し、性別には○をつけて下さい

都道府県名	学校名	性別
		男・女

### 記入についてのお願い

1. この調査は万引などに対する考え方を全国の中学生・高校生の皆さんからお聞きするために、文部科学省・警察庁の協力を得て実施するものです。
2. 調査の対象校は都道府県別・規模別に無作為に選んでいます。
3. 以下の質問では、あなたの考え方にもっともあてはまる内容の番号をひとつだけ選び、○で囲んでください。記入は鉛筆でもボールペンでもかまいません。もし、回答したくない質問があれば、書かなくてもかまいません。
4. 書き終わったら、この調査票を封筒に入れ、封をして提出して下さい。
5. 調査内容は統計的に処理され、あなたが誰かわかるようなことはありません。

問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 絶対にやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない
3. よくあることで、何も問題はない

問2. 万引と他のいくつかの行為を比べると、どちらが悪いと思いますか。

次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけ選んでください。

問2-1. 万引と、放置自転車の乗り逃げを比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と、未成年者の飲酒を比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 飲酒のほうが悪い

問2-3. 万引と、未成年者の喫煙を比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 喫煙のほうが悪い

問2-4. 万引と、いじめを比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. いじめのほうが悪い

問2-5. 万引と、建物に落書きをすることを比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と、人に暴力をふるうことを比べると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 暴力のほうが悪い

問3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思ふものをひとつだけ選んでください。

1. 保護者や先生がいけないことと言っているから
2. つかまると損だから
3. ばれるとカッコ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. 誰が何と言おうと悪いことは悪いから
7. 保護者が悲しむから

問4. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか。ひとつだけ選んでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れにされるから
4. みんながやっているから
5. 店はたいして損をしないから
6. それほど悪いことではないから

問5. この1年の間に、あなたは万引をしようと誘われたことがありますか。

1. ある
2. ない

問6. 友達から万引しようと誘われたら、あなたはどうしますか。

ひとつだけ選んでください。

1. 友達の誘いは断れないので、仲間に入る
2. 友達の誘いをあいまいな態度で無視する
3. 友達の誘いをはっきり断る
4. 友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する

問7. あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。

ひとつだけ選んでください。

1. すぐに店長に報告する
2. 大声で、その子どもに商品を返すように言う
3. その子どもに近づいて、商品を返すように言う
4. だまって放っておく
5. その子どもが店を出てから、つかまえる

問8. あなたの住んでいる近くで、万引をしやすいと言われている店を知っていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

問8-1. 上の問8で「1. 知っている」と答えた人だけに聞きます。

それはどういう店ですか。ひとつだけ選んでください。

1. スーパー
2. コンビニ
3. ドラッグストア・化粧品店
4. 書店・文具店
5. CD・ゲームソフト店
6. ホームセンター
7. 雑貨・玩具店
8. 衣料品店
9. 100円ショップ
10. スポーツ用品店
11. 家電店
12. デパート
13. 駄菓子屋

問9. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。  
ひとつだけ選んでください。

1. そう思う
2. そう思わない

問9-1. 上の問9で「2. そう思わない」と答えた人だけに聞きます。  
その理由をひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないから
2. 子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから
3. 品物は戻るので損害は発生していないから
4. 店にも責任があるから
5. 犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから
6. かわいそうだから

問10. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、  
日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。  
ひとつだけ選んでください。

1. 子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを大人として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

問11. 万引をした子どもやその保護者はどのような償い<sup>つぐな</sup>をすべきだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい
2. 万引をしようとした商品を買えばよい
3. 商品を買取るだけでなく、迷惑料などを払うべきである
4. 商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである
5. 商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである
6. 特に何かをする必要はない

問12. あなたは子どもが万引をしなくなるためにはどうすればいいと思いますか。  
もっとも効果があると思えることをひとつだけ選んでください。

1. 万引について学校の授業でとりあげる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取り締まるようにする
4. 万引（窃盗）の刑罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組を放映する
6. 万引しにくい店づくりをする
7. 店は万引した子どもやその保護者から罰金、迷惑料などをとる
8. 中古品を買取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する

問13. 店は万引をさせないための取り組みをしていますが、この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

1. 万引防止ポスターを貼るなど、万引対策をしている店であることをアピールしている
2. 「いらっしゃいませ」などの積極的な挨拶や、「何かお探しですか」などの声かけをしている
3. 店内に監視カメラやミラーをつけている
4. 商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している
5. 私服警備員が巡回するなどの監視をしている
6. マイバッグ（持参した買い物袋）を店内で広げないルールを作っている
7. 万引をすべて警察に通報している

問14. 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

1. 学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導し、万引した子どもに対しては万引を繰り返さないための指導をしている
2. 警察は、万引した生徒について、学校に連絡している
3. 本やCDなどの中古品を買い取る店は、中古品を売りに来た18歳未満の者に対して、保護者と一緒に来るように求め、または保護者に電話して確認することを徹底している

問15. あなたは問15-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。それぞれ次の数字（1～5）からひとつだけ選んでください。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 「とても不満である」  | 2 「あまり満足していない」 |
| 3 「どちらでもない」   | 4 「まあまあ満足している」 |
| 5 「とても満足している」 |                |

- |                                  |               |
|----------------------------------|---------------|
| 問15-1. 自分自身について                  | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-2. 自分の保護者について                | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-3. 学校での生活について                | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-4. 自分の成績について                 | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-5. スポーツや習い事など、<br>学外での活動について | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-6. 自分の小遣いについて                | ( 1 2 3 4 5 ) |
| 問15-7. 友達づきあいについて                | ( 1 2 3 4 5 ) |

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 結果の集計表

各問の回答者数（上段）と％（下段）

小中高の間1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけえらんでください。

	性別	人数	ぜったいにやってはいけないこと	きな問題ではない とだが、そんなに大 やっではないけれど	よくあることで、な にも問題ではない	無回答
小学生	合計	2333 100.0	2249 96.4	67 2.9	3 0.1	14 0.6
	男子	1157 100.0	1110 95.9	37 3.2	2 0.2	8 0.7
	女子	1151 100.0	1115 96.9	30 2.6	1 0.1	5 0.4
	無回答	25 100.0	24 96.0	-	-	1 4.0
中学生	合計	4215 100.0	3826 90.8	308 7.3	27 0.6	54 1.3
	男子	2118 100.0	1891 89.3	176 8.3	19 0.9	32 1.5
	女子	2051 100.0	1896 92.4	127 6.2	8 0.4	20 1.0
	無回答	46 100.0	39 84.8	5 10.9	-	2 4.3
高校生	合計	4967 100.0	4497 90.5	375 7.5	22 0.4	73 1.5
	男子	2396 100.0	2088 87.1	248 10.4	17 0.7	43 1.8
	女子	2486 100.0	2336 94.0	122 4.9	3 0.1	25 1.0
	無回答	85 100.0	73 85.9	5 5.9	2 2.4	5 5.9

問2-1. 万引と、放置自転車の乗り逃げをくらべると

	性別	人数	万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	乗り逃げのほう が悪い	無回答
小学生	合計	2333 100.0	535 22.9	1717 73.6	72 3.1	9 0.4
	男子	1157 100.0	276 23.9	829 71.7	46 4.0	6 0.5
	女子	1151 100.0	249 21.6	874 75.9	25 2.2	3 0.3
	無回答	25 100.0	10 40.0	14 56.0	1 4.0	-
中学生	合計	4215 100.0	1175 27.9	2777 65.9	245 5.8	18 0.4
	男子	2118 100.0	591 27.9	1360 64.2	158 7.5	9 0.4
	女子	2051 100.0	571 27.8	1389 67.7	82 4.0	9 0.4
	無回答	46 100.0	13 28.3	28 60.9	5 10.9	-
高校生	合計	4967 100.0	1531 30.8	3097 62.4	246 5.0	93 1.9
	男子	2396 100.0	721 30.1	1475 61.6	163 6.8	37 1.5
	女子	2486 100.0	793 31.9	1566 63.0	77 3.1	50 2.0
	無回答	85 100.0	17 20.0	56 65.9	6 7.1	6 7.1

問 2-2. 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると

	性別	人数	万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	お酒を飲むほう が悪い	無回答
小学生	合計	2333 100.0	707 30.3	1266 54.3	348 14.9	12 0.5
	男子	1157 100.0	408 35.3	550 47.5	194 16.8	5 0.4
	女子	1151 100.0	290 25.2	702 61.0	152 13.2	7 0.6
	無回答	25 100.0	9 36.0	14 56.0	2 8.0	-
中学生	合計	4215 100.0	1501 35.6	2104 49.9	595 14.1	15 0.4
	男子	2118 100.0	778 36.7	994 46.9	337 15.9	9 0.4
	女子	2051 100.0	712 34.7	1082 52.8	251 12.2	6 0.3
	無回答	46 100.0	11 23.9	28 60.9	7 15.2	-
高校生	合計	4967 100.0	2556 51.5	2030 40.9	282 5.7	99 2.0
	男子	2396 100.0	1220 50.9	982 41.0	155 6.5	39 1.6
	女子	2486 100.0	1299 52.3	1014 40.8	120 4.8	53 2.1
	無回答	85 100.0	37 43.5	34 40.0	7 8.2	7 8.2



問2-3. 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると

	性別	人数	万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	タバコを吸う ほうが悪い	無回答
小学生	合計	2333 100.0	354 15.2	1386 59.4	578 24.8	15 0.6
	男子	1157 100.0	201 17.4	641 55.4	307 26.5	8 0.7
	女子	1151 100.0	148 12.9	734 63.8	262 22.8	7 0.6
	無回答	25 100.0	5 20.0	11 44.0	9 36.0	-
中学生	合計	4215 100.0	970 23.0	2369 56.2	863 20.5	13 0.3
	男子	2118 100.0	508 24.0	1114 52.6	490 23.1	6 0.3
	女子	2051 100.0	455 22.2	1226 59.8	363 17.7	7 0.3
	無回答	46 100.0	7 15.2	29 63.0	10 21.7	-
高校生	合計	4967 100.0	1718 34.6	2603 52.4	549 11.1	97 2.0
	男子	2396 100.0	823 34.3	1220 50.9	315 13.1	38 1.6
	女子	2486 100.0	866 34.8	1341 53.9	227 9.1	52 2.1
	無回答	85 100.0	29 34.1	42 49.4	7 8.2	7 8.2

小中高の間2-4. 万引と、いじめをくらべると

	性別	人数	万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	いじめのほう が悪い	無回答
小学生	合計	2333 100.0	289 12.4	1295 55.5	737 31.6	12 0.5
	男子	1157 100.0	189 16.3	579 50.0	382 33.0	7 0.6
	女子	1151 100.0	97 8.4	702 61.0	347 30.1	5 0.4
	無回答	25 100.0	3 12.0	14 56.0	8 32.0	-
中学生	合計	4215 100.0	494 11.7	2162 51.3	1549 36.7	10 0.2
	男子	2118 100.0	286 13.5	975 46.0	853 40.3	4 0.2
	女子	2051 100.0	200 9.8	1172 57.1	673 32.8	6 0.3
	無回答	46 100.0	8 17.4	15 32.6	23 50.0	-
高校生	合計	4967 100.0	468 9.4	2761 55.6	1639 33.0	99 2.0
	男子	2396 100.0	248 10.4	1206 50.3	904 37.7	38 1.6
	女子	2486 100.0	209 8.4	1514 60.9	709 28.5	54 2.2
	無回答	85 100.0	11 12.9	41 48.2	26 30.6	7 8.2

小中高の間 2-5. 万引と、建物に落書きをすることをくらべると

	性別	人数	万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	落書きのほう が悪い	無回答
小学生	合計	2333 100.0	760 32.6	1440 61.7	120 5.1	13 0.6
	男子	1157 100.0	445 38.5	629 54.4	77 6.7	6 0.5
	女子	1151 100.0	307 26.7	794 69.0	43 3.7	7 0.6
	無回答	25 100.0	8 32.0	17 68.0	-	-
中学生	合計	4215 100.0	1510 35.8	2432 57.7	259 6.1	14 0.3
	男子	2118 100.0	823 38.9	1130 53.4	159 7.5	6 0.3
	女子	2051 100.0	668 32.6	1278 62.3	97 4.7	8 0.4
	無回答	46 100.0	19 41.3	24 52.2	3 6.5	-
高校生	合計	4967 100.0	1675 33.7	2994 60.3	205 4.1	93 1.9
	男子	2396 100.0	858 35.8	1362 56.8	140 5.8	36 1.5
	女子	2486 100.0	786 31.6	1587 63.8	63 2.5	50 2.0
	無回答	85 100.0	31 36.5	45 52.9	2 2.4	7 8.2

小中高の間2-6. 万引と、人に暴力をふるうことをくらべると

	性別	人数	万引のほう がい	同じくらい 悪い	暴力のほう がい	無回答
小学生	合計	2333 100.0	229 9.8	1401 60.1	691 29.6	12 0.5
	男子	1157 100.0	141 12.2	653 56.4	358 30.9	5 0.4
	女子	1151 100.0	84 7.3	734 63.8	326 28.3	7 0.6
	無回答	25 100.0	4 16.0	14 56.0	7 28.0	-
中学生	合計	4215 100.0	502 11.9	2324 55.1	1376 32.6	13 0.3
	男子	2118 100.0	344 16.2	1109 52.4	658 31.1	7 0.3
	女子	2051 100.0	150 7.3	1195 58.3	700 34.1	6 0.3
	無回答	46 100.0	8 17.4	20 43.5	18 39.1	-
高校生	合計	4967 100.0	488 9.8	2901 58.4	1484 29.9	94 1.9
	男子	2396 100.0	329 13.7	1291 53.9	740 30.9	36 1.5
	女子	2486 100.0	149 6.0	1570 63.2	716 28.8	51 2.1
	無回答	85 100.0	10 11.8	40 47.1	28 32.9	7 8.2

小中高の間3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思  
理由をひとつだけえらんでください。

	性別	人数	保護者や先生がいけない ことと言っているから	つかまると損だから	ばれるとカッコ悪いから	法律を破ってはいけない から	みんながやると商売が成 り立たなくなるから	だれが何と言おうと悪い ことは悪いから	保護者が悲しむから	無回答
小学生	合計	2333	149	35	6	785	166	811	365	16
		100.0	6.4	1.5	0.3	33.6	7.1	34.8	15.6	0.7
	男子	1157	80	24	5	402	79	365	191	11
		100.0	6.9	2.1	0.4	34.7	6.8	31.5	16.5	1.0
中学生	女子	1151	68	11	1	376	83	437	171	4
		100.0	5.9	1.0	0.1	32.7	7.2	38.0	14.9	0.3
	無回答	25	1			7	4	9	3	1
		100.0	4.0	-	-	28.0	16.0	36.0	12.0	4.0
高校生	合計	4215	163	219	30	1198	549	1545	485	26
		100.0	3.9	5.2	0.7	28.4	13.0	36.7	11.5	0.6
	男子	2118	95	146	21	639	313	636	253	15
		100.0	4.5	6.9	1.0	30.2	14.8	30.0	11.9	0.7
高校生	女子	2051	65	71	9	547	233	891	224	11
		100.0	3.2	3.5	0.4	26.7	11.4	43.4	10.9	0.5
	無回答	46	3	2		12	3	18	8	
		100.0	6.5	4.3	-	26.1	6.5	39.1	17.4	-
高校生	合計	4967	79	236	57	1422	1046	1804	286	37
		100.0	1.6	4.8	1.1	28.6	21.1	36.3	5.8	0.7
	男子	2396	46	163	39	681	506	763	174	24
		100.0	1.9	6.8	1.6	28.4	21.1	31.8	7.3	1.0
高校生	女子	2486	32	67	12	719	529	1007	108	12
		100.0	1.3	2.7	0.5	28.9	21.3	40.5	4.3	0.5
	無回答	85	1	6	6	22	11	34	4	1
		100.0	1.2	7.1	7.1	25.9	12.9	40.0	4.7	1.2

小中高の間4. 子どもが万引をするのはなぜだと思いますか。

ひとつだけえらんでください。

	性別	人数	どきどきして楽しいから	自分もものをとられたことがあるから	やらないと仲間外れにされるから	みんながやっているから	店を壊して損をしないから	それほど悪いことではないから	無回答
小学生	合計	2333	444	195	860	297	103	229	205
		100.0	19.0	8.4	36.9	12.7	4.4	9.8	8.8
	男子	1157	236	104	391	128	64	129	105
		100.0	20.4	9.0	33.8	11.1	5.5	11.1	9.1
	女子	1151	202	89	462	165	35	99	99
		100.0	17.5	7.7	40.1	14.3	3.0	8.6	8.6
	無回答	25	6	2	7	4	4	1	1
		100.0	24.0	8.0	28.0	16.0	16.0	4.0	4.0
中学生	合計	4215	1238	130	1056	886	219	527	159
		100.0	29.4	3.1	25.1	21.0	5.2	12.5	3.8
	男子	2118	653	85	427	450	126	291	86
		100.0	30.8	4.0	20.2	21.2	5.9	13.7	4.1
	女子	2051	577	41	619	423	89	231	71
		100.0	28.1	2.0	30.2	20.6	4.3	11.3	3.5
	無回答	46	8	4	10	13	4	5	2
		100.0	17.4	8.7	21.7	28.3	8.7	10.9	4.3
高校生	合計	4967	1590	124	831	1211	245	822	144
		100.0	32.0	2.5	16.7	24.4	4.9	16.5	2.9
	男子	2396	809	83	300	606	124	397	77
		100.0	33.8	3.5	12.5	25.3	5.2	16.6	3.2
	女子	2486	758	38	519	577	114	419	61
		100.0	30.5	1.5	20.9	23.2	4.6	16.9	2.5
	無回答	85	23	3	12	28	7	6	6
		100.0	27.1	3.5	14.1	32.9	8.2	7.1	7.1

小中高の間5. この1年間の間に、あなたは万引をしようとしたことはありますか。ひとつだけえらんでください。

	性別	人数	ある	ない	無回答
小学生	合計	2333 100.0	57 2.4	2259 96.8	17 0.7
	男子	1157 100.0	32 2.8	1115 96.4	10 0.9
	女子	1151 100.0	25 2.2	1119 97.2	7 0.6
	無回答	25 100.0	-	25 100.0	-
中学生	合計	4215 100.0	168 4.0	3948 93.7	99 2.3
	男子	2118 100.0	122 5.8	1932 91.2	64 3.0
	女子	2051 100.0	43 2.1	1975 96.3	33 1.6
	無回答	46 100.0	3 6.5	41 89.1	2 4.3
高校生	合計	4967 100.0	103 2.1	4802 96.7	62 1.2
	男子	2396 100.0	74 3.1	2280 95.2	42 1.8
	女子	2486 100.0	23 0.9	2446 98.4	17 0.7
	無回答	85 100.0	6 7.1	76 89.4	3 3.5

小中高の間6. 友だちから万引をしようときそわれたら、  
あなたはどうしますか。ひとつだけえらんでください。

	性別	人数	友達の誘いは断れないので、仲間に入る	友達の誘いをあいまいな態度で無視する	友達の誘いははっきり断る	友達の誘いははっきり断り、万引は犯罪であると注意する	無回答
小学生	合計	2333 100.0	12 0.5	159 6.8	381 16.3	1772 76.0	9 0.4
	男子	1157 100.0	4 0.3	79 6.8	196 16.9	872 75.4	6 0.5
	女子	1151 100.0	8 0.7	78 6.8	180 15.6	882 76.6	3 0.3
	無回答	25 100.0	-	2 8.0	5 20.0	18 72.0	-
中学生	合計	4215 100.0	81 1.9	887 21.0	1634 38.8	1571 37.3	42 1.0
	男子	2118 100.0	60 2.8	452 21.3	839 39.6	739 34.9	28 1.3
	女子	2051 100.0	20 1.0	424 20.7	779 38.0	814 39.7	14 0.7
	無回答	46 100.0	1 2.2	11 23.9	16 34.8	18 39.1	-
高校生	合計	4967 100.0	61 1.2	1098 22.1	2282 45.9	1492 30.0	34 0.7
	男子	2396 100.0	53 2.2	625 26.1	1091 45.5	603 25.2	24 1.0
	女子	2486 100.0	5 0.2	452 18.2	1154 46.4	866 34.8	9 0.4
	無回答	85 100.0	3 3.5	21 24.7	37 43.5	23 27.1	1 1.2



小の間7, 中高の間1 2. あなたは子どもが万引をしなくなるためにどうすればよいと思いますか。もっとも効果があると思うことをひとつだけえらんでください。

	性別	人数	万引について学校の授業でとりあげる	保護者は子どもが万引をしないようにしつける	警察が積極的に取り締まるようにする	万引(窃盗)の刑罰を重くする	テレビで万引に関する番組を放映する	万引しにくい店づくりをする	店は万引した子どもや保護者から罰金、迷惑料などをとる	中古品買取店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する	無回答
小学生	合計	2333 100.0	540 23.1	244 10.5	326 14.0	321 13.8	194 8.3	540 23.1	77 3.3	62 2.7	29 1.2
	男子	1157 100.0	237 20.5	129 11.1	175 15.1	197 17.0	93 8.0	250 21.6	42 3.6	21 1.8	13 1.1
	女子	1151 100.0	297 25.8	111 9.6	149 12.9	122 10.6	99 8.6	283 24.6	35 3.0	40 3.5	15 1.3
	無回答	25 100.0	6 24.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	7 28.0	-	1 4.0	1 4.0
中学生	合計	4215 100.0	1085 25.7	597 14.2	391 9.3	598 14.2	252 6.0	1043 24.7	147 3.5	58 1.4	44 1.0
	男子	2118 100.0	513 24.2	273 12.9	223 10.5	360 17.0	123 5.8	493 23.3	78 3.7	33 1.6	22 1.0
	女子	2051 100.0	556 27.1	318 15.5	162 7.9	233 11.4	125 6.1	544 26.5	69 3.4	24 1.2	20 1.0
	無回答	46 100.0	16 34.8	6 13.0	6 13.0	5 10.9	4 8.7	6 13.0	-	1 2.2	2 4.3
高校生	合計	4967 100.0	1005 20.2	1020 20.5	472 9.5	869 17.5	240 4.8	1125 22.6	158 3.2	38 0.8	40 0.8
	男子	2396 100.0	446 18.6	459 19.2	259 10.8	448 18.7	104 4.3	558 23.3	80 3.3	19 0.8	23 1.0
	女子	2486 100.0	545 21.9	549 22.1	205 8.2	407 16.4	131 5.3	540 21.7	75 3.0	18 0.7	16 0.6
	無回答	85 100.0	14 16.5	12 14.1	8 9.4	14 16.5	5 5.9	27 31.8	3 3.5	1 1.2	1 1.2

小の間8，中高の間10．保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけえらんでください。

	性別	人数	子どもが間違っ たことを注 意する	何でも子ども の言うとお りにする	子どもを大人 として対 等に扱う	子どもとよく 話すよう にする	無回答
小学生	合計	2333 100.0	1265 54.2	15 0.6	119 5.1	903 38.7	31 1.3
	男子	1157 100.0	648 56.0	11 1.0	63 5.4	415 35.9	20 1.7
	女子	1151 100.0	605 52.6	4 0.3	54 4.7	478 41.5	10 0.9
	無回答	25 100.0	12 48.0	-	2 8.0	10 40.0	1 4.0
中学生	合計	4215 100.0	2256 53.5	42 1.0	389 9.2	1491 35.4	37 0.9
	男子	2118 100.0	1111 52.5	31 1.5	248 11.7	708 33.4	20 0.9
	女子	2051 100.0	1115 54.4	11 0.5	136 6.6	773 37.7	16 0.8
	無回答	46 100.0	30 65.2	-	5 10.9	10 21.7	1 2.2
高校生	合計	4967 100.0	2395 48.2	35 0.7	499 10.0	2002 40.3	36 0.7
	男子	2396 100.0	1152 48.1	31 1.3	269 11.2	921 38.4	23 1.0
	女子	2486 100.0	1200 48.3	4 0.2	220 8.8	1050 42.2	12 0.5
	無回答	85 100.0	43 50.6	-	10 11.8	31 36.5	1 1.2

小の間9（中高の間15）．あなたは問9（15）－1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。

それぞれ次の数字（1～5）からひとつだけえらんでください。

- 1「とても不満である」 2「あまり満足していない」 3「どちらでもない」  
4「まあまあ満足している」 5「とても満足している」

（以下の表の右端には、それぞれを-2から+2まで点数化した平均を示した）

問9（15）－1．自分自身について

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333	116	202	774	671	547	23	0.58
		100.0	5.0	8.7	33.2	28.8	23.4	1.0	
	男子	1157	61	93	381	315	292	15	0.60
		100.0	5.3	8.0	32.9	27.2	25.2	1.3	
中学生	女子	1151	54	107	388	347	248	7	0.55
		100.0	4.7	9.3	33.7	30.1	21.5	0.6	
	無回答	25	1	2	5	9	7	1	0.79
		100.0	4.0	8.0	20.0	36.0	28.0	4.0	
高校生	合計	4215	240	421	1949	1056	486	63	0.27
		100.0	5.7	10.0	46.2	25.1	11.5	1.5	
	男子	2118	105	168	956	574	282	33	0.36
		100.0	5.0	7.9	45.1	27.1	13.3	1.6	
高校生	女子	2051	133	250	973	470	196	29	0.17
		100.0	6.5	12.2	47.4	22.9	9.6	1.4	
	無回答	46	2	3	20	12	8	1	0.47
		100.0	4.3	6.5	43.5	26.1	17.4	2.2	
高校生	合計	4967	402	809	2271	1031	381	73	0.04
		100.0	8.1	16.3	45.7	20.8	7.7	1.5	
	男子	2396	184	330	1100	526	217	39	0.11
		100.0	7.7	13.8	45.9	22.0	9.1	1.6	
高校生	女子	2486	208	467	1138	491	150	32	-0.04
		100.0	8.4	18.8	45.8	19.8	6.0	1.3	
	無回答	85	10	12	33	14	14	2	0.12
		100.0	11.8	14.1	38.8	16.5	16.5	2.4	

問9 (15) - 2. 自分の保護者について

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333 100.0	47 2.0	82 3.5	356 15.3	465 19.9	1358 58.2	25 1.1	1.30
	男子	1157 100.0	27 2.3	38 3.3	193 16.7	229 19.8	651 56.3	19 1.6	1.26
	女子	1151 100.0	20 1.7	43 3.7	160 13.9	232 20.2	691 60.0	5 0.4	1.34
	無回答	25 100.0	-	1 4.0	3 12.0	4 16.0	16 64.0	1 4.0	1.46
中学生	合計	4215 100.0	151 3.6	244 5.8	1211 28.7	1244 29.5	1304 30.9	61 1.4	0.80
	男子	2118 100.0	87 4.1	121 5.7	683 32.2	572 27.0	621 29.3	34 1.6	0.73
	女子	2051 100.0	63 3.1	120 5.9	511 24.9	664 32.4	667 32.5	26 1.3	0.87
	無回答	46 100.0	1 2.2	3 6.5	17 37.0	8 17.4	16 34.8	1 2.2	0.78
高校生	合計	4967 100.0	165 3.3	266 5.4	1520 30.6	1563 31.5	1379 27.8	74 1.5	0.76
	男子	2396 100.0	91 3.8	122 5.1	844 35.2	653 27.3	646 27.0	40 1.7	0.70
	女子	2486 100.0	73 2.9	141 5.7	648 26.1	883 35.5	709 28.5	32 1.3	0.82
	無回答	85 100.0	1 1.2	3 3.5	28 32.9	27 31.8	24 28.2	2 2.4	0.84

問9 (15) - 3. 学校での生活について

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333 100.0	103 4.4	205 8.8	501 21.5	709 30.4	784 33.6	31 1.3	0.81
	男子	1157 100.0	56 4.8	101 8.7	256 22.1	347 30.0	373 32.2	24 2.1	0.78
	女子	1151 100.0	46 4.0	102 8.9	242 21.0	353 30.7	402 34.9	6 0.5	0.84
	無回答	25 100.0	1 4.0	2 8.0	3 12.0	9 36.0	9 36.0	1 4.0	0.96
中学生	合計	4215 100.0	175 4.2	339 8.0	1387 32.9	1295 30.7	950 22.5	69 1.6	0.60
	男子	2118 100.0	89 4.2	147 6.9	729 34.4	616 29.1	497 23.5	40 1.9	0.62
	女子	2051 100.0	85 4.1	186 9.1	645 31.4	668 32.6	439 21.4	28 1.4	0.59
	無回答	46 100.0	1 2.2	6 13.0	13 28.3	11 23.9	14 30.4	1 2.2	0.69
高校生	合計	4967 100.0	179 3.6	388 7.8	1688 34.0	1712 34.5	925 18.6	75 1.5	0.58
	男子	2396 100.0	95 4.0	168 7.0	868 36.2	752 31.4	472 19.7	41 1.7	0.57
	女子	2486 100.0	81 3.3	217 8.7	790 31.8	937 37.7	429 17.3	32 1.3	0.58
	無回答	85 100.0	3 3.5	3 3.5	30 35.3	23 27.1	24 28.2	2 2.4	0.75

問9 (15) - 4. 自分の成績について

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333 100.0	232 9.9	361 15.5	673 28.8	681 29.2	345 14.8	41 1.8	0.24
	男子	1157 100.0	111 9.6	155 13.4	334 28.9	343 29.6	185 16.0	29 2.5	0.30
	女子	1151 100.0	120 10.4	201 17.5	331 28.8	334 29.0	154 13.4	11 1.0	0.18
	無回答	25 100.0	1 4.0	5 20.0	8 32.0	4 16.0	6 24.0	1 4.0	0.38
中学生	合計	4215 100.0	681 16.2	1144 27.1	1440 34.2	710 16.8	173 4.1	67 1.6	-0.35
	男子	2118 100.0	320 15.1	542 25.6	749 35.4	362 17.1	108 5.1	37 1.7	-0.29
	女子	2051 100.0	354 17.3	591 28.8	672 32.8	343 16.7	62 3.0	29 1.4	-0.41
	無回答	46 100.0	7 15.2	11 23.9	19 41.3	5 10.9	3 6.5	1 2.2	-0.31
高校生	合計	4967 100.0	864 17.4	1397 28.1	1835 36.9	617 12.4	180 3.6	74 1.5	-0.44
	男子	2396 100.0	410 17.1	604 25.2	941 39.3	294 12.3	107 4.5	40 1.7	-0.39
	女子	2486 100.0	439 17.7	775 31.2	865 34.8	310 12.5	65 2.6	32 1.3	-0.49
	無回答	85 100.0	15 17.6	18 21.2	29 34.1	13 15.3	8 9.4	2 2.4	-0.23

問9 (15) - 5. スポーツや習い事など、学外での活動について

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333 100.0	79 3.4	143 6.1	569 24.4	565 24.2	936 40.1	41 1.8	0.93
	男子	1157 100.0	42 3.6	80 6.9	262 22.6	260 22.5	484 41.8	29 2.5	0.94
	女子	1151 100.0	37 3.2	62 5.4	301 26.2	297 25.8	443 38.5	11 1.0	0.92
	無回答	25 100.0	-	1 4.0	6 24.0	8 32.0	9 36.0	1 4.0	1.04
中学生	合計	4215 100.0	177 4.2	394 9.3	1559 37.0	1108 26.3	906 21.5	71 1.7	0.52
	男子	2118 100.0	84 4.0	187 8.8	754 35.6	561 26.5	495 23.4	37 1.7	0.57
	女子	2051 100.0	92 4.5	203 9.9	791 38.6	535 26.1	397 19.4	33 1.6	0.47
	無回答	46 100.0	1 2.2	4 8.7	14 30.4	12 26.1	14 30.4	1 2.2	0.76
高校生	合計	4967 100.0	254 5.1	576 11.6	2278 45.9	1178 23.7	605 12.2	76 1.5	0.27
	男子	2396 100.0	155 6.5	259 10.8	1075 44.9	558 23.3	308 12.9	41 1.7	0.26
	女子	2486 100.0	95 3.8	308 12.4	1173 47.2	600 24.1	277 11.1	33 1.3	0.27
	無回答	85 100.0	4 4.7	9 10.6	30 35.3	20 23.5	20 23.5	2 2.4	0.52

問9 (15) - 6. 自分の小遣いについて

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無 回 答	平均
小学生	合計	2333 100.0	187 8.0	205 8.8	688 29.5	366 15.7	841 36.0	46 2.0	0.64
	男子	1157 100.0	115 9.9	110 9.5	328 28.3	180 15.6	397 34.3	27 2.3	0.56
	女子	1151 100.0	72 6.3	94 8.2	348 30.2	185 16.1	434 37.7	18 1.6	0.72
	無回答	25 100.0	-	1 4.0	12 48.0	1 4.0	10 40.0	1 4.0	0.83
中学生	合計	4215 100.0	356 8.4	434 10.3	1624 38.5	833 19.8	899 21.3	69 1.6	0.36
	男子	2118 100.0	208 9.8	222 10.5	776 36.6	429 20.3	448 21.2	35 1.7	0.33
	女子	2051 100.0	143 7.0	209 10.2	833 40.6	396 19.3	437 21.3	33 1.6	0.38
	無回答	46 100.0	5 10.9	3 6.5	15 32.6	8 17.4	14 30.4	1 2.2	0.51
高校生	合計	4967 100.0	299 6.0	469 9.4	2061 41.5	1119 22.5	946 19.0	73 1.5	0.40
	男子	2396 100.0	174 7.3	210 8.8	1014 42.3	492 20.5	466 19.4	40 1.7	0.37
	女子	2486 100.0	118 4.7	255 10.3	1015 40.8	614 24.7	453 18.2	31 1.2	0.42
	無回答	85 100.0	7 8.2	4 4.7	32 37.6	13 15.3	27 31.8	2 2.4	0.59



問9 (15) - 7. 友達づきあいについて

	性別	人数	1 (-2)	2 (-1)	3 (0)	4 (+1)	5 (+2)	無回答	平均
小学生	合計	2333 100.0	94 4.0	156 6.7	403 17.3	533 22.8	1128 48.3	19 0.8	1.06
	男子	1157 100.0	38 3.3	64 5.5	204 17.6	233 20.1	603 52.1	15 1.3	1.14
	女子	1151 100.0	55 4.8	90 7.8	197 17.1	295 25.6	511 44.4	3 0.3	0.97
	無回答	25 100.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	5 20.0	14 56.0	1 4.0	1.21
中学生	合計	4215 100.0	132 3.1	227 5.4	1146 27.2	1229 29.2	1417 33.6	64 1.5	0.86
	男子	2118 100.0	59 2.8	77 3.6	593 28.0	585 27.6	770 36.4	34 1.6	0.93
	女子	2051 100.0	73 3.6	148 7.2	539 26.3	632 30.8	630 30.7	29 1.4	0.79
	無回答	46 100.0	- -	2 4.3	14 30.4	12 26.1	17 37.0	1 2.2	0.98
高校生	合計	4967 100.0	115 2.3	219 4.4	1385 27.9	1587 32.0	1588 32.0	73 1.5	0.88
	男子	2396 100.0	76 3.2	94 3.9	744 31.1	688 28.7	755 31.5	39 1.6	0.83
	女子	2486 100.0	38 1.5	125 5.0	608 24.5	881 35.4	802 32.3	32 1.3	0.93
	無回答	85 100.0	1 1.2	- -	33 38.8	18 21.2	31 36.5	2 2.4	0.94

問9 (15) 1～7の総平均は、小学生 0.91、中学生 0.50、高校生 0.41

以下は中高のみへの質問

中高の間7. あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。ひとつだけ選んでください。

	性別	人数	すぐに店長に報告する	大声で、その子どもに商品 品を返すように言う	その子どもに近づいて、 商品を返すように言う	だまって放っておく	その子どもが店を出てか ら、つかまえる	無回答
中学生	合計	4215 100.0	780 18.5	120 2.8	2359 56.0	154 3.7	778 18.5	24 0.6
	男子	2118 100.0	309 14.6	83 3.9	1110 52.4	91 4.3	510 24.1	15 0.7
	女子	2051 100.0	462 22.5	35 1.7	1225 59.7	61 3.0	259 12.6	9 0.4
	無回答	46 100.0	9 19.6	2 4.3	24 52.2	2 4.3	9 19.6	-
高校生	合計	4967 100.0	1279 25.7	93 1.9	2427 48.9	345 6.9	788 15.9	35 0.7
	男子	2396 100.0	431 18.0	71 3.0	1173 49.0	217 9.1	479 20.0	25 1.0
	女子	2486 100.0	831 33.4	18 0.7	1216 48.9	119 4.8	293 11.8	9 0.4
	無回答	85 100.0	17 20.0	4 4.7	38 44.7	9 10.6	16 18.8	1 1.2

中高の間8. あなたの住んでいる近くで、万引をしやすいと言われている店を知っていますか。ひとつだけ選んでください。

	性別	人数	知っている	知らない	無回答
中学生	合計	4215 100.0	782 18.6	3407 80.8	26 0.6
	男子	2118 100.0	424 20.0	1677 79.2	17 0.8
	女子	2051 100.0	349 17.0	1693 82.5	9 0.4
	無回答	46 100.0	9 19.6	37 80.4	-
高校生	合計	4967 100.0	955 19.2	3990 80.3	22 0.4
	男子	2396 100.0	517 21.6	1862 77.7	17 0.7
	女子	2486 100.0	412 16.6	2070 83.3	4 0.2
	無回答	85 100.0	26 30.6	58 68.2	1 1.2

中高の間8-1. 上の問8で「1. 知っている」と答えた人だけに聞きます。  
それはどういう店ですか。ひとつだけ選んでください。

	性別	人数	スーパー	コンビニ	ドラッグストア・化粧品店	書店・文具店	CD・ゲームソフト店	ホームセンター	雑貨・玩具店	衣料品店	100円ショップ	スポーツ用品店	家電店	デパート	駄菓子屋	無回答
中学生	合計	782	193	129	36	48	22	5	42	1	45	3	4	26	220	8
		100.0	24.7	16.5	4.6	6.1	2.8	0.6	5.4	0.1	5.8	0.4	0.5	3.3	28.1	1.0
	男子	424	97	75	14	22	16	4	12		26	1	2	14	137	4
		100.0	22.9	17.7	3.3	5.2	3.8	0.9	2.8	-	6.1	0.2	0.5	3.3	32.3	0.9
	女子	349	93	52	22	26	6	1	30	1	19	2	2	10	81	4
		100.0	26.6	14.9	6.3	7.4	1.7	0.3	8.6	0.3	5.4	0.6	0.6	2.9	23.2	1.1
	無回答	9	3	2										2	2	
		100.0	33.3	22.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22.2	22.2	-
高校生	合計	955	271	128	69	74	14	21	76	7	32	3	4	16	234	6
		100.0	28.4	13.4	7.2	7.7	1.5	2.2	8.0	0.7	3.4	0.3	0.4	1.7	24.5	0.6
	男子	517	154	73	25	43	7	13	32	2	14	2	3	5	141	3
		100.0	29.8	14.1	4.8	8.3	1.4	2.5	6.2	0.4	2.7	0.4	0.6	1.0	27.3	0.6
	女子	412	108	50	44	27	7	7	43	5	18	1	1	11	87	3
		100.0	26.2	12.1	10.7	6.6	1.7	1.7	10.4	1.2	4.4	0.2	0.2	2.7	21.1	0.7
	無回答	26	9	5		4		1	1						6	
		100.0	34.6	19.2	-	15.4	-	3.8	3.8	-	-	-	-	-	23.1	-

中高の間9. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。  
ひとつだけ選んでください。

	性別	人数	そう 思う	な い そう 思わ	無 回 答
中学生	合計	4215 100.0	3094 73.4	1083 25.7	38 0.9
	男子	2118 100.0	1529 72.2	571 27.0	18 0.8
	女子	2051 100.0	1535 74.8	496 24.2	20 1.0
	無回答	46 100.0	30 65.2	16 34.8	-
高校生	合計	4967 100.0	3391 68.3	1538 31.0	38 0.8
	男子	2396 100.0	1554 64.9	820 34.2	22 0.9
	女子	2486 100.0	1780 71.6	691 27.8	15 0.6
	無回答	85 100.0	57 67.1	27 31.8	1 1.2

中高の間9-1. 上の問9で「2. そう思わない」と答えた人だけに聞きます。その理由をひとつだけ選んでください。

	性別	人数	万引は大した犯罪ではないから	子どもなら誰でもやることであり、そのうちやめるから	品物は戻るので損害は発生していないから	店にも責任があるから	犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから	かわいそうだから	無回答
中学生	合計	1083	18	31	138	160	639	82	15
		100.0	1.7	2.9	12.7	14.8	59.0	7.6	1.4
	男子	571	14	21	68	80	333	50	5
		100.0	2.5	3.7	11.9	14.0	58.3	8.8	0.9
	女子	496	4	9	69	78	295	31	10
		100.0	0.8	1.8	13.9	15.7	59.5	6.3	2.0
	無回答	16		1	1	2	11	1	
		100.0	-	6.3	6.3	12.5	68.8	6.3	-
高校生	合計	1538	17	61	142	197	898	190	33
		100.0	1.1	4.0	9.2	12.8	58.4	12.4	2.1
	男子	820	9	35	55	113	481	114	13
		100.0	1.1	4.3	6.7	13.8	58.7	13.9	1.6
	女子	691	7	24	84	80	402	74	20
		100.0	1.0	3.5	12.2	11.6	58.2	10.7	2.9
	無回答	27	1	2	3	4	15	2	
		100.0	3.7	7.4	11.1	14.8	55.6	7.4	-

中高の間11. 万引をした子どもやその保護者はどのような償(つぐな)いをすべきだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

	性別	人数	万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい	万引をしようとした商品を買 い取ればよい	商品を買取ただけでなく、迷惑料などを払うべきである	商品を買取して、店への奉仕をするべきである	商品を買取して、社会貢献活動をするべきである	特に何かをする必要はない	無回答
中学生	合計	4215 100.0	307 7.3	796 18.9	1358 32.2	691 16.4	895 21.2	100 2.4	68 1.6
	男子	2118 100.0	182 8.6	345 16.3	727 34.3	342 16.1	433 20.4	56 2.6	33 1.6
	女子	2051 100.0	124 6.0	443 21.6	619 30.2	343 16.7	448 21.8	40 2.0	34 1.7
	無回答	46 100.0	1 2.2	8 17.4	12 26.1	6 13.0	14 30.4	4 8.7	1 2.2
高校生	合計	4967 100.0	347 7.0	1051 21.2	1359 27.4	898 18.1	1001 20.2	230 4.6	81 1.6
	男子	2396 100.0	206 8.6	483 20.2	673 28.1	391 16.3	464 19.4	141 5.9	38 1.6
	女子	2486 100.0	136 5.5	548 22.0	664 26.7	489 19.7	521 21.0	88 3.5	40 1.6
	無回答	85 100.0	5 5.9	20 23.5	22 25.9	18 21.2	16 18.8	1 1.2	3 3.5

中高の間13. 店は万引をさせないための取り組みをしていますが、  
この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

	性別	人数	万引対策をしている店であることをアピールしている	積極的な挨拶、声かけをしている	店内に監視カメラやミラーをつけている	商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している	私服警備員が巡回するなどの監視をしている	マイバッグを店内で広げないルールを作っている	万引をすべて警察に通報している	無回答
中学生	合計	4215 100.0	325 7.7	943 22.4	1012 24.0	1383 32.8	392 9.3	39 0.9	75 1.8	46 1.1
	男子	2118 100.0	173 8.2	454 21.4	542 25.6	634 29.9	223 10.5	25 1.2	38 1.8	29 1.4
	女子	2051 100.0	149 7.3	478 23.3	456 22.2	734 35.8	168 8.2	14 0.7	36 1.8	16 0.8
	無回答	46 100.0	3 6.5	11 23.9	14 30.4	15 32.6	1 2.2	-	1 2.2	1 2.2
高校生	合計	4967 100.0	405 8.2	1029 20.7	1116 22.5	1727 34.8	445 9.0	32 0.6	160 3.2	53 1.1
	男子	2396 100.0	235 9.8	482 20.1	607 25.3	679 28.3	245 10.2	19 0.8	98 4.1	31 1.3
	女子	2486 100.0	164 6.6	531 21.4	492 19.8	1022 41.1	188 7.6	13 0.5	56 2.3	20 0.8
	無回答	85 100.0	6 7.1	16 18.8	17 20.0	26 30.6	12 14.1	-	6 7.1	2 2.4



中高の間14. 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

	性別	人数	学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導すること	警察は、万引した生徒について、学校に連絡している	中古品買取店は18歳未満の者に対して保護者に確認をする	無回答
中学生	合計	4215 100.0	2509 59.5	1023 24.3	599 14.2	84 2.0
	男子	2118 100.0	1184 55.9	587 27.7	300 14.2	47 2.2
	女子	2051 100.0	1294 63.1	431 21.0	291 14.2	35 1.7
	無回答	46 100.0	31 67.4	5 10.9	8 17.4	2 4.3
高校生	合計	4967 100.0	2654 53.4	1705 34.3	522 10.5	86 1.7
	男子	2396 100.0	1195 49.9	893 37.3	269 11.2	39 1.6
	女子	2486 100.0	1414 56.9	781 31.4	246 9.9	45 1.8
	無回答	85 100.0	45 52.9	31 36.5	7 8.2	2 2.4

## 結果の集計表（順位相関表）

本表の計算には、SPSS ver. 20 を用いた。回答選択肢が順位尺度と考えられる設問同士の順位相関（スピアマンのロー）をすべて記載した。順位尺度化の説明は本文参照のこと。

### 問 2 - 1 ~ 6 の相関係数（小学生）

	問 2 - 2. 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると、どちらが悪いと思いますか	問 2 - 3. 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると、どちらが悪いと思いますか	問 2 - 4. 万引と、いじめをくらべると、どちらが悪いと思いますか	問 2 - 5. 万引と、建物に落書きをすることをくらべると、どちらが悪いと思いますか	問 2 - 6. 万引と、人に暴力をふるうことをくらべると、どちらが悪いと思いますか
問 2 - 1. 万引と、放置自転車の乗り逃げをくらべると、どちらが悪いと思いますか	相関係数 有意確率 (両側) N .096** .000 2317	.097** .000 2314	.057** .006 2315	.191** .000 2316	.057** .006 2317
問 2 - 2. 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると、どちらが悪いと思いますか	相関係数 有意確率 (両側) N	.503** .000 2315	.094** .000 2314	.149** .000 2315	.125** .000 2316
問 2 - 3. 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると、どちらが悪いと思いますか	相関係数 有意確率 (両側) N		.144** .000 2312	.067** .001 2313	.197** .000 2314
問 2 - 4. 万引と、いじめをくらべると、どちらが悪いと思いますか	相関係数 有意確率 (両側) N			.055** .008 2314	.460** .000 2315
問 2 - 5. 万引と、建物に落書きをすることをくらべると、どちらが悪いと思いますか	相関係数 有意確率 (両側) N				.109** .000 2315

問 2-1～6 の相関係数 (中学生)

	問 2-2. 万引と、未 成年者の飲 酒を比べる と、どちら が悪くと思 いますか	問 2-3. 万引と、未 成年者の喫 煙を比べる と、どちら が悪くと思 いますか	問 2-4. 万引と、い じめを比べ ると、どち らが悪くと思 いますか	問 2-5. 万引と、建 物に落書き をすること を比べる と、どちら が悪くと思 いますか	問 2-6. 万引と、人 に暴力をふ るうことを 比べると、 どちらが悪 くと思いま すか	
問 2-1. 万引と、放置 自転車の乗り逃げを比 べると、どちらが悪くと思 いますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4194	<b>.093**</b> .000 4193	<b>.074**</b> .000 4196	<b>.070**</b> .000 4193	<b>.195**</b> .000 4193	<b>.036*</b> .020 4194
問 2-2. 万引と、未成 年者の飲酒を比べると、 どちらが悪くと思いま すか	相関係数 有意確率 (両側) N	<b>.606**</b> 0.000 4197	<b>.053**</b> .001 4199	<b>.142**</b> .000 4196	<b>.079**</b> .000 4198	
問 2-3. 万引と、未成 年者の喫煙を比べると、 どちらが悪くと思いま すか	相関係数 有意確率 (両側) N		<b>.119**</b> .000 4200	<b>.081**</b> .000 4196	<b>.126**</b> .000 4199	
問 2-4. 万引と、いじ めを比べると、どちらが 悪くと思えますか	相関係数 有意確率 (両側) N			<b>.057**</b> .000 4199	<b>.437**</b> .000 4201	
問 2-5. 万引と、建物 に落書きをすることを 比べると、どちらが悪 くと思えますか	相関係数 有意確率 (両側) N				<b>.108**</b> .000 4198	

\*\*．相関係数は 1% 水準で有意 (片側)

\*．相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

問 2 - 1 ~ 6 の相関係数 (高校生)

	問 2 - 2. 万引と、未 成年者の飲 酒を比べる と、どちら が悪くと思 いますか	問 2 - 3. 万引と、未 成年者の喫 煙を比べる と、どちら が悪くと思 いますか	問 2 - 4. 万引と、い じめを比べ ると、どち らが悪くと思 いますか	問 2 - 5. 万引と、建 物に落書き をすること を比べると、 どちらが 悪くと思 いますか	問 2 - 6. 万引と、人 に暴力をふ るうことを 比べると、 どちらが悪 くと思いま すか	
問 2 - 1. 万引と、放 置自転車の乗り逃げを 比べると、どちらが悪 くと思えますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4865	<b>.199**</b> .000 4867	<b>.151**</b> .000 4865	<b>.080**</b> .000 4865	<b>.232**</b> .000 4871	<b>.052**</b> .000 4870
問 2 - 2. 万引と、未 成年者の飲酒を比べる と、どちらが悪くと思 えますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4865	<b>.625**</b> 0.000 4865	<b>.013</b> .378 4862	<b>.203**</b> .000 4868	<b>.041**</b> .004 4867	
問 2 - 3. 万引と、未 成年者の喫煙を比べる と、どちらが悪くと思 えますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4864		<b>.104**</b> .000 4864	<b>.125**</b> .000 4870	<b>.126**</b> .000 4869	
問 2 - 4. 万引と、い じめを比べると、どち らが悪くと思えますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4868			<b>.064**</b> .000 4868	<b>.500**</b> .000 4867	
問 2 - 5. 万引と、建 物に落書きをすること を比べると、どちらが 悪くと思えますか	相関係数 有意確率 (両側) N 4873				<b>.085**</b> .000 4873	

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意 (片側)

(小) 問9-1～7の相関係数(小学生)

	問9-2. 満足度/ 自分の保 護者	問9-3. 満足度/ 学校での 生活	問9-4. 満足度/ 自分の成 績	問9-5. 満足度/ スポーツ や習い事 など、学外 での活動	問9-6. 満足度/ 自分の小 遣い	問9-7. 満足度/ 友達づき あい
問9-1. 満足度/ 自分自身	相関係数 <b>.466**</b>	相関係数 <b>.448**</b>	相関係数 <b>.432**</b>	相関係数 <b>.387**</b>	相関係数 <b>.343**</b>	相関係数 <b>.368**</b>
	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000
	N 2302	N 2294	N 2284	N 2284	N 2279	N 2305
問9-2. 満足度/ 自分の保護者		相関係数 <b>.407**</b>	相関係数 <b>.264**</b>	相関係数 <b>.352**</b>	相関係数 <b>.363**</b>	相関係数 <b>.368**</b>
		有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000
		N 2295	N 2284	N 2285	N 2280	N 2305
問9-3. 満足度/ 学校での生活			相関係数 <b>.363**</b>	相関係数 <b>.399**</b>	相関係数 <b>.300**</b>	相関係数 <b>.533**</b>
			有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000
			N 2278	N 2279	N 2273	N 2299
問9-4. 満足度/ 自分の成績				相関係数 <b>.293**</b>	相関係数 <b>.281**</b>	相関係数 <b>.266**</b>
				有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000
				N 2269	N 2265	N 2289
問9-5. 満足度/ スポーツや習い事な ど、学外での活動					相関係数 <b>.293**</b>	相関係数 <b>.356**</b>
					有意確率 (両側) .000	有意確率 (両側) .000
					N 2266	N 2290
問9-6. 満足度/ 自分の小遣い						相関係数 <b>.282**</b>
						有意確率 (両側) .000
						N 2284

\*\*．相関係数は 1% 水準で有意 (片側)

(中高) 問15-1～7の相関係数(中学生)

		問15- 2. 満足度 ／自分の保 護者	問15- 3. 満足度 ／学校の 生活	問15- 4. 満足度 ／自分の成 績	問15- 5. 満足度 ／スポーツ や習い事な ど、学外で の活動	問15- 6. 満足度 ／自分の小 遣い	問15- 7. 満足度 ／友達づき あい
問15-1. 満足度／自 分自身	相関係数	<b>.475**</b>	<b>.507**</b>	<b>.364**</b>	<b>.405**</b>	<b>.311**</b>	<b>.410**</b>
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	4148	4142	4143	4139	4140	4147
問15-2. 満足度／自 分の保護者	相関係数		<b>.475**</b>	<b>.223**</b>	<b>.368**</b>	<b>.459**</b>	<b>.426**</b>
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000	.000	.000
	N		4141	4144	4140	4142	4147
問15-3. 満足度／学 校での生活	相関係数			<b>.279**</b>	<b>.441**</b>	<b>.319**</b>	<b>.614**</b>
	有意確率 (両側)			.000	.000	.000	0.000
	N			4137	4134	4134	4141
問15-4. 満足度／自 分の成績	相関係数				<b>.279**</b>	<b>.235**</b>	<b>.184**</b>
	有意確率 (両側)				.000	.000	.000
	N				4136	4138	4143
問15-5. 満足度／ス ポーツや習い事など、学 外での活動	相関係数					<b>.340**</b>	<b>.432**</b>
	有意確率 (両側)					.000	.000
	N					4134	4139
問15-6. 満足度／自 分の小遣い	相関係数						<b>.361**</b>
	有意確率 (両側)						.000
	N						4141

\*\*．相関係数は 1% 水準で有意 (片側)

(中高) 問15-1～7の相関係数(高校生)

		問15- 2. 満足度 ／自分の 保護者	問15- 3. 満足度 ／学校で の生活	問15- 4. 満足度 ／自分の 成績	問15- 5. 満足度 ／スポー ツや習い 事など、学 外での活 動	問15- 6. 満足度 ／自分の 小遣い	問15- 7. 満足度 ／友達づ きあい
問15-1. 満足度 ／自分自身	相関係数 有意確率 (両側) N	<b>.353**</b> .000 4891	<b>.413**</b> .000 4889	<b>.431**</b> .000 4890	<b>.373**</b> .000 4888	<b>.269**</b> .000 4891	<b>.327**</b> .000 4893
問15-2. 満足度 ／自分の保護者	相関係数 有意確率 (両側) N		<b>.445**</b> .000 4888	<b>.115**</b> .000 4889	<b>.309**</b> .000 4886	<b>.455**</b> .000 4890	<b>.437**</b> .000 4891
問15-3. 満足度 ／学校での生活	相関係数 有意確率 (両側) N			<b>.225**</b> .000 4889	<b>.410**</b> .000 4886	<b>.355**</b> .000 4890	<b>.622**</b> 0.000 4890
問15-4. 満足度 ／自分の成績	相関係数 有意確率 (両側) N				<b>.313**</b> .000 4887	<b>.171**</b> .000 4891	<b>.106**</b> .000 4891
問15-5. 満足度 ／スポーツや習い事 など、学外での活動	相関係数 有意確率 (両側) N					<b>.346**</b> .000 4888	<b>.386**</b> .000 4889
問15-6. 満足度 ／自分の小遣い	相関係数 有意確率 (両側) N						<b>.387**</b> .000 4892

\*\*．相関係数は1%水準で有意(片側)

順位づけた項目間の相関係数(小学生)

		問 3 A. 万引 をしてはい けない理由 順位で並べ 替え	問 4 A. 子ど もが万引を するのはな ぜだと思 いますか 順 位で並べ替 え	問 9 の満足 度合計
問 1. 万引についてあなたはど のように考えていますか	相関係数 有意確率 (両側) N	<b>.002</b> .939 2303	<b>-.022</b> .301 2115	<b>-.140**</b> .000 2319
問 3 A. 万引をしてはいけない 理由 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N		<b>.004</b> .841 2119	<b>.017</b> .419 2317
問 4 A. 子どもが万引をするの はなぜだと思えますか 順位 で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N			<b>.004</b> .860 2128

\*\* . 相関係数は 1% 水準で有意 (片側)



順位づけた項目間の相関係数（中学生）

		問3A. 万引をしてはいけない理由 道徳的段階 順位で並べ替え	問4A. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか 順位で並べ替え	問9-1A. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思わない理由 順位で並べ替え	問11A. 万引をした子どもやその保護者ほどのような償いをすべきだと思いますか 順位で並べ替え	問15満足度 合計
問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか	相関係数 有意確率 (両側) N	<b>-.026</b> .095 4140	<b>.011</b> .477 4008	<b>-.131**</b> .000 1053	<b>-.157**</b> .000 4100	<b>-.157**</b> .000 4161
問3A. 万引をしてはいけない理由 道徳的段階 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N		<b>.036*</b> .021 4048	<b>.049</b> .107 1066	<b>.072**</b> .000 4141	<b>.011</b> .480 4189
問4A. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N			<b>-.005</b> .878 1039	<b>-.018</b> .257 4023	<b>.019</b> .237 4056
問9-1A. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思わない理由 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N				<b>.049</b> .111 1063	<b>.032</b> .292 1068
問11A. 万引をした子どもやその保護者ほどのような償いをすべきだと思いますか 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N					<b>.132**</b> .000 4147

\*\*．相関係数は 1% 水準で有意（片側）

\*．相関係数は 1% 水準で有意（両側）

順位づけた項目間の相関係数（高校生）

		問3A. 万引をしてはいけない理由 順位で並べ替え	問4A. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか 順位で並べ替え	問9-1A. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思わない理由 順位で並べ替え	問11A. 万引をした子どもやその保護者はどのような償いをすべきだと思いますか 順位で並べ替え	問15 満足度合計
問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか	相関係数 有意確率 (両側) N	<b>-.061**</b> .000 4860	<b>-.004</b> .781 4894	<b>-.035</b> .174 1479	<b>-.153**</b> .000 4816	<b>-.108**</b> .000 4894
問3A. 万引をしてはいけない理由 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N		<b>.048**</b> .001 4930	<b>-.001</b> .970 1502	<b>.095**</b> .000 4873	<b>.065**</b> .000 4930
問4A. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N			<b>-.028</b> .284 1505	<b>-.003</b> .824 4886	<b>-.002</b> .901 4967
問9-1A. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思わない理由 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N				<b>.120**</b> .000 1494	<b>.021</b> .415 1505
問11A. 万引をした子どもやその保護者はどのような償いをすべきだと思いますか 順位で並べ替え	相関係数 有意確率 (両側) N					<b>.079**</b> .000 4886

\*\* . 相関係数は 1% 水準で有意 (片側)



## 全国万引統計 平成24年

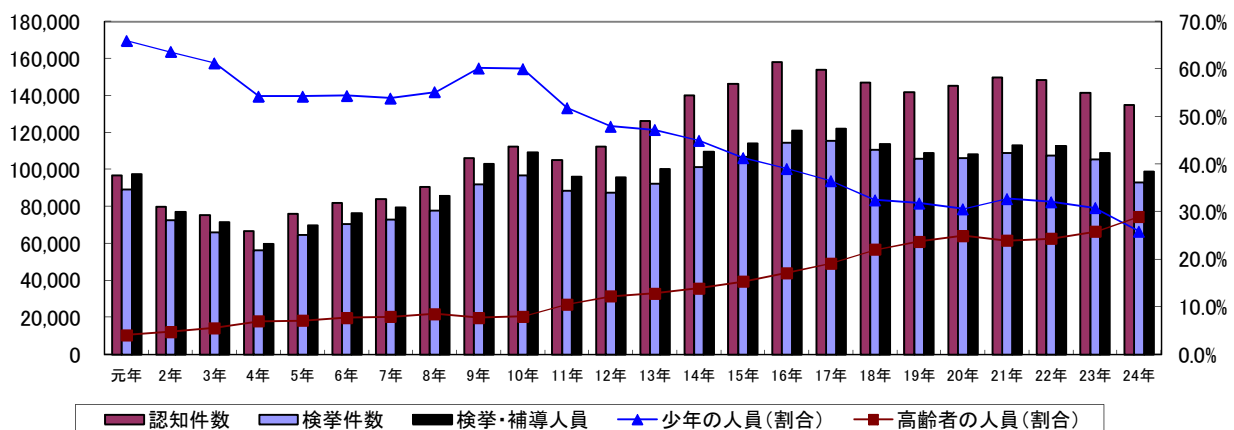
全国	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
認知件数	96,662	79,910	75,385	66,852	76,027	82,000	84,131	90,496	106,181	112,237	105,227	112,559
検挙件数	89,090	72,706	66,082	56,370	64,786	70,600	72,927	77,940	91,870	96,828	88,532	87,366
検挙・補導人員	97,521	77,198	71,507	59,681	69,946	76,254	79,658	85,670	102,895	109,330	96,256	95,626
女	49,240	41,373	36,449	30,774	33,607	36,718	38,399	40,852	50,485	51,460	42,835	42,391
男	48,281	35,825	35,058	28,907	36,339	39,536	41,259	44,818	52,410	57,870	53,421	53,235
成人	29,238	24,421	23,713	23,165	27,066	28,950	30,454	31,205	33,084	35,044	36,310	38,185
成人女	17,088	14,412	13,589	12,635	14,109	14,967	15,654	16,015	16,919	17,354	16,814	17,004
成人男	12,150	10,009	10,124	10,530	12,957	13,983	14,800	15,190	16,165	17,690	19,496	21,181
成人の割合(割合)	30.0%	31.6%	33.2%	38.8%	38.7%	38.0%	38.2%	36.4%	32.2%	32.1%	37.7%	39.9%
少年	64,296	49,102	43,815	32,369	37,932	41,488	42,915	47,224	61,890	65,635	49,869	45,790
少年女	29,950	24,923	20,643	15,928	16,924	18,785	19,610	21,328	29,706	29,891	21,318	19,928
少年男	34,346	24,179	23,172	16,441	21,008	22,703	23,305	25,896	32,184	35,744	28,551	25,862
少年の人員(割合)	65.9%	63.6%	61.3%	54.2%	54.2%	54.4%	53.9%	55.1%	60.1%	60.0%	51.8%	47.9%
高齢者	3,987	3,675	3,979	4,147	4,948	5,816	6,289	7,241	7,921	8,651	10,077	11,651
高齢者女	2,202	2,038	2,217	2,211	2,574	2,966	3,135	3,509	3,860	4,215	4,703	5,459
高齢者男	1,785	1,637	1,762	1,936	2,374	2,850	3,154	3,732	4,061	4,436	5,374	6,192
高齢者の人員(割合)	4.1%	4.8%	5.6%	6.9%	7.1%	7.6%	7.9%	8.5%	7.7%	7.9%	10.5%	12.2%

東京都	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
認知件数	11,271	8,747	8,328	7,672	8,287	7,893	7,235	7,004	6,813	6,899	7,718	9,283
検挙件数	10,150	7,407	6,829	5,924	6,488	6,423	5,907	5,582	5,358	4,611	5,352	5,912
検挙・補導人員	10,468	7,767	7,256	5,910	6,587	6,699	6,139	5,550	5,257	4,909	5,564	6,078
女	5,226	4,011	3,511	2,916	3,243	3,182	2,870	2,499	2,368	2,068	2,329	2,537
男	5,242	3,756	3,745	2,994	3,344	3,517	3,269	3,051	2,889	2,841	3,235	3,541
成人	4,474	3,563	3,445	3,143	3,538	3,472	3,273	3,065	2,784	2,645	3,136	3,625
成人女	2,371	1,869	1,743	1,547	1,735	1,629	1,508	1,444	1,319	1,182	1,311	1,549
成人男	2,103	1,694	1,702	1,596	1,803	1,843	1,765	1,621	1,465	1,463	1,825	2,076
成人の割合(割合)	42.7%	45.9%	47.5%	53.2%	53.7%	51.8%	53.3%	55.2%	53.0%	53.9%	56.4%	59.6%
少年	5,728	3,932	3,523	2,520	2,760	2,929	2,545	2,169	2,205	2,076	2,092	1,993
少年女	2,685	1,968	1,595	1,237	1,351	1,388	1,196	905	911	776	838	716
少年男	3,043	1,964	1,928	1,283	1,409	1,541	1,349	1,264	1,294	1,300	1,254	1,277
少年の人員(割合)	54.7%	50.6%	48.6%	42.6%	41.9%	43.7%	41.5%	39.1%	41.9%	42.3%	37.6%	32.8%
高齢者	266	272	288	247	289	298	321	316	268	188	336	460
高齢者女	170	174	173	132	157	165	166	150	138	110	180	272
高齢者男	96	98	115	115	132	133	155	166	130	78	156	188
高齢者の人員(割合)	2.5%	3.5%	4.0%	4.2%	4.4%	4.4%	5.2%	5.7%	5.1%	3.8%	6.0%	7.6%

件・人

【全国】



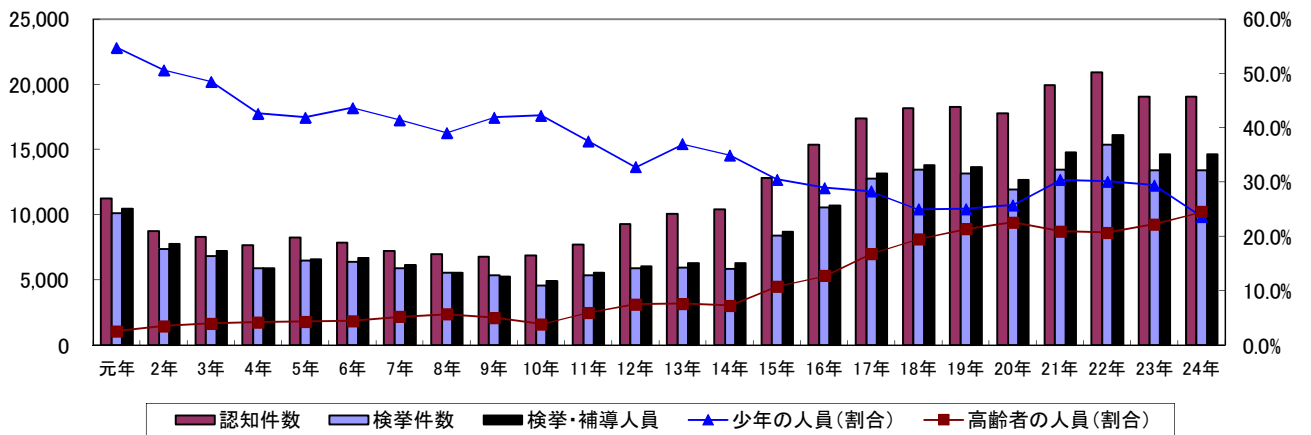
## 東京都万引統計 平成24年

13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	全国
126,110	140,002	146,308	158,020	153,972	147,113	141,915	145,429	149,892	148,371	141,562	134,876	認知件数
92,319	101,445	106,925	114,465	115,636	110,723	105,774	105,986	108,802	107,684	104,516	93,079	検挙件数
100,340	109,522	114,260	121,136	121,914	113,866	108,993	108,307	113,083	112,614	108,838	99,055	検挙・補導人員
45,311	48,977	49,782	52,642	52,689	48,688	47,629	45,506	44,578	44,949	43,037	39,270	女
55,029	60,545	64,478	68,494	69,225	65,178	61,364	62,801	68,505	67,665	65,801	59,785	男
40,143	45,134	49,627	53,204	54,220	51,874	48,464	48,186	49,056	49,078	47,270	44,733	成人
17,533	19,624	20,645	22,703	23,431	22,059	20,894	20,326	19,880	20,263	19,395	18,308	成人女
22,610	25,510	28,982	30,501	30,789	29,815	27,570	27,860	29,176	28,815	27,875	26,425	成人男
40.0%	41.2%	43.4%	43.9%	44.5%	45.6%	44.5%	44.5%	43.4%	43.6%	43.4%	45.2%	成人の割合(割合)
47,357	49,214	47,177	47,265	44,442	36,932	34,675	33,106	37,008	36,174	33,502	25,649	少年
21,645	22,174	20,991	20,166	18,124	14,659	14,226	12,448	11,946	11,482	10,352	7,480	少年女
25,712	27,040	26,186	27,099	26,318	22,273	20,449	20,658	25,062	24,692	23,150	18,169	少年男
47.2%	44.9%	41.3%	39.0%	36.5%	32.4%	31.8%	30.6%	32.7%	32.1%	30.8%	25.9%	少年の人員(割合)
12,840	15,174	17,456	20,667	23,252	25,060	25,854	27,015	27,019	27,362	28,066	28,673	高齢者
6,133	7,179	8,146	9,773	11,134	11,970	12,509	12,732	12,752	13,204	13,290	13,482	高齢者女
6,707	7,995	9,310	10,894	12,118	13,090	13,345	14,283	14,267	14,158	14,776	15,191	高齢者男
12.8%	13.9%	15.3%	17.1%	19.1%	22.0%	23.7%	24.9%	23.9%	24.3%	25.8%	28.9%	高齢者の人員(割合)

13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	警視庁
10,063	10,423	12,842	15,386	17,395	18,166	18,297	17,816	19,955	20,929	19,079	17,915	認知件数
5,974	5,867	8,397	10,572	12,773	13,475	13,197	11,953	13,495	15,374	13,406	12,589	検挙件数
6,310	6,296	8,706	10,738	13,173	13,826	13,656	12,695	14,819	16,129	14,668	13,535	検挙・補導人員
2,686	2,726	3,846	4,650	5,838	6,081	5,997	5,530	5,821	6,206	5,694	5,278	女
3,624	3,570	4,860	6,088	7,335	7,745	7,659	7,165	8,998	9,922	8,974	8,257	男
3,493	3,635	5,115	6,258	7,227	7,662	7,317	6,551	7,200	7,923	7,080	7,017	成人
1,471	1,539	2,149	2,617	3,179	3,402	3,227	2,888	2,921	3,187	2,880	2,830	成人女
2,022	2,096	2,966	3,641	4,048	4,260	4,090	3,663	4,279	4,736	4,200	4,187	成人男
55.4%	57.7%	58.8%	58.3%	54.9%	55.4%	53.6%	51.6%	48.6%	49.1%	48.3%	51.8%	成人の割合(割合)
2,337	2,201	2,652	3,110	3,729	3,459	3,421	3,276	4,509	4,857	4,322	3,197	少年
952	940	1,211	1,317	1,495	1,300	1,287	1,204	1,324	1,404	1,292	946	少年女
1,385	1,261	1,441	1,793	2,234	2,159	2,134	2,072	3,185	3,453	3,030	2,251	少年男
37.0%	35.0%	30.5%	29.0%	28.3%	25.0%	25.1%	25.8%	30.4%	30.1%	29.5%	23.6%	少年の人員(割合)
480	460	939	1,370	2,217	2,705	2,918	2,868	3,110	3,348	3,266	3,321	高齢者
263	247	486	716	1,164	1,379	1,483	1,438	1,576	1,615	1,522	1,502	高齢者女
217	213	453	654	1,053	1,326	1,435	1,430	1,534	1,733	1,744	1,819	高齢者男
7.6%	7.3%	10.8%	12.8%	16.8%	19.6%	21.4%	22.6%	21.0%	20.8%	22.3%	24.5%	高齢者の人員(割合)

件・人

【東京都内】



## あとがき

先ずは本報告書の編集という機会を与えていただいた皆様に、とりわけ全国万引犯罪防止機構理事長河上和雄氏と事務局長福井昂氏に心からお礼の言葉を申し上げたい。この調査は今回で8回目となるが、経年変化を眺めるためには、地道な努力の継続が不可欠である。その努力を続けてこられた機構に敬意を表するものである。

昨年(2019年)の第7回報告書から、桜美林大学の坂井昭宏氏、京都大学(当時は東京大学)の児玉聡氏、南山大学の奥田太郎氏を含めた四人体制で作成している。このコラボレーションによって、以前とは異なり「かなりつっこんだ」報告書ができあがるようになった。

昨年(2019年)の第7回報告書では、単一回答方式の採用など、それまでの調査とは異なったフェーズに入ったと実感したものの、不満な点はそこかしこにあった。それらの点を議論するために、昨年(2019年)の夏には南山大学で、とてつもなく暑い中、二日間にわたり活発な議論をおこなった。その議論の経緯はともかくとして、その結果、今回の質問紙は大幅な改訂となったのである。

改訂のポイントは三つある。一つめは、質問項目数を必要最低限に精選することである。これは回答者である小学生・中学生・高校生の負担を軽減するのが目的である。このような質問紙では質問項目が多くなると、回答に疲れたり、飽きたりして、回答がおざなりになるきらいがある。そのため、これまで7年にわたる調査でほとんど分布変化のない項目については、5年に一回程度の調査で済むと考えて削除しつつ、重要と思える項目は修正を加えて残した。結果として、設問数はこれまでの7割程度にまで減少した。

二つめは、青少年が考える万引の位置づけを明確にすることである。はたして、小中高の生徒にとって、万引は他の逸脱行為・禁止行為と比べて「悪さ」の軽重関係をどのように考えているのであろうか。この疑問を直接的に調べる方法はなかなかむずかしい。われわれが工夫した方法は、他の禁止行為と個別に万引を比較していくことによって、万引を原点にした指標を作ることであった。データとしては、「同じくらい悪い」という回答が占める割合と、「万引のほうが悪い」回答を分母として「もう一方のほうが悪い」回答を分子とした比率という二本立ての指標となったが、それなりの位置づけができたと思う。今後、より適切な指標について検討したい問題である。

三つめは、万引に関する質問に対する回答を、青少年の日常的な満足度判断という観点から眺めてみようという工夫である。小学生の間9・中高生の間15では、「自分自身」、「学校」、「友達」、「保護者」などに対する満足度を5段階で評定してもらった。これらは自尊心などの心理学的概念とむすびついており、実際、この満足度平均が高い場合には、他の質問での回答が社会的に望ましい傾向があり、満足度が低い場合には、他の質問での回答が社会的に望ましくない傾向があることがわかった。この質問

項目は順序尺度以上で適用できる統計的手法が可能であり、巻末の相関表でわかるように、成績だけが他の項目との相関が低い。今回の分析では、すべての項目の平均を生活満足度の尺度値として用いたが、成績を別立てとするなりの方法で、あらためて分析してみたいと考えている。

本文執筆は、第1章と第4章を奥田氏が、第2章と第3章を児玉氏が、第5章を坂井氏が担当した。この担当は「主として」という言葉がつく。四人のメンバーがすべての原稿に目を通し、一ヶ月にわたる修正を続けた結果だからである。いわゆる分担執筆とは違う総力戦である。質問紙の改訂と相俟って、心理学的な質問項目設定に倫理学者の視点が導入されていて、興味深い話題が多く盛り込まれたと自負している。

特に、第5章で坂井氏には、規範知識と規範意識の関係について論じてもらった。この話題は、初めて担当した一昨年第6回報告書の「調査結果の分析を終えて」で筆者が書いた印象を、今回坂井氏が進展させたものである。「規範意識の育成を図る」というスローガンにはさまざまな場面でお目にかかるが、常に腑に落ちないものがある。本調査結果が万引防止、ひいては青少年犯罪の防止に活用できるかどうかは、実は、「規範意識の育成」を標榜する側すなわち、本調査を活用する側、青少年を教育する側の状況理解にかかっているのではなかろうか。

最後になるが、筆者がもっとも大きな関心をもつのは、今回の質問紙で心理学的な概念と言える「満足度」の評定を取り入れ、多くの設問で日常的な生活満足度との関係を分析し、興味深い事実を指摘したことである。満足度に関する心理学的研究はこれまで多くおこなわれている。たとえばベネッセ教育研究開発センターが2004年と2009年におこなった「子ども生活実態基本調査」は、サンプル数が多いこと、満足度の低いのは「現在の自分の成績」「自分の性格」「今の日本の社会」と指摘していることなど、本調査結果と共通するところがある。ただし、従来の満足度調査は青少年の特徴抽出という観点からおこなわれることが多く、本調査のように、青少年が自分自身ならびに家庭環境、学校・友人関係などに対してどれくらい満足しているかが社会的な禁止行為・逸脱行為に対する態度に関係している、という観点はない。これは従来の満足度調査と異なった、今回の調査の新たな広がりと言えるであろう。

毎年五月はこの調査の分析に携わることになり、昨年から大阪に居を移しての作業となった。坂井氏・児玉氏・奥田氏という三人の倫理学者との連日の深夜に及ぶメールによる議論は、拙宅近くを流れる淀川の夜空に三匹の龍が舞い駆け巡っているような視覚的イメージをもたらした。倫理学者と心理学者の協力であり、また闘いでもあった。苦しくも楽しい一ヶ月でありました。多謝。

瀧川 哲夫  
平成25年6月1日





第八回  
万引に関する全国青少年意識調査・分析報告書  
平成 25 年 6 月発行

特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

編集 瀧川哲夫（北海道大学名誉教授）

坂井昭宏（桜美林大学教授）

児玉 聡（京都大学准教授）

奥田太郎（南山大学准教授）

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-2-8 中村ビル

TEL: 03-3355-2322 FAX: 03-3355-2344

URL: <http://www.manboukikou.jp/>

